

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	カッポウホリジンホクショウダガク 学校法人北翔大学									
フリガナ大学の名称	ホクショウダガク 北翔大学									
大学本部の位置	北海道江別市文京台23番地									
大学の目的	北翔大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、本学の教育の理念である「愛と和と英知」を根本にすえ、広く知識を授け、実践を重視した専門の学芸を教育研究するとともに、真理探究の精神と幅広い教養を身につけた創造性豊かな人材を育成し、もって文化の向上、社会の福祉及び地域の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科は、豊かな人間性と幅広い教養をもち、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門知識と実践技術を修得し、生涯スポーツ社会の実現に貢献できる人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	※学士（社会福祉学）の学位については、本学「社会福祉士受験資格取得に関する履修規程」で定める科目を修めて社会福祉士受験資格を得た者に授与する。
	生涯スポーツ学部	年	人	年次人	人	学士（スポーツ科学）	教育学・保育学関係、体育関係	年 月 第 年次	北海道江別市 文京台23番地	
	生涯スポーツ学科	4	220	3年次 15	910	学士（社会福祉学）※	社会学・社会福祉学関係	令和8年4月 第1年次 令和10年4月 第3年次		
計		220	3年次 15	910						
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科（廃止）（△180） （3年次編入学定員）（△10） 健康福祉学科（廃止）（△40） （3年次編入学定員）（△5） ※令和8年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）		
新設	生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科	教授	准教授	講師	助教	計	人	人		
		18 (19)	11 (12)	9 (8)	0 (0)	38 (39)	0 (0)	124 (124)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (19)	11 (12)	9 (8)	0 (0)	38 (39)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	18 (19)	11 (12)	9 (8)	0 (0)	38 (39)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	18 (19)	11 (12)	9 (8)	0 (0)	38 (39)					
分 計	18 (19)	11 (12)	9 (8)	0 (0)	38 (39)	0 (0)			124 (124)	

既	教育文化学部 教育学科	12 (12)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	67 (67)			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	28 (28)	/	/			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	12 (12)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	28 (28)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	12 (12)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	28 (28)					
	教育文化学部 芸術学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			0 (0)	71 (71)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)					
	教育文化学部 心理カウンセリング学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)					0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	/					/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)						
計	25 (25)	17 (17)	9 (9)	0 (0)	51 (51)		0 (0)	180 (180)			
合 計	43 (44)	28 (29)	18 (17)	0 (0)	89 (90)		0 (0)	304 (304)			
分											

職 種		専 属		その他		計		
事 務 職 員		72 (72)		22 (22)		94 (94)		
技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
図 書 館 職 員		4 (4)		1 (1)		5 (5)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		76 (76)		23 (23)		99 (99)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	2,375.00 m ²	121,279.00 m ²	0 m ²		123,654.00 m ²		
	そ の 他	0 m ²	2,349.59 m ²	0 m ²		2,349.59 m ²		
	合 計	2,375.00 m ²	123,628.59 m ²	0 m ²		126,003.59 m ²		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
		28,382.43 m ²	19,558.67 m ²	4,398.67 m ²		52,339.77 m ²		
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	221室	教 員 研 究 室		109室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 冊	機械・器具 点	標本 点	
	生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科	41,894 [2,050] (39,774 [2,019])	232 [48] (163 [45])	5,918 [4,212] (5,918 [4,212])	5,860 [4,212] (5,860 [4,212])	0 (0)	0 (0)	
	計	41,894 [2,050] (39,774 [2,019])	232 [48] (163 [45])	5,918 [4,212] (5,918 [4,212])	5,860 [4,212] (5,860 [4,212])	0 (0)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚生補導施設			
		12,097.89m ²		0 m ²	2,803.42m ²			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—	—
	共同研究費等		9,890千円	9,890千円	9,890千円	9,890千円	—	—
	図 書 購 入 費	8,540千円	8,540千円	8,540千円	8,540千円	8,540千円	—	—
	設 備 購 入 費	37,750千円	37,750千円	37,750千円	37,750千円	37,750千円	—	—
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,410千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

既設大学等の状況	大学等の名称	北翔大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	生涯スポーツ学部						1.06		北海道江別市文京台23番地
	スポーツ教育学科	4	180人	3年次10人	740	学士(スポーツ教育学)	1.12	平成21年度	
	健康福祉学科	4	40人	3年次5人	170	学士(健康福祉学)	0.84	平成26年度	
	教育文化学部						1.14		
	教育学科	4	120人	3年次10人	500	学士(教育学)	1.15	平成26年度	
	芸術学科	4	50人	3年次5人	210	学士(芸術学)	1.09	平成26年度	
	心理カウンセリング学科	4	50人	3年次5人	210	学士(心理カウンセリング学)	1.17	平成26年度	
大学等の名称	北翔大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
臨床心理学研究科						0.75		北海道江別市文京台23番地	
臨床心理学専攻(修士課程)	2	4人	—	8	修士(臨床心理学)	0.75	平成15年度		
生涯学習学研究科						1.00			
生涯学習学専攻(修士課程)	2	6人	—	12	修士(生涯学習学)	1.00	平成16年度		
生涯スポーツ学研究科						1.19			
生涯スポーツ学専攻(修士課程)	2	6人	—	12	修士(スポーツ科学)	1.16	平成25年度		
生涯スポーツ学専攻(博士課程)	3	3人	—	9	博士(スポーツ科学)	1.22	令和3年度		
大学等の名称	北翔大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
こども学科	2	110	—	220	短期大学士(こども学)	0.65	平成17年度	北海道江別市文京台23番地	
専攻科	1	60	—	60	該当なし	—	昭和42年度		
附属施設の概要	名称：北方圏学術情報センター 目的：北方圏における地域福祉・生活文化の向上に関する研究 所在地：北海道札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 設置年月：平成13年4月 規模等：土地2,375.00㎡、建物8,689.43㎡				名称：スポル 目的：北方圏における人間科学・地域に関する研究 所在地：北海道江別市文京台23番地 設置年月：平成17年4月 規模等：土地82,343.00㎡(全体)建物11,603.95㎡				

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以上
導入科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	○	1				○		19	12	8			0	
	基礎教育セミナーⅡ	1後	○	1				○		19	12	8			0	
基礎科目	日本語表現	1前		1				○				1			7	オムニバス
	数学入門	1後		1				○		1		1			6	オムニバス
	情報機器操作Ⅰ	1前		2					○						3	
	情報機器操作Ⅱ	1後		2					○						3	
	健康体育(実技を含む)	4前			2			○			1				0	集中/※実技
	英語コミュニケーションⅠ	1前		2					○						2	
外国語科目	英語コミュニケーションⅡ	1後			2				○						2	
	英語(中級)	2前			2				○						1	
	英語(上級)	2後			2				○						1	
	韓国語	2前			2				○						2	
	中国語	2前			2				○						1	
	ドイツ語	2前			2				○						1	
	フランス語	2前			2				○						1	
	スペイン語	2前			2				○						1	
全学共通科目	現代生活と政治・経済	2前			2				○						1	
	現代生活と法律	2前			2				○						1	
	現代生活と福祉	2前			2				○						1	
	現代生活と芸術	2前			2				○					2	共同	
	現代生活と教育	2前			2				○					1		
	現代生活と心と体	2後			2				○	1				0	メディア	
	現代生活と物理	2後			2				○					2	オムニバス/メディア	
	現代生活と地球	2後			2				○					1		
	現代生活と環境科学	2後			2				○					1		
	北海道の文化	2後			2				○					1		
	日本国憲法	2後			2				○					2		
	情報社会及び情報倫理	2前			2				○					1		
	情報処理(中級)	3前			2					○				1		
情報処理(上級)	3後			2					○				1			
就業力養成科目	キャリアデザインⅠ	1前		1					○						1	
	キャリアデザインⅡ	2前		1										4		
	キャリアデザインⅢ	2後		1										4		
	キャリア演習Ⅰ	3前		1										4		
	キャリア演習Ⅱ	3後		1										1	※講義	
	キャリア演習Ⅲ	4前			1									1		
	キャリア演習Ⅳ	4後			1									1	※講義	
	就業力特別講義Ⅰ	2後			1				○		1	1		6	オムニバス	
	就業力特別講義Ⅱ	3前			1				○					1	※演習	
インターンシップ	3通			2									1	集中		
小計(40科目)		—	—	15	52	0		—		19	12	8	0	0	42	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以上
関心する・健康に	発達心理学	1前			2		○							1	メディア	
	人間関係の心理学	1後			2		○							1		
	乳幼児心理学	1後			2		○							1		
	福祉心理学	1後			2		○							1		
	育児支援の心理学	2前			2		○							1		
	モチベーション心理学	2後			2		○							1		
	司法・犯罪心理学	2後			2		○							1		
	スクールカウンセリング	3後			2		○							1		
発展科目	青少年学習コーチング論	3前			2		○							1	集中/共同 集中/共同/※講義	
	リカレント教育論	4前			2		○							1		
	社会学	1前			2		○							1		
	生涯学習支援論Ⅰ	4前			2		○			1				0		
	生涯学習支援論Ⅱ	4後			2		○			1				0		
	社会教育経営論Ⅰ	2前			2		○			1				0		
	社会教育経営論Ⅱ	2後			2		○			1				0		
	社会教育課題研究	3後			2		○			2				0		
社会教育実習	3通			2					2				0			
関文化する科目芸術に	音楽概論	1後			2		○							1	オムニバス	
	音楽鑑賞法	2前			2		○							3		
	音楽史	2後			2		○							1		
	美術史	2後			2		○							1		
	ファッションデザイン概論	1前			2		○							1		
	インテリアデザイン	1前			2			○						1		
	ユニバーサルデザイン	1後			2		○							1		
小計（24科目）		—	—	0	48	0	—	—	—	0	2	0	0	0	13	
学部基盤科目	生涯スポーツ学	1前	○	2			○			1	1				1	オムニバス
	生涯学習概論Ⅰ	1前	○	2			○				2				0	オムニバス
	生涯学習概論Ⅱ	1後	○	2			○				2				0	オムニバス
	健康学	1前	○	2			○			1					0	
	基礎解剖学	1前	○	2			○			1					0	メディア
	生理学	1前	○	2			○			1					0	
	基礎栄養学	1後	○	2			○				1				0	
	スポーツ倫理学	1前		2			○								1	メディア
	基礎統計学	3前	○	2				○		2	2				0	オムニバス
	福祉入門	1前	○	2			○			1	1	3			0	共同
	介護予防論	2前	○	2			○			3	1				0	共同
	認知症予防	3前	○	2				○		2					0	オムニバス
	高齢社会の街づくり	3後		2			○				1				0	
	コミュニティワーク入門	2前	○	2			○				1				0	
	専門演習Ⅰ	3前	○	2				○		18	11	9			0	集中
	専門演習Ⅱ	3後	○	2				○		18	11	9			0	集中
卒業研究Ⅰ	4前	○	2				○		18	11	9			0	集中	
卒業研究Ⅱ	4後	○	2				○		18	11	9			0	集中	
小計（18科目）		—	—	10	26	0	—	—	—	18	11	9	0	0	2	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以上
学科専門科目 スポーツと健康の 実践に関する科目群	トレーニング演習	2前			2				○		2				2	共同
	ジュニアスポーツ指導演習	3後	○		2				○		1				0	
	ジュニアスポーツ指導実習	4後			1						1				0	
	体力測定評価演習	3前			2				○		3				2	共同
	運動処方演習	3後	○		2				○		3				0	オムニバス
	健康産業施設実習	3前			2				○		2				0	共同
	健康トレーニング実践演習	2前			2				○						1	
	介護予防実践演習	2後			2				○		3				0	集中/共同
	救急処置演習	3前			2				○			1			0	
	コンディショニング演習	2後			2				○						1	
	リコンディショニング演習	2後			2				○			1			2	オムニバス
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	2前			2					○	2	1			0	集中/共同
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	2後			2					○	2	1			0	集中/共同
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3前			2					○	2	1			0	集中/共同
	体づくり運動	3前			1					○					2	共同
	器械運動	2後			1					○		1			1	
	陸上競技	1前			1					○		1			2	共同
	水泳・水中運動	1前			1					○	1				3	共同
	水泳・水中運動指導演習	3前			1					○	1				1	共同
	バスケットボール	1後			1					○		2			0	
	サッカー	3前			1					○					1	
	バレーボール	1後			1					○	1				1	
	バドミントン	1前			1					○		1			1	
	テニス	2前			1					○		2			0	
	野球・ソフトボール	3前			1					○		1			0	
	ダンス	3後			1					○					2	共同
	武道	3後			1					○					2	
	冬季スポーツ	2後	○		1					○	2				0	
	エアロビック	1前			1					○					1	
	エアロビック指導演習	2後			1					○					1	
	アダブテッドスポーツ実技	4後			1					○	1				1	共同
	レクリエーション実技	2前			1					○		1			0	
	ニュースポーツ	2後			1					○					1	
	野外教育実習	2前	○		2					○		2			1	共同/※講義
	野外教育指導演習	3前			2					○		1			2	共同
	雪上活動実習	2後			1					○		1			2	共同/※講義
	競技スポーツコーチング演習Ⅰ	3前			2					○	2	4	2		0	集中
	競技スポーツコーチング演習Ⅱ	3後			2					○	2	4	2		0	集中
	競技スポーツコーチング演習Ⅲ	4前			2					○	2	4	2		0	集中
小計(39科目)		—	—	0	57	0			—	13	6	6	0	0	27	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以上
学科専門科目 スポーツと健康の理論に関する科目群	機能解剖学	1後	○		2		○			1					0	メディア
	運動生理学	1後	○		2		○			1					0	
	生活習慣病概論	2前	○		2		○			1					0	
	衛生学及び公衆衛生学	3前			2		○								1	
	スポーツ医学基礎	2前	○		2		○			3					0	メディア/オムニバス
	スポーツ整形外科	2前			2		○			1					3	集中/オムニバス
	スポーツ内科学	3後			2		○			1					0	
	救急処置	2後			2		○			1					1	オムニバス
	トレーニング論	1後			2		○								1	
	体力測定評価	2後			2		○			1					1	オムニバス
	運動処方	2後	○		2		○			1					0	
	健康運動専門職演習I	3後			2			○							1	
	健康運動専門職演習II	4前			2			○							1	
	体育原理	2前			2			○				1			0	
	学校保健	2前	○		2			○		1					0	
	保健体育科内容構成論	4前	○		2			○		1					0	
	保健体育専門職演習	4前			2				○	1					0	
	スポーツマネジメント	2前	○		2			○		1					0	
	スポーツマーケティング	3後	○		2			○		1					0	
	スポーツ社会学	3前			2			○			1				0	
	スポーツ運動学	1前	○		2			○			1				0	
	スポーツ史	3後			2			○							1	
	スポーツ・バイオメカニクス	2後	○		2			○		1					0	
	スポーツ・バイオメカニクス演習	3前			2				○	1					0	
	スポーツ栄養学	2後	○		2			○			1				0	
	スポーツ栄養学演習	3前			2				○		1				0	
	スポーツ心理学	1前	○		2			○			1				1	オムニバス
	スポーツ心理学演習	3前			2				○		1				0	
	アダプテッドスポーツ論	3後			2			○							1	
	レジャー・レクリエーション論	2後	○		2			○				1			0	
	スポーツ解剖学	2前			2			○				1			1	オムニバス
	アスレティックトレーナー概論	1後	○		2			○		1					0	
	スポーツ外傷障害予防I	2前			2			○		1					0	
	スポーツ外傷障害予防II	2後			2			○		1					0	
	スポーツ外傷障害の評価	1後			2			○							2	オムニバス
	コンディショニング理論	2前	○		2			○		1					0	
リコンディショニング理論	2前	○		2			○		1					0		
アスレティックトレーニング専門職演習I	3前			2				○			1			1	集中/共同	
アスレティックトレーニング専門職演習II	3後			2				○	1					1	集中/共同	
競技スポーツ論	1前	○		2			○		2	4	1			0	オムニバス	
アスリート論	1後	○		2			○			1				0		
コーチング論	1後	○		2			○			1	1			0	オムニバス	
ゲーム分析	1後	○		2				○	2	3	2			0	オムニバス	
アスリートコーチング基礎演習I	2前			2				○	1	4	1			0	オムニバス	
アスリートコーチング基礎演習II	2後			2				○	1	4	1			0	オムニバス	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以上
学科専門科目 理論に関する科目群 スポーツと健康の	スポーツジャーナリズム論	3後			2		○				1				0	
	スポーツビジネス論	3前			2		○				1				0	
	地域スポーツ政策論	2前			2		○								1	
	スポーツクラブマネジメント論	3前	○		2		○			1	1				0	オムニバス
	チームマネジメント論	2後	○		2		○				2				0	オムニバス
	スポーツDX論	1前			2		○								1	
	ジェンダースポーツ論	1後			2		○								1	
	スポーツマネジメント演習	3後			2			○		1	3				1	集中/共同
	生活の中の介護福祉	1前			2		○								1	
	認知症ケア	3後	○		2		○				1				0	
	介護の基本Ⅰ	1前			2		○					1			4	オムニバス/※演習
	介護の基本Ⅱ	1前			2		○				1				1	オムニバス/※演習
	生活支援技術	1後			2		○					1			3	オムニバス/ 共同/※演習
	介護を必要とする人の理解	1前			2		○				1				2	オムニバス/※演習
	行政職専門演習Ⅰ	3後			2			○			1				0	
	行政職専門演習Ⅱ	4前			2			○			2				0	共同
	福祉基礎	1後	○		2		○			1	1	3			0	共同
	医学概論	1前			2		○								1	
	心理学概論	1前			2		○								1	
	福祉ボランティア実践	2前	○		2		○				1				0	※実習
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	○		2						1				0	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	○		2			○		1					0	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前			2		○				1				0	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後			2		○								1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後	○		2		○					1			0	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前			2		○								1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2後			2		○								1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3前			2		○			1					0	
	社会保障論Ⅰ	2前			2		○								1	
	社会保障論Ⅱ	2後			2		○								1	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3前			2		○								1	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3後			2		○								1	
	児童・家庭福祉	1前			2		○								1	
	高齢者福祉	1後			2		○				1				0	
	障害者福祉	2前			2		○					1			0	
	公的扶助論	2後			2		○								1	
	社会福祉調査の基礎	2後			2		○								1	
	医療福祉論	3後			2		○			1					0	
	権利擁護と成年後見制度	3後			2		○								1	
	司法福祉論	3後			2		○								1	
社会学と社会システム	3後			2		○								1		
福祉サービスの組織と経営	3後			2		○								1		
社会福祉の原理と政策Ⅰ	4前			2		○					1			0		
社会福祉の原理と政策Ⅱ	4後			2		○					1			0		
小計（89科目）		—	—	0	178	0	—	—	—	13	12	8	0	0	40	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以
社会福祉士に関する科目群	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前			2			○							1	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後			2			○							1	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前			2			○							0	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後			2			○		1		1			0	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通			4			○		1		2			0	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4通			2			○		1		2			0	共同
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通			6				○	1		2			0	集中/共同
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4通			2				○	1		2			0	集中/共同
	社会福祉専門職演習Ⅰ	3後	○		2			○		1					0	
	社会福祉専門職演習Ⅱ	4前	○		2			○				1			0	
	社会福祉専門職演習Ⅲ	4前	○		2			○				1			0	
	社会福祉専門職演習Ⅳ	4後	○		2			○				1			0	
	社会福祉専門職演習Ⅴ	4後	○		2			○				1			0	
	小計（13科目）		—	—	0	32	0		—		1	0	2	0	0	1
学科専門科目	特別支援教育専門職演習	4前			2			○		1					0	
	特別支援教育総論	1後	○		2			○		3					4	オムニバス
	知的障害者の心理・生理・病理	2前			2			○							2	オムニバス
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2前			2			○		1					2	オムニバス
	病弱者の心理・生理・病理	2後			2			○							1	
	知的障害教育Ⅰ	3前			2			○		1					0	
	知的障害教育Ⅱ	4前			2			○		1					0	
	肢体不自由教育Ⅰ	3前			2			○		1					0	
	肢体不自由教育Ⅱ	4前			2			○							1	
	病弱教育	3前			2			○							1	
	視覚・聴覚障害者の心理・生理・病理	3後			1			○							2	オムニバス
	視覚・聴覚障害者の教育課程及び指導法	3後			1			○							2	オムニバス
	重複障害者の心理・生理・病理	3後			1			○							1	
	重複障害者の教育課程及び指導法	3後			1			○							1	
	発達障害者等の心理・生理・病理	2後			1			○		1					0	
発達障害者等の教育課程及び指導法	2後			1			○		1					0		
特別支援教育実習事前指導	3後			1			○		3					0	共同	
特別支援教育実習事後指導	4後			1			○		3					0	集中/共同	
特別支援教育実習	4前・4後			2				○	3					0	集中/共同	
小計（19科目）		—	—	0	30	0		—		3	0	0	0	0	8	

教育課程等の概要																
(生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員 <small>（1）</small>
外国人留学生科目	日本語	1前			2		○								1	集中 集中
	現代日本の文化	1後			2		○								1	
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2	
合計 (244科目)		—	—	25	427	0	—	—	—	19	12	9	0	0	124	
学位又は称号		学士 (スポーツ科学) 学士 (社会福祉学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、体育関係 社会学・社会福祉学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
【卒業要件】 全学共通科目 必修15単位 選択 7単位以上 発展科目 必修 4単位以上 (2つ以上の科目群から修得する) 学部基盤科目 必修10単位 選択 6単位以上 学科専門科目 必修36単位以上 その他全ての選択科目から 選択46単位以上、合計124単位以上 「全学共通科目」の内訳は以下のとおりとする。 導入科目 必修 2科目 2単位 基礎科目 必修 5科目 8単位 外国語科目 1科目 2単位以上選択 教養科目 2科目 4単位以上選択 就業力養成科目 必修 5科目 5単位 「就業力特別講義Ⅰ」または「就業力特別講義Ⅱ」の2科目から 1科目 1単位以上選択 【履修登録の上限】 各年次とも48単位 2年次以降の学生は、前年度の年間GPAに応じ48単位を超えた登録が可能。 (年間GPA3.5以上は8単位を加算、3.0以上かつ3.5未満は4単位を加算)							1学年の学期区分				2学期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
導入科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	1					○		17	6	4		
	基礎教育セミナーⅡ	1後	1					○		17	6	4		
基礎 科目	日本語表現	1前	1				○							兼8 オムニバス
	数学入門	1後	1				○		1		1			兼6 オムニバス
	情報機器操作Ⅰ	1前	2					○						兼2
	情報機器操作Ⅱ	1後	2					○						兼3
	健康体育(実技を含む)	4前		2				○			1			集中※実技
	英語コミュニケーションⅠ	1前	2					○						兼1
外国 語科目	英語コミュニケーションⅡ	1後		2				○						兼1
	英語(中級)	2前		2				○						兼1
	英語(上級)	2後		2				○						兼1
	韓国語	2前		2				○						兼2
	中国語	2前		2				○						兼1
	ドイツ語	2前		2				○						兼1
	フランス語	2前		2				○						兼1
	スペイン語	2前		2				○						兼1
全学 共通科目	現代生活と政治・経済	2前		2				○						兼2 オムニバス
	現代生活と法律	2前		2				○						兼1
	現代生活と福祉	2前		2				○						兼1
	現代生活と芸術	2前		2				○						兼2 共同
	現代生活と教育	2前		2				○						兼2 オムニバス
	現代生活と心と体	2後		2				○						兼1 メディア
	現代生活と物理	2後		2				○						兼2 オムニバス/メディア
	現代生活と地球	2後		2				○						兼1
	現代生活と環境科学	2後		2				○						兼1
	北海道の文化	2後		2				○						兼1
	日本国憲法	2後		2				○						兼1
	情報社会及び情報倫理	2前		2				○						兼1
	情報処理(中級)	3前		2					○					兼1
	情報処理(上級)	3後		2					○					兼1
	就業 力養成 科目	キャリアデザインⅠ	1前	1					○					
キャリアデザインⅡ		2前	1											兼4
キャリアデザインⅢ		2後	1											兼4
キャリア演習Ⅰ		3前	1											兼4
キャリア演習Ⅱ		3後	1											兼1 ※講義
キャリア演習Ⅲ		4前		1										兼1
キャリア演習Ⅳ		4後		1										兼1 ※講義
就業力特別講義Ⅰ		2後		1				○		1	1			兼6 オムニバス
就業力特別講義Ⅱ		3前		1				○						兼1 ※演習
インターンシップ		3通		2						1				集中
小計(40科目)	—		15	52	0			—	17	6	4	0	0	兼43

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
関する科目群に 心身・健康	心理学概論	1前		2		○									兼1
	発達心理学	1前		2		○									兼1
	人間関係の心理学	1後		2		○									兼1 メディア
	乳幼児心理学	1後		2		○									兼1
	福祉心理学	1後		2		○									兼1
	育児支援の心理学	2前		2		○									兼1
	モチベーション心理学	2前		2		○									兼1
	司法・犯罪心理学	2後		2		○									兼1
	スクールカウンセリング	3後		2		○									兼1
発展科目 関する科目群に 社会と生活	高齢社会の街づくり	3後		2		○									兼1
	高齢者福祉	1後		2		○									兼1
	生活の中の介護福祉	1前		2		○									兼1
	青少年学習コーチング論	3前		2		○									兼1
	リカレント教育論	4前		2		○									兼1
	社会学	1前		2		○									兼1
	生涯学習支援論Ⅰ	4前		2		○									兼1
	生涯学習支援論Ⅱ	4後		2		○									兼1
	社会教育経営論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	社会教育経営論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	社会教育課題研究	3後		2		○									兼1 集中
社会教育実習	3通		2				○							兼1 集中/※講義	
関する科目群に 文化と芸術	音楽概論	1後		2		○									兼1
	音楽鑑賞法	2前		2		○									兼3 オムニバス
	音楽史	2後		2		○									兼1
	美術史	2後		2		○									兼1
	ファッションデザイン概論	1前		2		○									兼1
	インテリアデザイン	1前		2			○								兼1
ユニバーサルデザイン	1後		2		○									兼1	
小計(28科目)	—	0	56	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼18
学部 共通科目	生涯スポーツ学	1前	2			○				2					オムニバス
	生涯学習概論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	生涯学習概論Ⅱ	1後		2		○									兼1
	栄養と健康	1後		2		○					1				メディア
	健康学	1前	2			○									兼1
	介護予防論	4前		2		○				1					兼3
	認知症予防	3前		2			○								兼2 オムニバス
	地域支援実習	3通		2				○			1	1			兼4
	健康運動指導演習	2後		2				○			1	1			共同
	体育原理	2前		2		○									兼1
	スポーツ心理学	1前		2		○					1				兼1 オムニバス
	スポーツ社会学	3前		2		○									兼1
	スポーツ運動学	1前		2		○					1				
	スポーツマネジメント	2前		2		○					1				
	スポーツ史	3後		2		○									兼1
	生理学	1前		2		○					1				
運動生理学	1後		2		○					1					
就業力特別演習Ⅰ	3後		1				○			5		1		兼3	
就業力特別演習Ⅱ	4前		1				○			3				兼3	
就業力特別演習Ⅲ	4後		1				○			3	2			兼2	
小計(20科目)	—	4	33	0	—	—	—	—	—	13	4	1	0	0	兼16

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 専 門 科 目	コ ー ス 共 通 科 目	スポーツ教育学概論	2			○			7	2	1			兼1	オムニバス	
		基礎解剖学		2		○			1							メディア
		機能解剖学		2		○			1							メディア
		体力測定評価		2		○			1						兼1	オムニバス
		体力測定評価演習		2			○		3						兼2	共同
		トレーニング論		2			○								兼1	
		トレーニング演習		2				○		2					兼2	共同
		スポーツ・バイオメカニクス		2			○			1						
		バイオメカニクス演習		2				○		1						
		生活習慣病概論		2			○			1						
		スポーツ医学基礎		2			○			2					兼1	オムニバス/メディア
		スポーツ内科学		2			○			1						
		衛生学及び公衆衛生学		2			○								兼1	
		救急処置		2			○			2					兼1	共同
		スポーツ整形外科学		2			○			1					兼3	集中/オムニバス
		運動処方演習		2				○		2					兼1	オムニバス
		スポーツ栄養学		2			○				1					
		スポーツマーケティング		2			○			1						
		メンタルトレーニング演習		2				○							兼1	
		ジュニアスポーツ論		2			○				1					
		コーチ学		2			○				2		1			オムニバス
		障がい者スポーツ論		2			○								兼1	
		レジャー・レクリエーション論		2			○									
		野外教育実習		2					○				2		兼1	共同/※講義
		野外教育指導演習		2					○				1		兼2	共同
		雪上活動実習		1					○				1		兼2	共同/※講義
		生涯スポーツ(水泳・水中運動)		1					○		1				兼3	共同
		生涯スポーツ(陸上競技)		1					○			1			兼2	共同
		生涯スポーツ(冬季スポーツ)		1					○						兼2	共同
		生涯スポーツ(エアロビック)		1					○						兼1	
		生涯スポーツ(バドミントン)		1					○					1	兼1	
		生涯スポーツ(野球・ソフトボール)		1					○					1		
		生涯スポーツ(バレーボール)		1					○		1				兼1	
		生涯スポーツ(バスケットボール)		1					○			2				
		生涯スポーツ(テニス)		1					○			2				共同
		生涯スポーツ指導演習(サッカー)		2					○						兼1	
		生涯スポーツ指導演習(体づくり運動)		2					○		1				兼1	共同
		生涯スポーツ指導演習(ダンス)		2					○		1				兼1	共同
		生涯スポーツ指導演習(武道)		2					○						兼2	
		生涯スポーツ(障がい者スポーツ)		1						○	1				兼1	共同
		生涯スポーツ指導演習(陸上競技)		1					○			1			兼1	共同
		生涯スポーツ指導演習(バスケットボール)		1					○			2				共同
		生涯スポーツ指導演習(バレーボール)		1					○						兼1	
		生涯スポーツ指導演習(器械運動)		2					○			1			兼1	
		生涯スポーツ指導演習(エアロビック)		2					○		1				兼1	共同
生涯スポーツ指導演習(水泳・水中運動)		2					○		1				兼1	共同		
専門演習Ⅰ		2					○		17	6	4		兼5	集中		
専門演習Ⅱ		2					○		17	6	4		兼5	集中		
専門演習Ⅲ		2					○		17	6	4		兼5	集中		
卒業研究		2					○		17	6	4		兼5	集中		
小計(50科目)			10	76	0	0			17	6	4	0	0	兼36		

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科専門科目	コース専門科目	スポーツ教育学	4前	2			○									兼1	メディア	
		スポーツ教育演習A	3後		2				○							兼1		
		スポーツ教育演習B	4前		2					○				1				
		学校教育研究A	3後		2					○		1						
		学校教育研究B	4前		2					○				1				
		学校保健	2前		2				○								兼1	
		保健体育科内容構成論	4前		2				○								兼1	集中
		特別支援教育総論	1後		2				○			3					兼4	オムニバス/※演習
		知的障害者の心理・生理・病理	2前		2				○								兼2	オムニバス/※演習
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2前		2				○			1					兼2	
		病弱者の心理・生理・病理	2後		2				○								兼1	
		知的障害教育I	3前		2				○			1						
		知的障害教育II	4前		2				○			1						
		肢体不自由教育I	3前		2				○			1						
		肢体不自由教育II	4前		2				○								兼1	
		病弱教育	3前		2				○								兼1	
		視覚・聴覚障害者の心理・生理・病理	3後		1				○								兼2	
		視覚・聴覚障害者の教育課程及び指導法	3後		1				○								兼2	
		重複障害者の心理・生理・病理	3後		1				○								兼1	※演習
		重複障害者の教育課程及び指導法	3後		1				○								兼1	※演習
		発達障害者等の心理・生理・病理	2後		1				○			1						※演習
		発達障害者等の教育課程及び指導法	2後		1				○			1						
		特別支援教育実習事前指導	3後		1				○			3					兼1	共同
		特別支援教育実習事後指導	4後		1				○			3						集中/共同
		特別支援教育実習	4前・4後		2					○		3						集中/共同
小計(25科目)			2	40	0					4	0	2	0	0	兼12			
学科専門科目	スポーツトレーナーコース	健康産業施設実習	4前		2					○	2						共同	
		中高年スポーツ論	2後	2				○			1							
		テーピング演習	2前		2					○							兼2	
		スポーツ解剖学	2前		2				○		1					兼1	オムニバス	
		臨床スポーツ医学	2後		2				○		1					兼3	集中/オムニバス	
		運動処方	3前		2				○							兼1		
		スポーツ外傷・障害の評価理論	2前		2				○		2							
		スポーツ外傷・障害の評価演習	2後		2					○						兼3	オムニバス	
		コンディショニング理論	3前		2				○		2							オムニバス
		コンディショニング演習	3後		2					○							兼1	
		アスレティックトレーナー概論	1後	2						○		1						
		アスレティックリハビリテーション理論	2後		2					○		1						
		アスレティックリハビリテーション演習I	3前		2						○	1				兼2	オムニバス	
		アスレティックリハビリテーション演習II	3後		2						○	1				兼2	オムニバス	
アスレティックトレーニング指導実習	4通		4						○	2						集中/共同		
小計(15科目)			4	28	0					4	0	0	0	0	兼14			
学科専門科目	競技スポーツコース	競技スポーツ論	2前	2					○		2	4	2				オムニバス	
		アスリート論	2後	2					○			1						
		コーチング論	2後	2						○		1						
		スポーツの戦術・戦略論	3後		2					○				1				
		アスリートを取り巻く環境	3前		2					○		1						
		競技スポーツコーチング演習I	3後		2						○	2	5	2			集中/共同	
		競技スポーツコーチング演習II	4前		2						○	2	5	2			集中/共同	
小計(7科目)		—	6	8	0				—	2	5	2	0	0	兼0	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
外国人 留学生 科目	日本語	1前		2		○									兼1	集中
	現代日本の文化	1後		2		○									兼1	集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼2	
合計(187科目)		—	41	297	0	—			17	6	4	0	0		兼117	—
学位又は称号		学士 (スポーツ教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、体育関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>【卒業要件】</p> <p>全学共通科目 必修15単位 選択 7単位以上 発展科目 選択 4単位以上(2つ以上の科目群から修得する) 学部共通科目 必修 4単位 選択 6単位以上 学科専門科目 必修14～18単位 選択32～36単位以上(選択コースによる) その他全ての選択科目から選択38単位以上、合計124単位以上</p> <p>「全学共通科目」の内訳は以下のとおりとする。 導入科目 必修 2科目 2単位 基礎科目 必修 5科目 8単位 外国語科目 1科目 2単位以上選択 教養科目 2科目 4単位以上選択 就業力養成科目 必修 5科目 5単位 「就業力特別講義Ⅰ」または「就業力特別講義Ⅱ」の 2科目から1科目 1単位以上選択</p> <p>【履修登録の上限】</p> <p>各年次とも48単位 2年次以降の学生は、前年度の年間GPAに応じ48単位を超えた登録が可能。 (年間GPA3.5以上は8単位を加算、3.0以上かつ3.5未満は4単位を加算)</p>								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	1				○		6	4	3			
	基礎教育セミナーⅡ	1後	1				○		6	4	3			
基礎科目	日本語表現	1前	1			○			1					兼7 オムニバス
	数学入門	1後	1			○								兼8 オムニバス
	情報機器操作Ⅰ	1前	2				○							兼1
	情報機器操作Ⅱ	1後	2				○							兼1
	健康体育(実技を含む)	2前		2		○								兼1 ※実技
	英語コミュニケーションⅠ	1前	2				○							兼1
外国語科目	英語コミュニケーションⅡ	1後		2			○							兼1
	英語(中級)	2前		2		○								兼1
	英語(上級)	2後		2		○								兼1
	韓国語	2前		2		○								兼2
	中国語	2前		2		○								兼1
	ドイツ語	2前		2		○								兼1
	フランス語	2前		2		○								兼1
	スペイン語	2前		2		○								兼1
全学共通科目	現代生活と政治・経済	2前		2		○								兼2 オムニバス
	現代生活と法律	2前		2		○								兼1
	現代生活と福祉	2前		2		○								兼1
	現代生活と芸術	2前		2		○								兼2 共同
	現代生活と教育	2前		2		○								兼2 オムニバス
	現代生活と心と体	2後		2		○			1					兼2 メディア
	現代生活と物理	2後		2		○								兼2 オムニバス/メディア
	現代生活と地球	2後		2		○								兼1
	現代生活と環境科学	2後		2		○								兼1
	北海道の文化	2後		2		○								兼1
	日本国憲法	2後		2		○								兼1
	情報社会及び情報倫理	2前		2		○								兼1
	情報処理(中級)	3前		2			○							兼1
	情報処理(上級)	3後		2			○							兼1
就業力養成科目	キャリアデザインⅠ	1前	1			○								兼1
	キャリアデザインⅡ	2前	1				○							兼2
	キャリアデザインⅢ	2後	1				○							兼2
	キャリア演習Ⅰ	3前	1				○							兼3
	キャリア演習Ⅱ	3後	1				○							兼1 ※講義
	キャリア演習Ⅲ	4前		1			○							兼1
	キャリア演習Ⅳ	4後		1			○							兼1 ※講義
	就業力特別講義Ⅰ	2後		1		○								兼8 オムニバス
	就業力特別講義Ⅱ	3前		1		○								兼1 ※演習
	インターンシップ	3通		2				○						兼1 集中
小計(40科目)		—	15	52	0		—		6	4	3	0	0	兼43

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部健康福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 10px;">関心する科目群に</div> <div style="margin-bottom: 10px;">発展科目</div> <div style="margin-bottom: 10px;">社会と生活に</div> <div style="margin-bottom: 10px;">文化と芸術に</div> </div>	スポーツ栄養学	2後		2		○									兼1
	スポーツマーケティング	4後		2		○									兼1
	発達心理学	1前		2		○									兼1
	人間関係の心理学	1後		2		○									兼1
	乳幼児心理学	1後		2		○									兼1
	育児支援の心理学	2前		2		○									兼1
	モチベーション心理学	2前		2		○									兼1
	司法・犯罪心理学	2後		2		○									兼1
	スクールカウンセリング	3後		2		○									兼1
	青少年学習コーチング論	3前		2		○									兼1
	リカレント教育論	4前		2		○									兼1
	生涯学習支援論Ⅰ	4前		2		○				1					
	生涯学習支援論Ⅱ	4後		2		○				1					
	社会教育経営論Ⅰ	2前		2		○				1					
	社会教育経営論Ⅱ	2後		2		○				1					
	社会教育課題研究	3後		2		○				1					集中
	社会教育実習	3通		2				○		1					集中/※講義
	音楽概論	1後		2		○									兼1
	音楽鑑賞法	2前		2		○									兼3
	音楽史	2後		2		○									兼1
	美術史	2後		2		○									兼1
	ファッションデザイン概論	1前		2		○									兼1
	インテリアデザイン	1前		2			○								兼1
	ユニバーサルデザイン	1後		2		○									兼1
小計(24科目)		—	0	48	0	—			0	1	0	0	0	兼14	
学部 共通 科目	生涯スポーツ学	1前	2			○			1						
	生涯学習概論Ⅰ	1前		2		○				1					兼1
	生涯学習概論Ⅱ	1後		2		○				1					兼1
	栄養と健康	1後		2		○									兼1
	健康学	1前	2			○			1						
	介護予防論	1前		2		○			2	1					兼1
	認知症予防	3前		2			○		2						オムニバス
	地域支援実習	3通		2				○	1	1					兼4
	健康運動指導演習	2後		2			○								兼2 共同
	体育原理	2前		2		○									兼1
	スポーツ心理学	1前		2		○									兼2
	スポーツ社会学	3前		2		○									兼1
	スポーツ運動学	1前		2		○									兼1
	スポーツマネジメント	2前		2		○									兼1
	スポーツ史	3後		2		○									兼1
	生理学	1前		2		○									兼1
運動生理学	1後		2		○									兼1	
就業力特別演習Ⅰ	3後		1				○		1	1				兼7	
就業力特別演習Ⅱ	4前		1				○		1	1	1			兼3	
就業力特別演習Ⅲ	4後		1				○				1			兼6	
小計(20科目)		—	4	33	0	—			3	2	2	0	0	兼26	

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部健康福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目 コース共通科目	健康福祉学概論	1前	2			○			1	2					
	ジュニアスポーツ論	3後		2		○									兼1
	中高年スポーツ論	3後		2		○									兼1
	障がい者スポーツ論	3後		2		○			1						
	生涯スポーツ(障がい者スポーツ)	4後		1				○							兼2 共同
	生涯スポーツ指導演習(水泳・水中運動)	3前		2			○								兼2 共同
	運動処方	3前		2		○			1						
	体力測定評価演習	3前		2			○								兼5 共同
	健康トレーニング実践演習	2前		2			○								兼1
	健康福祉専門職演習Ⅰ	4前		2			○				1				
	健康福祉専門職演習Ⅱ	4後		2			○					1			
	介護の基本Ⅰ	1前		2			○								兼4 オムニバス/※演習
	介護の基本Ⅱ	1前		2			○								兼1 オムニバス/※演習
	生活支援技術	1後		2			○								兼4 オムニバス/ 共同(一部)/※演習
	介護を必要とする人の理解	1前		2			○								兼3 オムニバス/※演習
	社会学	1前		2			○								兼1
	高齢社会の街づくり	3後		2			○								兼1
	生活学概論	2後		2			○								兼1
	生活の中の介護福祉	1前		2			○								兼1
	障害のある人の理解	2前		2			○			1					
	リハビリテーション論	3後		2			○								兼2 集中/オムニバス
	レクリエーション実技	2前		1					○						兼1
	医学概論	1前		2			○								兼1
	医学知識	1後		2			○								兼1
	老年医学	2前		2			○								兼1
	精神保健	1前		2			○			1					メディア
	認知症論	2前		2			○					1			
	認知症ケア論	2後		2			○								兼1
	心理学概論	1前		2			○								兼1
	福祉心理学	1後		2			○								兼1
	高齢者心理学	2前		2			○								兼1
	高齢者福祉	1後		2			○				1				
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前		2			○					1			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後		2			○					1			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		2				○			1				
	社会保障論Ⅰ	2前		2			○								兼1
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3前		2			○								兼1
	専門演習Ⅰ	3前		2				○		6	4	3			集中
	専門演習Ⅱ	3後		2				○		6	4	3			集中
	専門演習Ⅲ	4前		2				○		6	4	3			集中
	専門演習Ⅳ	4後		1				○		6	4	3			集中
	卒業研究	4後		2				○		6	4	3			集中
小計(42科目)		—	9	72	0	—			6	4	3	0	0	兼36	

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部健康福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目 コース専門科目 スポーツ健康コース	健康運動実践論	1後	2			○			1						兼1 オムニバス
	基礎解剖学	1前		2		○									兼1 メディア
	生活習慣病概論	2前		2		○									兼1
	スポーツ医学基礎	2前		2		○			1						兼2 オムニバス/メディア
	スポーツ内科学	3後		2		○									兼1
	スポーツ整形外科	2前		2		○									兼4 集中/オムニバス
	スポーツ・バイオメカニクス	2後		2		○									兼1
	コーチ学	1後		2		○									兼3 オムニバス
	トレーニング論	1後		2		○									兼1
	トレーニング演習	2前		2			○								兼4 共同
	レジャー・レクリエーション論	1後		2		○									兼1
	生涯スポーツ(陸上競技)	1前		1				○							兼3 共同
	生涯スポーツ(バレーボール)	1後		1				○	○						兼2
	生涯スポーツ(バスケットボール)	1後		1				○	○						兼2
	生涯スポーツ(テニス)	2前		1				○	○						兼2 共同
	生涯スポーツ(ニュースポーツ)	2後	1					○	○						兼1
	生涯スポーツ(エアロビック)	1前		1					○						兼1
	生涯スポーツ指導演習(エアロビック)	2後		2				○							兼2 共同
	生涯スポーツ指導演習(サッカー)	3前		2				○							兼1
	競技スポーツ論	2前		2			○								兼8 オムニバス
	アスリート論	2後		2			○								兼1
	コーチング論	2後		2			○								兼1
	スポーツの戦術・戦略論	3後		2			○								兼1
	アスリートを取り巻く環境	3前		2			○								兼1
	競技スポーツコーチング演習 I	3後		2				○							兼9 集中
	競技スポーツコーチング演習 II	4前		2				○							兼9 集中
	救急処置	2後		2			○								兼3 共同
	運動処方演習	4前		2				○		1					兼2 オムニバス
	体力測定評価	2後		2			○								兼2 オムニバス
	健康産業施設実習	4前		2					○						兼2 共同
	介護予防実践演習	1後		2				○		3	1				兼2 集中
小計(31科目)		—	3	53	0		—		3	1	0	0	0	兼33	

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部健康福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
学 科 専 門 科 目	こ ー ス 専 門 科 目	社 会 福 祉 こ ー ス	ソーシャルワーク入門Ⅰ	1前	2		○			1	1	2				
			ソーシャルワーク入門Ⅱ	1後	2		○			1	1	2				
			ボランティア実践	2前		2		○				1				
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後		2		○								兼1
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2		○								兼1
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2後		2		○								兼1
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3前		2		○			1					
			児童・家庭福祉	1前		2		○								兼1
			障害者福祉	2前		2		○								兼1
			社会保障論Ⅱ	2後		2		○								兼1
			公的扶助論	2後		2		○								兼1
			社会福祉調査の基礎	2後		2		○								兼1
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3後		2		○								兼1
			医療福祉論	3後		2		○			1					
			権利擁護と成年後見制度	3後		2		○								兼1
			司法福祉論	3後		2		○								兼1
			社会学と社会システム	4前		2		○								兼1
			福祉サービスの組織と経営	3後		2		○								兼1
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	4前		2		○						1		
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	4後		2		○					1			
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		2				○		1				
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前		2				○						兼1
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後		2				○						兼1
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前		2				○						兼1
			ソーシャルワーク演習Ⅵ	4後		2				○				1		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		2				○		1		2		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通		4				○		1		2		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4通		2				○		1		2		
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通		6					○	1		2		
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	4通		2					○	1		2		
			福祉実践実習	4通		2					○	1				
小計(31科目)		—	4	64	0		—		1	1	2	0	0	兼12		

教 育 課 程 等 の 概 要

(生涯スポーツ学部健康福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国人留学生科目	日本語	1前		2		○									兼1 集中
	現代日本の文化	1後		2		○									兼1 集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼2
合計(190科目)		—	35	326	0	—			6	4	3	0	0		兼132
学位又は称号		学士 (健康福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>【卒業要件】 全学共通科目 必修15単位 選択 7単位以上 発展科目 選択 4単位以上(2つ以上の科目群から修得する) 学部共通科目 必修 4単位 選択 6単位以上 学科専門科目 必修12~13単位 選択31~32単位以上(選択コースによる) その他全ての選択科目から選択44単位以上、合計124単位以上</p> <p>「全学共通科目」の内訳は以下のとおりとする。 導入科目 必修 2科目 2単位 基礎科目 必修 5科目 8単位 外国語科目 1科目 2単位以上選択 教養科目 2科目 4単位以上選択 就業力養成科目 必修 5科目 5単位 「就業力特別講義Ⅰ」または「就業力特別講義Ⅱ」の 2科目から1科目 1単位以上選択</p> <p>【履修登録の上限】 各年次とも48単位 2年次以降の学生は、前年度の年間GPAに応じ48単位を超えた登録が可能。 (年間GPA3.5以上は8単位を加算、3.0以上かつ3.5未満は4単位を加算)</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	導入科目	基礎教育セミナーⅠ	○ 本授業では、大学で「学生」として「学ぶ」ということを理解し、専門的学習の場において、読み書き調べることに関する基礎能力の習得を目的とする。具体的には、情報検索、ノートテイキング、リーディング、ライティングの各種能力を向上する。さらに、情報を整理し、まとめて伝えることができる力を獲得する。また、学生生活全般にわたっての心の健康(メンタルヘルス)について学ぶ。	主要授業科目
		基礎教育セミナーⅡ	○ 本授業では、基礎教育セミナーⅠで習得した大学で学ぶために必要不可欠な知識、技術、情報をさらに自分のものとして身につけていくために、多分野にわたる学びを深めることを目的とする。具体的には、現代社会における様々なトピックスを題材にして、レジュメの作成やディスカッションを行いながら、社会に関わるためのコミュニケーション・スキルの向上をめざす。そして、自分の将来への意識を確かなものにしなが、専門の学びへの準備を整えていく。そのため、自ら調べ、整理し、まとめ、伝えるといった能力をスキルアップする。そして、大学生活に必要なマナーや態度を身につける。	主要授業科目
	基礎科目	日本語表現	○ 本授業では、自らの日本語能力を知り、言葉の大切さを意識する。そして、自らの日本語による表現能力の向上と、基本的知識の修得をする。その上で、効果的で円滑なコミュニケーションを図ることができるように基礎的な力を付けることを目的とする。具体的には、その表記方法(文字・語彙・文法・文体・仮名遣い・送り仮名・文章表現に際して用いる符号類等)を学習し、文章の種類・形態と文章を書くときの要領や修辭法について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (97 小杉 直美/1回) 日本語特有の敬意表現について、自己表現、他者との関わりを考慮した表現という視点から、日常生活に即して学ぶ。 (77 磯島 年成/1回) レポートや報告書を作成するための基本的なスキルとして書き言葉のルールを学ぶ。 (46 小坂 守孝/1回) 社会人の常識として必須であり、就職試験(SPI-IIなど)にも出題頻度の高い、四字熟語・慣用句の知識を学ぶ。 (49 二宮 孝行/1回) 考えを相手に正しく伝えるには「論理的かつわかりやすい記述」が必要である。いろいろな文章を例に「文章作りのポイント」を学ぶ。 (153 村松 幹男/1回) 「日本語が時とともに変わっていく」ということに焦点をあて、そのことを意識したコミュニケーションの重要性を学ぶ。 (60 高橋 さおり/1回) 日本語がどのようにして生まれ現在にいたるのかを、日本語の表現の特徴に触れながら学ぶ。 (76 石原 深雪/1回) 意見と感想の違いを確認し、レポートに適した構成について学ぶ。 (36 竹田 千春/1回) 筆順の考え方を、「筆順指導の手びき」に基づきながら、二つの大原則と、八つの原則に分類して学ぶ。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	基礎科目	数学入門	<p>本授業では、高度に発達した情報化社会で求められる物事を論理的思考力を養うことを目的とする。具体的には、生活における数学という切り口で身近にある数学を学びながら、各専門分野で必要な、物事を考えるための基礎力を身につける。また、2年後期に開講される就業力特別講義Ⅰに向けた基礎力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(51 松澤 衛/1回)</p> <p>人間が都合よく作り出してきた数、その数の仕組みを理解して、この情報化社会を乗り切るための基本的な考えを学ぶ。</p> <p>(35 竹内 雅明/1回)</p> <p>金利のしくみ、単利・複利、カードでの購入と支払い、分割払いとリボ計算など、基本概念について学ぶ。</p> <p>(52 三浦 公裕/1回)</p> <p>身近にある具体的な事柄を素材に、起こりうる場合を順序よく整理して調べる活動を通して、公式の意味を理解しその活用の仕方を学ぶ。</p> <p>(17 山本 敬三/1回)</p> <p>比例・比率、平方根、A3ならびにB5などの意味を学ぶ。</p> <p>(69 荒川 徹/1回)</p> <p>「速さ・時間・距離」を身近な事例を通して理解し、「はじき公式」の適用問題を教材に就業力数学への基礎的・基本的なスキルを学ぶ。</p> <p>(144 増山 尚美/1回)</p> <p>事象を分類整理する活動や典型問題の解決を通して、集合の考えのよさとその活用の仕方を学ぶ。</p> <p>(107 佐藤 至英/1回)</p> <p>各自が簡易製図板を使用し、自ら線を写す(トレース)作業を行い、長さ、面積を理解して畳(たたみ)、間取り、建物等、小さな寸法(スケール)で書かれている図形から実際の空間を把握し、数値と次元の重要性を学ぶ。</p> <p>(64 小山 誠南/1回)</p> <p>規則的でリズムカルなきまりを示しながら数が並んでいたり、不思議な順序や変化をして表れたりする数の変わり方を調べて、関数的な見方・考え方、活用の仕方を学ぶ。</p>	オムニバス方式
		情報機器操作Ⅰ	<p>本授業では、情報処理の基本を理解するとともに、日本語文書処理ソフトウェアやプレゼンテーションソフトウェアを使用し、パーソナルコンピュータを活用した実践的なスキルを習得することを目的とする。具体的には、日本語文書の作成・編集の技能を習得し、効率的なプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。また、現代社会における情報モラルの重要性についても理解を深め、インターネットやデジタル技術を利用する際の倫理的側面について考察する。さらに、生成AI(人工知能)の基本を学び、その技術の可能性や限界について理解を深めることで、最新の技術を適切に活用するための知識を得ることを目指す。これにより、情報処理能力を高めると同時に、現代のデジタル社会における実践的なスキルを身につける。</p>	
		情報機器操作Ⅱ	<p>本授業では、情報処理の基本を理解した上で、パーソナルコンピュータを活用し、さまざまなアプリケーションソフトを使って、情報処理における基本および応用的なスキルを習得することを目的とする。具体的には、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、教育の場面でICTの効果的な活用方法について学び、その知識を深める。また、情報モラルに関する考察を行い、デジタル社会における倫理的側面について理解を深める。さらに、生成AI(人工知能)の活用事例を学び、その可能性と限界について考察し、現代のICTリテラシーを向上させるためのスキルを身につけることを目的とする。これにより、マルチメディアの基礎的な扱いも習得し、実践的に活用できる能力を養う。</p>	
		健康体育(実技を含む)	<p>本授業では、生涯健康、生涯スポーツを実践するための運動、スポーツ、健康に関する基本的な理論や実技を学ぶ。そして、運動・スポーツが健康・体力の維持増進に果たす役割や意義を理解し、生涯にわたりスポーツ活動を生活の一部として取り入れることを目的とする。具体的には、トレーニングの目的、方法、効果に関する知識を深める。そして、スポーツ障害と予防について理解を深める。その上で、実技を通してルール、スキルを学ぶ。</p>	講義 15時間 実技 30時間
		英語コミュニケーションⅠ	<p>本授業では、英語を学習する動機付けとモチベーションの維持をはかりながら、グローバル社会において、英語を「聞く」「話す」力を育成することを目的とする。具体的には、コミュニケーションで使われる基礎的な文法を身につけ、身近な日常会話ができるようリスニング、ペアワーク、反復練習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	外国 語 科 目	英語コミュニケーションⅡ	本授業では、英語コミュニケーションⅠで学んだことを基礎として、英語を学習する動機付けとモチベーションの維持をはかり、グローバル社会において、英語を使えるようにすることを目的とする。具体的には、コミュニケーションで使われる基礎的な文法を確実に身に付け、語彙力を伸ばし、自信を持って流暢に会話ができるよう、いろいろな場面を想定し、リスニング、ペアワーク、反復練習を行う。	
		英語(中級)	本授業では、社会に出て仕事や研究のツールとして使うに足る英語力を養うために、英語を多角的に学び、教養のある「英語」に向上する。そして、「読む」「聴く」の受信面と「書く」「話す」の発信面の4つの技能を大学レベルまで高めることを目的とする。具体的には、アカデミックライティング(エッセイの構成の基礎的理解)とオーラル・プレゼンテーションを中心に学習する。そして、適切な文を書き、ライティングの過程を踏まえて、論理的に構成されたパラグラフを書くことを学ぶ。	
		英語(上級)	本授業では、各自の専門分野に関連させる形で、より高度な英語運用能力が身につくように学び、論文作成を行なうことを目的とする。具体的には、自分の関心のある分野の英語文献を読みこなし、国際会議等のような場で発表や議論するための基礎能力開発を行う。そして、学術論文の構成を理解した上での読み方、効果的なプレゼンテーションの仕方、ディベートの訓練等を行う。	
		韓国語	本授業では、日本語とほぼ同じ語順で、日本人にとって最も習得しやすい言語である韓国語で、自己紹介や会話などが習得できることを目的とする。具体的には、始めに文字と発音を習得し、それと同時に基礎的な文法を学ぶ。そして、簡単なあいさつや自己紹介、会話などの実用性に重点をおいて学ぶ。さらに、視聴覚教材を通して、韓国の文化や風習に触れ、韓国語に慣れ親しみながら学ぶ。	
		中国語	本授業では、中国語の発音、ピンインや漢字の表記、基礎文法を理解すること、中国語の基本的な挨拶、自己紹介等のよく使われる会話表現を実践できること、中華圏の文化について理解することを目的とする。具体的には中国語の基礎となる発音から始め、挨拶や日常会話などの基礎を学び、また、語学学習を通して中国の文化や流行を紹介し、中華圏の文化理解を深める。	
		ドイツ語	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法の一部(動詞と名詞)などを理解し、簡単な挨拶などを実践できること、ドイツ語圏の生活・文化について理解を深めることを目的とする。具体的には、ドイツ語の基礎となる発音から始め、初歩的な文法、簡単な挨拶などの基礎を学ぶ。そして、ドイツ語圏の生活・文化を紹介し、理解を深める。	
		フランス語	本授業では、フランス語の基本的な文法事項を確実に習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになること、フランス語圏の生活・文化について理解を深めることを目的とする。具体的には、フランス語の基礎である発音から始め、挨拶や日常会話などの基礎を学ぶ。語学学習を通して、フランス語を母語とする社会についての知識と関心を深めて、フランスの文化や社会事情への理解を深める。	
		スペイン語	本授業では、スペイン語の基本的な文法事項を確実に習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになること、スペイン語圏の生活・文化について理解を深めることを目的とする。具体的には、スペイン語の基礎である発音から始め、基礎的な文法、簡単な挨拶などの基礎を学ぶ。語学学習を通して、スペイン語を母語とする社会についての知識と関心を深めて、スペインの文化や社会事情への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	教養科目	現代生活と政治・経済	本授業は、政治と経済を中心に社会の動く仕組みを理解する。政治と経済は不可分の関係にあり、その相互作用を理解することが、社会の動きを読み解くためのリテラシーを高めることにつながる。社会的格差が広がりつつあると指摘される現代だが、政治学と経済学の基礎理論を通して、競争や公平の概念を理解し、議論できる学びの深化を目的とする。具体的には、まず、経済学から説き起こし、提起された課題を政治学が引き取り、最後に二つの学の重なりを双方向的授業展開の中で確認し、現代生活への理解を深める。	
		現代生活と法律	本授業では、法学・法律の基礎や民法をはじめとする生活に密着した法律の基本的な考え方を学ぶことで、社会生活と法律との関わりを知るとともに、設例等も介して、家族関係、相続、財産、契約等に対処するための方法を学ぶことを目的とする。具体的には、法律の基礎について学ぶ。そして、家族関係、財産、契約等に関して、基本的な法律知識とその背景にある考え方を理解する。その上で、法的なトラブルに遭うことを予防し、遭遇した場合でも法的な考え方にに基づき適切な対応ができることを身につける。	
		現代生活と福祉	本授業は、社会福祉の歩み、仕組み、私達の日々の暮らしと福祉の関係、今後の課題について学びことを目的とする。具体的には、社会福祉が果たす役割を学び、基本的人権に基づいた社会福祉の理念を学ぶ。そして、社会福祉制度の概要と課題について学ぶ。その上で、社会福祉が私達の暮らしにとって必要不可欠なものである事の理解を深める。	
		現代生活と芸術	本授業では、現代社会における芸術をどのように位置づけ、考え、学び、実践していくのかを、美術、音楽を中心に考察し検証する。芸術が社会とどのように関連し、何が創造され、生活や社会活動を豊かにするのかを学んでいくことを目的とする。具体的には、音楽では、クラシック音楽、民族音楽における“声”と“詩”の関わりを考察する。美術では表現の歴史と社会背景について知り、それらが現代にまで与える影響や生かされている点について考える。そして、芸術文化の振興が社会にもたらす役割についても学ぶ。 (共同/全15回) (63 岡元 教司/8回) イタリア古典詩行、バラッドやソネットなど詩の構成、オラトリオ、オペラなどの舞台芸術、古楽からロマン派音楽の「聞き取り方」など、音楽に関する内容を担当する。 (62 湯浅 大悟/8回) 美術と教育、デザインと社会、デザインと思考、美術と生活、現代美術、美術館の役割など、美術に関する内容を担当する。	共同
		現代生活と教育	本授業では、少子高齢化や生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、我が国の社会構造や雇用環境が大きく急速に変化している。新しい学習指導要領に基づいた学校教育が展開されるなか、今後求められる教育についてその概要を学ぶ。特に小中一貫教育、子供たちの学力、多様な背景をもつ児童生徒、共生社会と学校教育の関連など今日的な教育課題について学ぶ。	
		現代生活と心と体	本授業では、人間を取り巻く現代生活の特徴、心や体の基本的知識、代表的な心や体に関わる問題(高齢化・少子化、依存症、ドメスティックバイオレンス、ジェンダー、ストレスなど)について理解を深める。また、自らの心と体に目を向け、現代生活で心や体を守るために必要なことについて考える力を養うことを目的とする。具体的には、心と体のつながりについて学ぶ。そして、身体機能と構造、健康診断、心の健康、心理検査に関する学びを通して、自分の心と体について理解を深める。その上で、現代生活における心と体に関する課題について、高齢化、少子化、依存症などのテーマを題材に理解を深める。	メディア
		現代生活と物理	本授業では、物理の基礎知識を学び、日常生活で起きる現象を客観的にみる力を養い、専門分野の学びを深めることにつなげることを目的とする。具体的には、物理の基礎知識を学ぶ。そして、生活と物理との関わりや物事の仕組みについて理解を深める。また、先端科学の知見を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (84 小田 研/10回) 物理の運動、熱と動力、電気と磁気、超伝導と先端科学技術、金属と半導体に関する物理の基礎をデモ実験や動画を通して観察し、それらの現象の幾つかについて議論・考察し、学ぶ。 (51 松澤 衛/5回) 音、光、コンピュータ内の物理現象についてデモ実験や動画を通して学ぶ。	オムニバス方式 メディア

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目 教養科目	現代生活と地球		本授業では、私たちが生きている惑星「地球」と現代生活とのつながりについて、理解することを目的とする。具体的には、まず、地球上で起きる様々な自然現象についてその仕組みから学ぶ。自然災害等がなぜ起きるのか、私たちはどのように自然災害と向き合うべきかを考える。地球誕生から現代までの時間を様々な時間スケールに置き換え、46億年の歴史を1年に縮め、宇宙の歴史における人類について考える。最終的に地球環境の変化と人間生活との関わりについて考え、環境の変化と人類の未来を見据え、私たちがどのように生きていくべきなのかを考える。	
	現代生活と環境科学		本授業では、人間をとりまく自然のおよび社会的環境とその中で生じている今日的問題について理解し、環境と人間の関わりについて考え、問題解決の方向を探ることを目的とする。具体的には、環境とは何かについて考える。地域環境と生命とのかかわりや、快適環境への人間の適応、現代生活における生活リズム・大気・水・化学物質等について考察を深め、地球を取り巻く環境の諸問題について考える。	
	北海道の文化		本授業では、アイヌ民族が先住民族として居住する地域に、明治以降に各地から200万人以上の人々が移り住んだ北海道において、移住地で庶民はどのような生活文化を築いたのか、庶民が営々と築きあげてきた日本の生活文化について、民俗学視点から学ぶことを目的とする。具体的には、昔から伝承された生活文化が、現在はどうに変化しているのかを、昔と今の文化を比較しながら、具体的な事例をもとに自文化について考察する。また人の移動と文化形成の視点から、北海道が新しい文化を受け入れやすいという道民性についても考える。	
	日本国憲法		本授業では、我が国の最高法規・国づくりの基本となり、私たちの住む国家・社会をどのように発展させていくかの指標ともいえる日本国憲法の内容、役割、機能を真摯に学ぶことを目的とする。具体的には、中学・高校と学んできた日本国憲法の知識をもとに、憲法の基本理念やしきみについて理解を深める。さらに、憲法が制定されて60年以上が経過する間に、多くの憲法問題、裁判例が蓄積されてきたことを踏まえ、現代的な諸課題についても主権者としてどうあるべきかを学ぶ。	
	情報社会及び情報倫理		本授業では、高度情報化社会における情報や情報技術、ネットワーク技術の正しい理解と活用を学び、社会生活における良い効果を生み出すことを目的とする。具体的には、情報技術の急速な発展に伴い、その利用方法や影響、役割について深く考察し、多様な情報メディアの特性や適切な活用法を理解する。また、情報倫理や著作権に関する責任についても学び、望ましい情報社会の構築に貢献するための積極的な態度を身につけることを目的としている。これにより、情報を正しく扱うための知識と責任感を養うことを目指す。	
	情報処理(中級)		本授業では、現代社会においてどの分野においても不可欠な要素となる情報処理技術に関して、基礎技術を基により高度な要求に応えられるような知識と技術を身につけることを目的とする。具体的には、アプリケーションを自在に操るためのマクロや、データの収集・整理・解析を行うデータベース構築の技術を学ぶ。また、プログラミングの初歩を理解し、実践的な情報処理技術を習得する。	
	情報処理(上級)		本授業では、コンピュータやスマートフォン、ネットワーク、ユーザーインターフェースの仕組みについて学び、その理解を深める。その上で、プログラミングの方法を学び、情報処理技術の更なる理解と実践力を養うことを目的とする。具体的には、コンピュータやスマートフォン、ネットワーク、ユーザーインターフェースの仕組みを理解する。プログラミングのより高度な方法を学ぶ。その上で、自分でプログラムを作成し、情報操作の技術を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目 就業力養成科目	キャリアデザインⅠ		本授業では、一人一人が明確な目的意識を持って学業や大学生活に取り組む姿勢を育み、主体的に自己の進路を選択できるようになることを目的とする。具体的には、現代社会の仕組みや労働市場について理解を深める。自己分析を通して自分の強みややりたいことについて考える。その上で、卒業後のキャリアデザインに関してイメージを自分なりに描く。また、決まった答えがない問題に対して、自分なりの答えを出す思考のスキルを身につける。	
	キャリアデザインⅡ		本授業では、キャリアデザインⅠに続く基礎科目としてキャリア意識の醸成を目的とする。具体的には、社会で求められるスキルを理解し、Project Based Learning (PBL) : 課題解決型学習を通して、自己理解を深め、前向きなキャリアデザインを描けるようにする。また、社会で起きているさまざまな課題について課題解決のために自ら考え、仲間と協力しながら解決方法を見出し、課題発見力・創造的思考力・協働的思考力とは何かを実践を通して学ぶ。教養、知識、経験を含めた汎用的能力の基盤育成を図る。	
	キャリアデザインⅢ		本授業では、主体的かつ継続的なキャリア形成を目指すにあたって、自らを取り巻く社会環境(働き方、業界・業種、社会保障その他)の仕組みを理解し、キャリアデザインにおける情報収集能力・状況把握能力等、基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には、自らの興味・関心と社会環境とのマッチング手法の考え方を理解し、各自の課題や目標の明確化を促す。加えて、キャリア支援センターの活用により、主体的・実践的な課題解決能力を身につける。	
	キャリア演習Ⅰ		本授業では、就職活動の全体像を理解し、実践的な知識・スキルの習得を目的とする。具体的には、就職活動の中で必ず求められる「自己PR」や「志望動機」を効力ある内容に充実させるために自己理解・自己分析を深め、更にその内容を相手に伝えるための訴求力あるコミュニケーション力の向上を目指す。また、今後の就職活動へ向けたマナーの習得、さらには各自が取り組んでいかなければならない課題の明確化と行動計画の策定に取り組む。	
	キャリア演習Ⅱ		本授業では、これから本格的に始まる就職活動(教員採用等も含む)の基本的な流れと内容について理解を深め、ビジネスマナーの基礎を理解し身につけることを目的とする。具体的には、面接やグループディスカッションの仕組みを理解し、実践的な演習を通して自己のコミュニケーション能力を正しく把握する。その上で、さらなる自主努力の必要性を理解し、自発的行動への意識を喚起する。そして、民間企業、福祉施設、教職、公務員など志望分野は異なっても、社会・職業への移行に必要な力の本質は同じであるという大原則について理解を深める。また、ビジネスマナーの基礎を理解し社会人としての立ち居振る舞いの修得する。	講義 8時間 演習 7時間
	キャリア演習Ⅲ		本授業では、就職活動本番の時期を迎え、面接試験を控えた学生に対し、演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を踏まえ、より各自の進路に即した具体的実践的な知識・スキルの習得を目的とする。具体的には、民間企業、福祉施設、教員、公務員等、志望する分野の特徴や傾向について情報を集め対策を講じる。グループディスカッションや模擬面接を通して、自分自身の強み・能力を整理し、訴求力あるものに仕上げ、それぞれの「面接力」の向上を目指す。	
	キャリア演習Ⅳ		本授業では、本学のキャリア教育科目の総括科目として、将来の進路決定の有無に関わらず、今後一生続く自らのキャリアを見つめる社会人としての視点を習得することを目的とする。具体的には、社会で活躍している人の講演や、ビジネスマナー、働く人の法制度等を学び、物事に対する俯瞰的視点を習得を図る。また、社会のルール、社会的行動への理解を深め、応用力を養成することで、社会人1年目から活躍できる「+αの社会人力」を身につけることを目指す。	講義 8時間 演習 7時間

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	就業力養成科目	就業力特別講義Ⅰ	<p>本授業では、民間企業の就職試験において90%以上実施されている筆記試験のポイントを理解し、論理的思考を習得することを目的とする。具体的には、SPIの非言語分野に絞り、解法のポイントを学ぶ。また、民間企業のみならず、他分野においても必要な論理的思考の醸成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(51 松澤 衛/1回) 「推論・ブラックボックス」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(26 小峯 秋二/1回) 「割合・比率・濃度算」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(35 竹内 雅明/1回) 「損益算」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(61 山田 潮/1回) 「仕事算・水槽算」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(69 荒川 巖/1回) 「速度算(速度・距離・時間)」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(107 佐藤 至英/1回) 「集合・順列・組み合わせ」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(64 小山 誠南/1回) 「表の読み取り」の解法とポイントを担当する。</p> <p>(144 増山 尚美/1回) 「グラフの領域」の解法とポイントを担当する。</p>	オムニバス方式
		就業力特別講義Ⅱ	<p>本授業では、就業力特別講義Ⅰで学んだSPIの解法を正しく理解し、自らの実践力を確認し、論理的思考の深度を図ることを目的とする。具体的には、「就業力になぜSPIの勉強が必要か」を問い、相互確認する。社会人基礎力における論理的思考の重要性を再認識することでSPI対策に自主的に取り組む姿勢を醸成する。SPI対策の実践では、就業力特別講義Ⅰの復習と応用問題に取り組み、正確でより速い解法力を育む。</p>	講義 8時間 演習 7時間
		インターンシップ	<p>本授業では、企業・団体等での就業体験を通じて将来の進路選択の際に必要な知識の吸収や社会に適用する価値観の獲得、社会人としての基礎力を培うことを目的とする。具体的には、インターンシップの意義、概要、流れを学ぶ。希望実習先の企業研究を行い、希望業種と希望職種について検討する。個人面談を受け、自己のテーマや目標を考える。インターンシップ実習(5日間)を通して、社会の仕組みや仕事とはどういうものかの理解を深め、組織の一員としてできることを明確にする。また、社会人としての価値観や基礎を身につける。事後指導において、自らの実習を振り返り、プレゼンテーションを行う。そして、指定テーマに基づきグループワークを行い、グループでの役割課題に取り組む。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
発展科目	心身・健康に関する科目群	発達心理学	本授業では、人が発達することの意味を理解し、ライフサイクルにおける変化を理解することを目的とする。具体的には、人間が一生をかけて発達する可能性があるという視点に立ち、誕生から死に至る人間の心理的発達過程について学ぶ。また、各発達ステージの相互の関係、発達を保證する条件とは何かなどについて、これまで明らかにされてきた研究成果から学ぶ。	
		人間関係の心理学	本授業では、人間関係を心理学の視点から包括的に理解することを目的とする。具体的には、日常における人間関係のさまざまな特徴を心理学の観点(人づきあいを避ける心理、他者から受ける影響、集団の中での振る舞いなど)から学ぶ。そして、人間関係をより良好にするための工夫(円滑なコミュニケーションも空気を読むなど)について、心理学の観点から理解する。その上で、人間関係における諸問題を心理学の観点から学ぶ。	メディア
		乳幼児心理学	本授業では、乳幼児の発達が、彼らを取り囲む社会的文脈(対人環境、社会・文化的環境)との接触の中で成し遂げられるという視点で、人生の最初期である乳幼児期の発達(身体発達、認知発達、言語発達、社会性の発達など)について学ぶことを目的とする。具体的には、乳幼児期の発達の変化について、さまざまな側面から学ぶ。乳幼児期の発達に関する代表的な理論や概念について学ぶ。	
発展科目	心身・健康に関する科目群	福祉心理学	本授業では、社会福祉学と心理学の学際的研究領域である福祉心理学とはどのような学問なのか、福祉の対応がどのような心理的影響を与えるのかについて明らかにすることを目的とする。具体的には、福祉の対応を必要とする人々の心理的特性ならびに福祉の対応に役立つ心理的技法、そして福祉施設における心理的問題などについて、いくつかの事例をもとに学ぶ。	
		育児支援の心理学	本授業では、現代日本における子育て支援の課題と、心理学的な視点からの解決策を学ぶことを目的とする。具体的には、少子化や核家族化が進行する社会で、家庭、地域、教育機関、企業がどのように協力して子育て支援を行うべきかを考察する。そして、発達心理学、家族心理学、臨床心理学などの知識を基に、養育者のメンタルヘルスや親子関係の維持向上を支える方法について深く理解する。また、虐待防止やソーシャルサポート、障害のある子どもやその親への支援など、子育てに関わる幅広いトピックを取り扱い、地域社会における子育て相談の重要性も学び、多角的な視点から子育て支援の実践に結びつける。	
		モチベーション心理学	本授業では、最新の心理学の知見をもとに、モチベーションの概念や低下する理由、やる気を引き出す方法について理解を深めることを目的とする。具体的には、モチベーションとは何か、なぜやる気が出ないことがあるのか、そしてモチベーションを高めるための具体的な方法について、様々な理論を学ぶ。そして、内発的・外発的動機づけの違いや、行き詰まりの要因を分析し、それに対処する方法を探る。また、目標設定や無意識の行動がモチベーションに与える影響についても考察する。学習を通して、モチベーションを日常生活にどのように適用するかを考え、やる気を維持・向上させるための実践的なスキルを身につける。	
		司法・犯罪心理学	本授業では、犯罪や非行を通じて人間理解と人間のあり方について考察することを目的とする。具体的には、犯罪や非行の背景、特徴、及びそれに対する対策や対応について、心理学的な視点から学ぶ。特に暴力犯罪や性犯罪、DV・ストーカー行為、少年非行、累犯者の障害といった問題に焦点を当て、それらに関連する原因論や対策を学ぶことで、心理職としての役割を理解する。また、犯罪被害者や累犯者に対する支援方針についても検討し、最終的に犯罪や非行を通して人間の行動や心理を深く理解する。	
		スクールカウンセリング	本授業では、不登校やいじめ、校内暴力、学級崩壊など、学校が抱える現代的な課題に焦点を当て、これらの問題に対する支援の在り方について考え、学校カウンセリングの理論や方法とその実情について学びを深めることを目的とする。具体的には、学校が抱えている心理社会的な支援ニーズについて理解する。そして、教育、心理、福祉の各分野が連携し、子どもたちの成長と学校生活の質を向上させるためのカウンセリング的支援の方法の基礎について学ぶ。また、現場での支援の実践について、スクールカウンセリングの理論と実践を学び、教職員や地域社会との協働、危機介入などの対応策についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
発展科目 社会と生活に関する科目群	青少年学習コーチング論		本授業では、青少年の学習活動を学校教育に限らず、地域における生涯学習活動の視点から捉え、青少年の健全な育成に向けた支援策を検討し、家庭教育、学校教育、社会教育が青少年の心理や生活に与える影響について理解を深めることを目的とする。具体的には、成人年齢の引き下げ、若者の就業、ヤングケアラーといった現代的な問題を中心に、青少年の行動や心理を考察する。また、青少年に対する支援の必要性とその具体的な方法について学ぶ、そして、青少年の支援に関するプレゼンテーションを通じて表現力を養い、諸外国の事例も取り上げながら、青少年を取り巻く課題に対応するための実践的な知識を習得する。	
	リカレント教育論		本授業では、成人が再び学び直し職業に回帰するための教育であるリカレント教育の日本での状況を中心に、先進事例としてアクティブラーニングにより、主体的で動的な学習を推進することを目的とする。具体的には、リカレント教育に対するOECD、ユネスコ、ILOといった国際機関の役割を学ぶ。日本の独特な雇用慣行がその進展に与えた影響を考察する。また、フランス、スウェーデン、ドイツといった先進国の事例を通して、各国の教育制度との関連性を探りながら、日本のリカレント教育の課題と背景についても理解を深める。	
	社会学		本授業では、「人々の社会とは何か」を明らかにする、社会科学の学問のひとつである社会学について、個人と社会、家族社会、地域社会、産業労働社会、福祉社会など、ミクロからマクロの現代社会における人間関係、少子化と高齢化など、現代社会の特質について学ぶことを目的とする。具体的には、社会学の基本的概念について学ぶ。そして、社会事象を社会学の基本用語を用いて理解する。また、現代の社会事象について、その問題と対策の理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
発展科目 社会と生活に関する科目群	生涯学習支援論Ⅰ		本授業では、教育基本法で定められている生涯学習の理念を念頭に置いた上で、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識と技術の習得を図ることを目的とする。具体的には、学習支援に関する教育理論について学び、多様な学習者と学習課題について理解する。そして学習支援に関する基礎的な知識・技術について学んだ上で、効果的な学習支援方法、学習プログラムの編成について理解する。	
	生涯学習支援論Ⅱ		本授業では、生涯学習支援論Ⅰで学んだことを基盤として、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識と技術の向上を図る。また、社会の変化に伴う社会教育主事、社会教育士の新たな役割について理解することを目的とする。具体的には、学習支援方法としての参加型学習、ファシリテーション技法について学ぶ。そして、地域社会の課題と生涯学習支援のあり方、現代社会における社会教育主事、社会教育士のあり方について理解を深める。	
	社会教育経営論Ⅰ		本授業では、社会教育における多様な主体と連携・協働を図りながら、学習の成果を地域課題の解決や地域学校協働活動等につなげていくために必要な知識と技術の習得を図ることを目的とする。具体的には、社会教育行政の役割としての地域の活性化を学び、社会教育計画の企画・立案について学ぶ。その上で、マネジメントの視点から効果的な社会教育事業の展開について理解を深める。	
	社会教育経営論Ⅱ		本授業では、これからの社会教育主事に求められるマネジメントの視点に立った効果的・効率的な事業の展開につながる知識と技術の習得を測ることを目的とする。具体的には、社会教育における地域の人材の育成について学ぶ。そして、社会教育を推進するための地域ネットワークの形成方法について理解する。その上で、社会教育施設における経営戦略について理解を深める。	
	社会教育課題研究		本授業では、人口減少や少子高齢化などのさまざまな社会背景における現代的課題をのらえ方を学び、社会的教育活動の展開の在り方などについて検討することを目的とする。具体的には、生涯学習と社会教育の立場や違いを整理し両者の役割と内容について具体的な事例などを交えながら学ぶ。さらに、生涯学習社会の実現のために社会教育が果たす役割について講義、演習を通じて学ぶ。 (共同/全15回) (23 尾山 清龍/15回) (24 川森 功偉/15回)	共同
	社会教育実習		本授業では、社会教育施設における子どもたちの体験活動事業の企画・立案、運営の実習を通して、これからの社会教育主事に求められる職務遂行のために必要な資質及び能力の総合的な養成を図ることを目的とする。具体的には、社会教育施設の役割と機能、青少年教育施設の意義と役割、子どもの学力と体力、体験活動の必要性と効果について理解を深める。その上で、青少年教育施設における体験活動プログラムの企画・立案、運営について、実践的な演習を通して理解を深める。	共同 講義 20時間 実習 40時間

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
文化と芸術に関する科目群 発展科目	音楽概論		本授業では、音楽の基本理念とその知識を定着化させ、『音楽』の歴史を考察する。音楽の三要素『旋律』『ハーモニー』『リズム』の成り立ち、楽曲における記号や詩を読解し、表現方法としての声や楽器の種類、構造と発音原理など、様々な角度から学ぶことを目的とする。具体的には、歴史的背景を踏まえて音楽基礎の理論を学ぶ。そして、音楽と詩の関係性を学び、楽譜と言葉について理解する。また、様々な楽器の種類を学び、その多様性と新たな音楽の創造ができるようにする。	
	音楽鑑賞法		本授業では、記憶の芸術であり、何らかの現象や情景を思い描かせる音楽の鑑賞をする際に、より深い理解と楽しみ方を得るために必要な知識と手段を知ることが目的とする。具体的には、音楽の鑑賞の学術的分析方法を学ぶ。そして、芸術的な名曲が、その時代の歴史的時代を要約し、普遍的な真実を語ることを理解する。また、楽譜を見ながら作品を鑑賞し、分析方法「楽曲アナリーゼ」を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (48 千葉 圭説/5回) 金管アンサンブル、木管アンサンブル、オーケストラ作品など器楽に関する内容を担当する。 (56 坂田 朋優/5回) さまざまな鍵盤楽器、ピアノ改良による楽曲の変化、ピアノを含むさまざまな演奏形態などピアノに関する内容を担当する。 (63 岡元 教司/5回) ルネッサンス音楽、バロック音楽、オペラ作品、合唱曲など声楽に関する内容を担当する。	オムニバス方式
	音楽史		本授業では、西洋音楽史と日本音楽史、日本の音楽と世界の音楽の相違点について学ぶことを目的とする。具体的には、西洋音楽史の現代の音楽にいたる道のりを認識し、各時代の音楽的特徴と音楽が生まれた背景を踏まえて、その時代の作曲家の作品にふれながら学ぶ。また、日本音楽史について、雅楽・能・狂言を中心に古典芸能としての舞台芸術にいたるまでの知識を得て、日本独自の音楽文化を理解する。さらに、日本の音楽と世界の音楽との相違点について学ぶ。	
	美術史		本授業では、西洋美術と日本美術の変遷を理解し、現代美術の多岐にわたる様相を考える手がかりを得ることを目的とする。具体的には、西洋と日本の美術史の流れを、当時の宗教や政治、経済など社会との関係の中で理解し、美術作品を鑑賞する際の基本的な視点についても学ぶ。そして、西洋美術は、ルネッサンスから20世紀まで、日本美術は飛鳥時代から現代までの美術史を通してそれぞれの変遷を理解する。さらに、日本の伝統美術とアジアの美術の潮流を眺めながら、こうした展開を具体的な作品を取り上げて鑑賞しながら検証する。	
	ファッションデザイン概論		本授業では、ファッションの持つ社会的役割の変遷やファッションの生活の中における役立て方について学ぶことを目的とする。具体的には、日常生活における衣服・ファッションについて、基本的要素のデザイン、造形・色彩のセオリーを通して内面的・外面的な美しさについて学ぶ。フォーマルウェアのルール・マナーについて理解する。そして、ファッションデザインの意義と可能性を理解する。	
	インテリアデザイン		本授業では、インテリアデザインを学習する上で必要な、基本的知識の修得を目的とする。具体的には、インテリアデザインの成立要素、人体寸法、インテリアと人間工学、内装材料、モジュールと工業化、室内環境の要素、室内環境と法規において理解し、インテリアデザインの基本的手法を習得する。	
	ユニバーサルデザイン		本授業では、建築計画をユニバーサルデザインの視点を取り入れ、少子超高齢社会に対応するための、保育園・幼稚園、小・中・高校、各種学校、高齢者施設・医療施設をはじめ都市計画について学ぶ。また多くの人々に使いやすく、多様なニーズに対応可能な、これからの社会に対応できる建築計画について習得することを目的とする。具体的には、少子超高齢化社会に対応した建築計画、ユニバーサルデザインから建築計画を学ぶ。そして、高齢者施設、グループホーム、医療施設、学校教育施設、地域コミュニティなどについて学ぶ。また少子超高齢社会に対応できる建築計画の知識と技術を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	生涯スポーツ学	○	<p>本授業では、幅広い年代や多様な特性をもつ人々に向けて生涯スポーツを推進していくために必要な生涯スポーツ学の知識を身につけることを目的とする。具体的には、生涯の各時期におけるスポーツ活動の社会・環境要因や個人要因(性・年齢・性格・職業・体力等)、指導者の役割や必要な資質について理解する。さらに氷雪寒冷圏域における生涯スポーツの基礎的理論とその現状や課題について理解を深め、全体を通して今後の課題について考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 小坂井 留美/7回)</p> <p>生涯スポーツ社会の現状、世界の生涯スポーツ、高齢者スポーツ、スポーツの文化的価値、障がい者スポーツについて担当する。 (21 大崎 哲也/3回)</p> <p>スポーツ振興とクラブ運営及び生涯スポーツのイベントやビジネスに関する内容について担当する。 (71 五十嵐 美生/5回)</p> <p>青少年スポーツ、健康・スポーツ政策の変遷及び運動実践による健康づくり事業、生涯スポーツ指導者、スポーツ施設の運営と管理に関する内容について担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	生涯学習概論Ⅰ	○	<p>本授業では、生涯学習社会の実現に向け、生涯学習の基本的な考え方や内容について理解することを目的とする。具体的には、人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会の実現を目指すためのあり方について学ぶ。さらに、生涯学習と生涯教育の関連構造、生涯学習と社会教育、生涯学習と自己形成の関わりなどについて学ぶ。あわせて、国内外の生涯学習の歴史的背景などについても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (23 尾山 清龍/13回)</p> <p>生涯教育の意義と目的、生涯教育から生涯学習へ移行した経過と内容について担当する。 (24 川森 功偉/2回)</p> <p>生涯学習関連行政と施策、社会教育行政の意義、社会教育関連団体の意義に関する内容を担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	生涯学習概論Ⅱ	○	<p>本授業では、生涯学習を推進する社会教育の専門的職員である社会教育主事(社会教育士)としての知識や技能を習得し、生涯にわたる人々の様々な学習活動を支援する指導者の養成を目的とする。具体的には、社会教育主事(社会教育士)に求められる資質や能力、社会教育施設の概要や特徴、地域課題に対応した地域づくり方策を学ぶとともに、次世代を担う子どもたちの育成を地域全体で取り組むための体制づくりや学校教育との連携方策を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (23 尾山 清龍/13回)</p> <p>社会教育行政の専門的職員としての社会教育主事の資質と能力、職務と実践的事例に関する内容を担当する。 (24 川森 功偉/2回)</p> <p>生涯学習社会と学校教育の関係性と役割、家庭教育の意義と役割、学校、家庭、地域の連携に関する内容を担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	健康学	○	<p>本授業では、現代社会に生きる我々がどのように健康づくりを実践していけばよいかについての基礎知識を身につけることを目的とする。具体的には、わが国のどのような健康づくり対策がなされているかについて学ぶ。その上で、健康づくりの3要素である「栄養・運動・休養」がそれぞれどのように健康と結びついているかについて、またその相互関係について科学的なエビデンスをベースに学ぶ。最後に、健康づくりを行動に結びつける難しさを理解し、そのための方策のひとつである行動変容理論について学ぶ。</p>	主要授業科目
	基礎解剖学	○	<p>本授業では、正常な人体の構造について肉眼解剖学的にさまざまな器官の形態学的特徴と空間的位置関係を概説し、機能別に各器官の相互関係を学ぶことを目的とする。具体的には、各器官を骨格系、筋系、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系に分けて概説し、学校教員、スポーツ指導者、健康運動指導士やアスレティックトレーナー等の資格取得を目指すもの等が、各器官の基本構造や機能を説明できるようになることを目指す。</p>	主要授業科目 メディア

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	生理学	○	本授業では、身体の各器官の働きを解明する学問である生理学の中でも、ホメオスタシスとして知られる内部環境の維持に焦点を当て、生理学の基本原則を理解することを目的とする。さまざまな身体内部器官がどのように連携して機能を果たし、身体が内部および外部の変化に適応できるかを理解する。具体的には、酸素と二酸化炭素のレベルを調節する呼吸器系、栄養素の分配と血圧の維持を担う循環系、代謝や成長などのプロセスを制御する内分泌系、そして、環境刺激に対して迅速に反応する神経系の働きについて学ぶ。	主要授業科目
	基礎栄養学	○	本授業では、戦後の生活水準の向上に伴い、栄養摂取の過多や偏りが生活習慣病の原因となっている現状を踏まえ、各栄養素の役割や代謝、そしてその生理学的意義について学ぶこと、食習慣や栄養摂取の重要性を意識し、個人の栄養状態を評価し、食生活の改善策を立てる能力を養うことを目的とする。具体的には炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素を取り上げ、さらに水分補給やエネルギー消費量の算定方法についても学習する。最終的には、日常生活に役立つ理想的な食習慣を構築し、2年次に開講される「スポーツ栄養学」への理解を深める基礎知識を習得することを旨とする。	主要授業科目
	スポーツ倫理学		本授業では、これまで「する」対象であったスポーツやその周辺で起こる事象について論理的、批判的に「考える」ことで、スポーツに対する理解を深めることを目的とする。具体的には、スポーツやその周辺で起こる事象のうち、特に善悪の判断が付けがたいものを取り上げながら論じていく。はっきりとした答えがあるわけではない事象に対し、どのように考えていくかについてのプロセスを学んだ上で、学生自身が考える。	メディア

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	基礎統計学	○	<p>本授業では、スポーツ科学における統計解析の基礎から応用までを学ぶことを目的とする。具体的には、記述統計や仮説検定、回帰分析、分散分析、多変量解析など、スポーツパフォーマンスやトレーニングデータを解析するための手法を扱う。統計ソフトを使用し、実際のデータを用いた実践的な演習を通じて、データの可視化と解釈能力を養う。最終的に、スポーツ科学におけるデータ解析の結果を的確に解釈し、研究に応用できるスキルを習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (25 黒田 裕太/4回) スポーツ科学における統計学の導入、記述統計、確率と確率分布を担当する。 (20 畝中 智志/4回) 仮説検定の基礎、t検定とその応用、分散分析 (ANOVA) を担当する。 (9 小坂井 留美/4回) 回帰分析の基礎、相関分析、データの可視化と解釈を担当する。 (17 山本 敬三/3回) 多変量解析、統計ソフトの実践、総合演習と最終発表を担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	福祉入門	○	<p>本授業では、福祉に関する基本的な知識と価値・倫理について学習し、福祉の考え方を理解することを目的とする。具体的には、福祉は「人の生活の困りごと」を学習する。「人」とは、当事者、利用者、その家族または何らかの支援を求めているクライアントと呼ばれる人々のことを指す。「人」や私たちが生活している「地域」を理解するために前提となる福祉の価値や倫理などの考え方を理解する。また、「人」や「地域」を理解するために必要となる知識を身に付け、これからの社会福祉への理解とともに学ぶ意義について考えることができるようになることを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (31 吉田 修大/15回) 15回すべての講義を担当する。 (8 黒澤 直子/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (37 久野 真知子/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (38 吉田 竜平/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (36 竹田 千春/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。</p>	主要授業科目 共同
	介護予防論	○	<p>本授業では、介護予防を推進していくために必要な知識や技術を習得することを目的とする。具体的には、今後の超高齢社会に対応していくために高齢者がサービスの受け手ではなく、担い手として活躍できるような社会への転換を図っていくことが求められている現状を受け、住民主体の介護予防事業を支援できるように学びを深める。具体的には老年学や老年症候群、口腔機能、運動学に関する基礎知識を学び、筋力増強や転倒予防を目的としたトレーニングについても学ぶ。さらに本科目の応用科目である「介護予防実践演習」につなげていくため、介護予防計画についても学ぶ。</p> <p>(共同/全15回) (9 小坂井 留美/4回) 老年症候群の早期発見、介護予防の背景を担当する。 (4 上田 知行/4回) 筋力増強・転倒予防のためのトレーニングを担当する。 (6 小田 史郎/5回) 介護予防計画、運動学を担当する。 (31 吉田 修大/4回) 老年学、口腔機能を担当する。</p>	主要授業科目 共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	認知症予防	○	<p>本授業では、わが国において拡大の一途をたどっている認知症に対して予防活動を進めるための専門知識を身につけることを目的とする。具体的には、講義では、まず1次予防～3次予防までの考え方や認知症の病態等についての正しい知識を習得する。さらに予防において重要である早期発見の観点から認知機能を評価する方法や、予防活動について個人や地域でできる方策について最新の知見をもとに学ぶ。そして、これらの知識をもとに認知症予防の具体的なプランについて考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 小田 史郎/13回) 予防の考え方、認知症の病態、具体的なプラン作成を担当する。 (9 小坂井 留美/2回) 認知機能の評価を担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	高齢社会の街づくり		<p>本授業では、福祉環境整備における国および自治体の制度・政策についての知識を修得した上で、高齢社会の街づくりを考えることができる能力を身につけることを目的とする。具体的には、福祉環境整備の制度・政策やバリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解を深める。また公共的建築物の福祉環境整備調査項目、①駐車場・アプローチ、玄関出入り口・手すり・スロープ等、②トイレ・エレベーター・エスカレーター等、③自動販売機・コンセントとスイッチ・標示板等について、大学のキャンパス内で検証しながら、バリアフリー・ユニバーサルデザインについての考え方をまとめる。</p>	
	コミュニティワーク入門	○	<p>本授業では自分が住んでいる地域の理解から理解を深めつつ、地域社会の諸問題について関心が持てる感性を磨くことを目的とする。具体的には地域特性や社会資源を把握し、人々の「暮らしと生活」への理解を図る。地域で暮らすことに対する課題意識を自分なりに持てるよう、自ら地域に入り生活課題に気がつくことができる力を習得する。さらに、地域で暮らす人たちの生活課題に対し、その課題の解決方法についても考察し、他者と協働し向き合うことができる力を涵養する。</p>	主要授業科目
	専門演習 I	○	<p>本授業では、選択した学問領域の内容及び研究の基礎を学習することを目的とする。具体的には、選択した学問領域へのより高い関心、問題意識を持つことができるように、教員、学生双方の協力によって積極的なゼミナールを運営しながら進める。</p> <p>(3 井出 幸二郎) スポーツ生理学や体力測定の方法を学ぶ。スポーツ科学に基づいた運動処方やトレーニング指導ができる人材養成を目指す。</p> <p>(4 上田 知行) 地域における健康づくりのための運動を普及し定着化させるには、どのような方策が必要か、指導プログラムや支援方法を中心に検討を進める。そのために地域住民やそれを支える専門職との交流を積極的に行う。</p> <p>(20 畝中 智志) スポーツ心理学の基礎知識を身につけることを目指す。具体的には、運動学習、動機づけ、競技に関する実践心理、発達、メンタルトレーニングの内容について、教科書の内容をまとめ、発表していく形で進める。発表を通して、内容をまとめる力やプレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(21 大崎 哲也) スポーツジャーナリズム、マネジメント理論などについての理解を深め、学校体育、公共スポーツ、地域スポーツ、民間スポーツ、プロスポーツを中心に、スポーツジャーナリズムを観点とした諸問題について考える。そして、実践力につなげられるよう、知識を蓄える。</p> <p>(22 大宮 真一) 陸上競技コーチングまたは子どもの発育発達の知識を実践を通して身につける。さらに、卒業研究に向けた計測機、分析ソフトの使用スキルを身につけることを目標とする。江別市内における小学生走り方教室での指導補助を行う。</p> <p>(5 沖田 孝一) 健康医学の基礎知識を身につけ、研究資料および新しい情報などを正しく解釈し、まとめ、考察できる能力(基礎知識および応用力)を身につけ、さらに各自が興味を持つ健康・スポーツ医学のテーマについて研究の計画、データ収集・解析、そして考察・プレゼンテーションを行う能力を身につける。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習Ⅰ	○	<p>(6 小田 史郎) 健康づくりを運動と休養の2つの視点から捉え、特に良好な睡眠を得るための生活方法を探ることを最大のテーマとする。文献検討によって基礎知識の習得を目指すほか、睡眠や生理データを測定する手法について学ぶ。</p> <p>(23 尾山 清龍) 生涯学習に関する学びを基に、青少年教育施設をはじめとした社会教育施設や社会教育行政への理解をさらに深めるとともに、行政と地域の関りを通じた地域づくりについて広く学ぶ。</p> <p>(24 川森 功偉) 社会教育や地域づくりに関する分野への理解を深め、学外における実践を重視し、主に社会教育や地域づくりを推進する実践力を養う。</p> <p>(8 黒澤 直子) 社会に広く関心を持ち、さまざまな状況に置かれた人々を理解できるよう学びを深めることを目的とする。社会福祉に関わる文献や新聞記事などを資料として、ディスカッションを中心として学ぶ。文献講読では、レポートの作成、報告、グループでのディスカッションを通して、考え学び合う力を身につける。検討し合う中でさまざまな視点を知り、考察を深め、各自の関心あるテーマ設定へつなげる。</p> <p>(25 黒田 裕太) 基礎栄養学およびスポーツ栄養学の授業で学んだ内容を深化させる。最新の知見を整理する上で、国内外の学術論文を精査し新たな知見を取得する。その上で、新規的および独創的な研究を実施し、検討することを目的とする。</p> <p>(9 小坂井 留美) 生涯スポーツ学、老年学、健康科学領域の知識を深めるため、研究活動の基礎となる科学的思考・文献読解力を習得する。</p> <p>(26 小峯 秋二) スポーツコーチング及びスポーツマネジメントの基礎知識について学習し、スポーツ指導におけるコーチングスキルやチームマネジメント等の諸課題とその解決に向けた方法について考察できる能力を習得する、また、スポーツイベントの計画立案に必要な知識について学習する。</p> <p>(32 今 竜一) 保健体育科教育学を理解し、小・中学校に向く対外的な活動を通して、保健体育教員になるための資質・能力を身につける。併せて、保健体育の授業を展開するうえで糧となる各資格の取得も目指す。また、学年・学級経営、不登校・いじめ問題、保護者・地域との連携などについても学習し、学校教員として勤めるうえでの知見を広げる。</p> <p>(33 坂谷 充) 野外運動の代表的な活動として「登山」を取り上げ、基礎的な理論や技術などについて総合的に理解を深めることを目的とする。事前講義では登山に関する、歴史、気象、服装・装備、動植物、地図とコンパスの使い方、北海道の山域などについて、学生が主体となって学びを進める。そしてそれらの理論や知識を用いて7月または8月に1泊2日程度の活動（無雪期テント泊縦走登山）を計画・準備し、主体的に安全に実施ができる能力の獲得を目指す。</p> <p>(34 白川 敦) 保健体育科教員としての専門性を高めるため、学校現場で起こりうる多様な課題に対し、どのように考え行動すべきかを複数名で議論し、他者の視点を取り入れながら自らの考えを広げる演習を行う。また、実際に学校を訪問し、保健体育の「わかる・できる授業」を体感するとともに、現職教員との意見交換を通じて、保健体育科教員が担う指導や生徒支援、学校運営における役割への理解を深める。</p> <p>(10 杉岡 品子) 人間の生涯にわたり、健全な生活を送るために欠かすことのできない“心”と“身体”について、多角的な視点（人間の発達、心身のバランス、ヘルスケアとメンタルケア、予防等）でとらえ、理解を深める。そして、自己の探究を行う。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習 I	○	<p>(11 高田 真吾) 骨格筋・運動トレーニングを科学的に分析するための基礎的な知識・技術を学ぶことを目的とする。正確かつ再現性の高いデータを取得する技術・知識を習得する。また、収集したデータを適切に処理、解釈することを学ぶ。これらにより、運動の効果を客観的かつ科学的に評価し、先行研究の問題点・改善点を見出すための重要なスキルを身につけることができる。基礎編では、先行研究の測定方法やデータの初歩的な理解を深め、健康医学的視点からの研究アプローチの土台を形成することを目指す。</p> <p>(12 瀧澤 聡) 発達障害等の障害、いじめの経験、不登校、外国籍などの特別なニーズのある幼児、児童又は生徒に対し、彼らの多くが抱える心理学的生理学的な諸課題を、スポーツや運動を通して軽減あるいは解消可能な方法論を探求することが目的とする。そのために学校現場や福祉施設を視察しながら、幼児児童生徒理解を深め現状を認識する。そして、具体的な方法論としてのシェルボーン・ムーブメントを学び、そのスキルを獲得する。</p> <p>(35 竹内 雅明) 自らが専心的に取り組んでいるスポーツ種目のルールや歴史、競技規則・審判法の知識と基本技術や技能の理解を深めるとともに、他種目の歴史、競技規則・審判法や基本技術や技能についても学び、パフォーマンスアップの方法を考える。また、コミュニケーションやプレゼンテーション、セルフマネジメントや様々な思考について学び、競技スポーツのコーチングに必要な能力について考える。</p> <p>(1 竹田 唯史) 冬季スポーツに関する、体力、技術、指導方法について学習し、冬季スポーツの基本的な研究方法を理解する。先行研究や論文を検討しながら、体力測定の実施方法、技術分析方法、指導方法について学ぶ。将来、体育教師・スポーツ指導者・アスリートとして必要な知識と技術を習得することを目指す。</p> <p>(36 竹田 千春) 介護福祉、高齢者支援、認知症などを軸とした社会福祉領域における学生の関心事に沿ったテーマについて基本的知識の習得と体験的な学びを通じた考察力を身につけることを目的とする。卒業研究に向けた初歩的取り組みとして文献検索の方法、学内講義における学びの統合、レポート作成技術などの知識も習得できることを目指す。また、他者理解が必要な分野の体験的な学びとして、見学などのフィールドワークも行う。</p> <p>(13 立田 祐子) 特殊教育・特別支援教育の歩みについて理解を深め、将来的に、特別支援教育に携わるために必要な資質を身につける。また、実際の教育や福祉の現場を視察、先行研究や文献を通して現在の特別支援教育における諸課題をレポートやパワーポイントでまとめ発表するスキルの向上も目指す。併せて、卒業論文を作成するために必要となる質問紙調査、インタビュー調査などの技法について学ぶ。</p> <p>(2 永谷 稔) 基本的なマネジメント理論、モチベーション、リーダーシップなどについての理解を深め、学校体育、公共スポーツ、地域スポーツ、民間スポーツ、プロスポーツを中心に、マネジメントを観点とした諸問題について考える。そして、実践力につなげられるよう、知識を蓄える。</p> <p>(14 野戸谷 睦) 特別支援教育についての理解を図り、将来特別支援学校教員として必要な資質の向上を図ることを目標とし、障がい者スポーツの理解を深めるため、実際の活動を見学したり、参加することを行い、実践的な理解を図る。</p> <p>(15 花井 篤子) 水泳・水中運動・水療法などを包括したアクアフィットネスについての理解を深め学ぶことを目的とする。先行研究などについて調べたり、プール実習などを通じて応用健康科学的な視点からの研究アプローチについて学ぶ。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習Ⅰ	○	<p>(37 久野 真知子) 「ケア」「支援」「家族」「障害」など、社会福祉に関連するテーマについて、文献購読を通して学習する。また、関連する新聞記事等も活用し、実際に社会の中で起こっていることと結びつけて理解を深めていく。そして、文献購読は、レポート作成、発表、ディスカッションを積み重ね、考察する力を身につけていく。これらの学びを通して、自分の関心あるテーマ設定を行う。</p> <p>(28 廣田 修平) スポーツ運動学の基礎理論を学習するとともに、実際の運動指導場面での実践指導補助を行う。運動指導の実践現場に立つことで、年齢や対象者ごとの課題解決に向けた道標の立案方法を実践的に学習する。</p> <p>(16 森 靖明) 教員として必要な資質・能力を身に付けることを目的として、学校現場において起こりうるさまざまな事象に対し、教員としてどう考え、行動するかについて複数名で検討することにより、他者の視点も取り入れながら自らの考えを広げる演習を行う。また、学校現場に出向いて優れた授業を見学するとともに、現職教員と直接意見交換することにより、教職についての理解を深める。</p> <p>(29 八巻 貴穂) 介護や介護予防、認知症、認知症予防など広く介護実践について学生の興味関心にあわせてテーマを決め学習を行う。見学や実践を通じて、具体的に考察し行動できる力を身に付けることができるような授業を展開する。また介護に必要な「人の生活」を理解するための学習も行う。</p> <p>(17 山本 敬三) スポーツ動作を科学的に分析するための基礎的な計測装置の使用方法を学ぶことを目的とする。使用する機器には、光学式3次元動作分析装置、床反力計、筋電図などが含まれる。これらの装置を活用し、正確で再現性の高いデータを取得する技術を習得する。また、収集したデータをPC上で適切に処理し、動作分析に役立てるための基本的なデータ解析技術も学ぶ。これにより、スポーツの動作やパフォーマンスを客観的かつ科学的に評価し、動作の改善点を見出すための重要なスキルを身につけることができる。基礎編では、これらの計測や分析技術の初歩的な理解を深め、バイオメカニクスの視点からのアプローチの土台を形成することを目指す。</p> <p>(30 横山 茜理) コーチングの基礎理論を学習するとともに、実際の指導場面での実践指導補助を行う。運動指導の実践現場に立つことで、年齢や対象者ごとの課題解決に向けた道標の立案方法を実践的に学習する。また、ゲームパフォーマンス分析を活用し、個人やチームの戦術についても学びを深めることを目指す。</p> <p>(31 吉田 修大) 社会福祉に関連する学習したいテーマ探索を学生とともにを行い、関心ある内容を深めるための学習を行う。特に講義ではあまり取り扱われることが少ない生活課題に着目し、「孤立や孤独」「高齢者の生活」に関連する諸課題について知識を深め、自ら探求できる力を習得する。</p> <p>(18 吉田 真) 研究方法論に基づいた文献考察を通じて、最新のスポーツ医・科学の知見を効率的に収集し、実践へと活かす力を養成することを目的とする。具体的には、エビデンスに基づく適切な判断を下すための文献検索技術や、得られた情報を批判的に考察する能力を身につけることが求められる。また、これらの知識や技術は、臨床現場での判断や対応において科学的根拠を取り入れ、より効果的なサポートを提供するための重要な要素となる。そこで、本科目ではアスレティックトレーナーに求められる高度な専門性を強化するためにも、実践研究の意義と研究方法論について学ぶ。</p> <p>(19 吉田 昌弘) アスレティックトレーニング分野における臨床的問題について、最新の知見を収集し、学術的データを基に解決方法を検討する。現在の問題点を具体化し、解決するための研究方法論を学ぶ。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習 I	○	<p>(38 吉田 竜平)</p> <p>今日における日本の社会の姿について国際比較を通じて理解することを目的とする。国際比較のデータからこれからの日本に求められる社会福祉のあり方についてディスカッションを行う。日本において、普通や常識などと自明化されていることに惑わされずに、データを基に現実への批判的視点を持ちながら、これからの社会福祉を展望する。家族、ジェンダー、教育、人間関係、経済・仕事、政治・社会運動などをテーマとして、今後の社会福祉はどうあるべきかを多角的に検討する。</p> <p>(39 渡部 峻)</p> <p>はじめに日常の歩行や椅子からの立ち上がりなど比較的ゆっくりな動作を題材にバイオメカニクスの視点から分析を実施し、基礎的な計測装置の使用方法を学ぶことを目的とする。使用する機器には、光学式3次元動作分析装置、床反力計、筋電図などが含まれ、これらの計測や分析技術の理解を深め、バイオメカニクス分析アプローチができることを目指す。</p> <p>(40 渡邊 千佳)</p> <p>アスレティックトレーニング分野の専門知識とスポーツ現場における課題解決能力を高めることを目指す。さらに、最新の知見や動向を主体的に収集・分析する力を身につけ、学術的データを基に課題を解決するための研究方法論や批判的思考も学び、将来的に専門職として現場に貢献できるスキルを獲得する。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部基盤科目	専門演習Ⅱ	○	<p>本授業は、専門演習Ⅰで学習した内容を深め、さらに種々の課題を確認しながら課題解決の為に必要な基本的な訓練を行うことを目的とする。具体的には、選択した学問領域への関心をより深める。それを、卒業研究に発展する。</p> <p>(3 井出 幸二郎) これまでの卒業研究や学生各々が抱えている疑問点に従って課題を設定し、専門演習Ⅰで学んだ生理学的データ取得方法・体力測定方法を用いて、卒業研究に向けたデータ取得を試みる。得られたデータの解釈及びプレゼンテーション技術を身に付けることを目指す。</p> <p>(4 上田 知行) 地域における健康づくりのための運動を普及し定着化させるには、どのような方策が必要か、専門演習Ⅰの内容を深め、指導プログラムや支援方法を中心に検討を進める。そのために地域住民やそれを支える専門職との交流を積極的に行う。</p> <p>(20 畝中 智志) 専門演習Ⅰで学んだ内容を基に、実際にグループで実験や調査を実施する。体育・スポーツの心理に関わる疑問点を議論し、テーマを設定する。実験や調査を通じて、先行研究(論文など)の読み方や方法の考案、結果のまとめ、考察の仕方など、卒業研究に結びつく内容を学ぶ。</p> <p>(21 大崎 哲也) スポーツジャーナリズム、マネジメントの現場演習として、学校教育、社会体育、企業スポーツ、プロスポーツ、地域スポーツなどのマネジメント場面に参加もしくは運営を経験し、実体験から実践力を高めていく。</p> <p>(22 大宮 真一) 陸上競技コーチングまたは子どもの発育発達において、専門演習Ⅰで得た知識を基に興味のある論文を要約、プレゼンテーションを通じてオリジナリティある研究課題を創出することを目指す。江別市内における小学生体力向上実践、中学生陸上クリニック、高校陸上選手体力測定、札幌市内外の幼稚園・保育園の体力測定や運動能力を高める現場実践を行う。</p> <p>(5 沖田 孝一) 3年次前学期開講の「専門演習Ⅰ」以上に学生各人の問題意識を高める。そして、その課題を発展させて次年度の「卒業研究」へと発展させることを目指す。</p> <p>(6 小田 史郎) 専門演習Ⅰで得た知見をもとに具体的に調査や実験をもとにデータを取得し、分析を行うことで、スキルを身につける。また卒業研究を見据え、興味関心のあるテーマについての文献検討を進める。</p> <p>(23 尾山 清龍) 専門演習Ⅰでの学びを生かし、住民やその地域のステークホルダーとともに地域づくりに必要な調査や具体的な行動について考え、議論することを通して卒業研究に向けた調査の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>(24 川森 功偉) 社会教育や地域づくりに関する分野への理解を深め、学外における実践を重視し、主に社会教育や地域づくりを推進する実践力を養う。</p> <p>(8 黒澤 直子) 専門演習Ⅰでの学びに基づいて、社会福祉に関する各自のテーマ設定につなげるための理解を深める。テキストを用いて、レポート作成における構成と、作成に関する基礎的技術と各種調査を用いた情報収集、課題探索能力の習得を目指す。さまざまな問題に対して多角的な視点からの評価、検討を行い、論理的に考察する能力を身につける。また、テーマに関連した活動等を通じて実践的な学びを深める。</p> <p>(25 黒田 裕太) 基礎栄養学およびスポーツ栄養学の授業で学んだ内容を深化させる。最新の知見を整理する上で、国内外の学術論文を精査し新たな知見を取得する。その上で、新規的および独創的な研究を実施し、検討する。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部基盤科目	専門演習Ⅱ	○	<p>(9 小坂井 留美) 専門演習Ⅰでの学習を基盤に、生涯スポーツ学、老年、健康科学領域における課題を議論し、その事象の理解や改善につながる調査や測定の基本的な知識・技術を習得する。</p> <p>(26 小峯 秋二) 青少年スポーツを対象としたコーチングやチームマネジメントの課題とその改善方法について考察し解決できる能力を習得する。また、スポーツイベント実習のボランティア体験を通じて「ささえるスポーツ」の重要性について、考察を深めることを目指す。</p> <p>(32 今 竜一) 保健体育科教育学を理解し、小・中学校に向く対外的な活動を通して、保健体育教員になるための資質・能力を主体的に高める。併せて、保健体育の授業を展開するうえで糧となる各資格の取得も目指す。また、現代の教育課題の把握をはじめ、学年・学級経営、不登校・いじめ問題、保護者・地域との連携などについても省察する。</p> <p>(33 坂谷 充) 冬季自然体験活動（スノーシュー、歩くスキーなど）について、基礎的な理論や技術、安全などについて総合的に理解を深めることを目的とする。事前講義では冬季自然体験活動に関する、気象、服装・装備、動植物などについて、学生が主体となって学びを進める。また実習では、雪中泊（イグルー、雪洞など）を通して、冬季の自然の利用方法や楽しみ方、そして厳しさを理解する。事前に学んだ理論や知識を用いて1月に2泊3日の冬季自然体験活動（雪中泊および冬季自然体験活動）を計画・準備し、主体的に安全に実施ができる能力の獲得を目指す。</p> <p>(34 白川 敦) 専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで培った視点をさらに発展させ、保健体育科の授業づくりに実践的に取り組む。グループでの協働を通じて学習指導案を作成し、現場の教員をメンターとして迎え、指導と評価の一体化を踏まえた授業構想を練る。また、年間指導計画の作成や意見交流を行うことで、保健体育科教員としてのカリキュラム・マネジメント力や実践的指導力の向上を図る。</p> <p>(10 杉岡 品子) 専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、“心”と“身体”について自らの興味・関心のあるテーマに関して、先行研究の読解などを行う。そして、プレゼンテーション、討議を通して、自らの問題意識の方向性を定める。また、ボランティア活動体験を通して、自らの研鑽に努める。</p> <p>(11 高田 真吾) 基礎（専門演習Ⅰ）で学んだ技術・知識を応用し、さらに高度なデータ解析方法を習得する。実際に取得したデータをもとに、統計的手法を用いて、運動の効果を明らかにする。また、そのデータを活用し、学術会議でプレゼンテーションするための抄録作成、スライド作成、プレゼンする能力を養う。これにより、研究結果を他者に正確に伝え、科学的な議論を行う基盤を作る。最終的には、万人が運動の効果を得られる条件を見出すことを目指す。</p> <p>(12 瀧澤 聡) 専門演習Ⅰで学習したことがらをさらに発展させるため、特別なニーズのある幼児、児童又は生徒に対し、効果的な運動やスポーツの探索、またシェルボーン・ムーブメントの理論について文献を中心にした学びを通して、これらの理解を深める。具体的には、上記の子どもたちを適切と考えられる既存のものではない新しい形で提案されている運動やスポーツを追求したり、シェルボーン・ムーブメントのテキストを輪読したりなどの方法で実施する。</p> <p>(35 竹内 雅明) 競技スポーツのコーチングに必要な基礎知識、理論の理解を深め、トレーニング方法や指導法の変遷を学び、競技特性や選手の個性、個人・集団競技に応じたパフォーマンスアップのためのコーチングを実践する。また、さまざまな種目のトップレベルのプレーの観察やスポーツ施設の視察を通して、最新のトレーニング方法や指導法について考察し、学校教育、公共スポーツ施設、スポーツクラブで汎用的に競技スポーツのコーチングができる能力を養う。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習Ⅱ	○	<p>(1 竹田 唯史) 冬季スポーツに関する、体力、技術、指導方法について学習し、冬季スポーツの基本的な研究方法を理解する。実勢にスキー、スノーボード選手を対象とした体力測定を実施し、体力測定の正しい実施方法、評価方法を学ぶ。実施した体力測定データからデータの集計、分析方法を学び、競技成績との関連の深い体力要素などを明らかにする。</p> <p>(36 竹田 千春) 専門演習Ⅰでの学びをもとに、自らの興味関心のあるテーマをさらに絞り込めることを目指す。具体的には、基本的知識の習得を引き続き行いながら、学生の能力に合わせながら発展させ、文献検索・講義を中心とした学習を展開する。レポート作成技術、プレゼンテーション技術を身につけ、福祉という幅広いフィールドを学ぶことを通じて、他者の学びを自らの学びに結びつけられる統合力を身につける。</p> <p>(13 立田 祐子) 専門演習Ⅰで学習した内容をさらに発展させる。先行研究や文献の読み方についての更なるスキルアップを目指すことを目的とする。また、特別支援学校の視察を通じ、障害に応じた指導内容・方法についての検討を行う。さらに、学んだ事柄についてレポート及びパワーポイントを作成しプレゼン力の向上を目指す。</p> <p>(2 永谷 稔) マネジメントの現場演習として、学校教育、社会体育、企業スポーツ、プロスポーツ、地域スポーツなどのマネジメント場面に参加もしくは運営を経験し、実体験から実践力を高めていく。</p> <p>(14 野戸谷 睦) 各障害に付いての理解を図り、実際の特別支援教育のあり方について特別支援学校の見学の中で体験する。そして、特別支援学校教員としての資質を高めることを目指す。</p> <p>(15 花井 篤子) 専門演習Ⅰで学んだ知識技能を活用し、プール実習において測定したデータを適切に分析処理し、先行研究なども参考にしながら解釈を行い、レポートとしてまとめることにより、応用健康科学的な視点からの研究アプローチの土台を形成することを目指す。レポートの内容は、スライド作成、プレゼンテーションを行うことで成果を発表する能力を養う。</p> <p>(37 久野 真知子) 専門演習Ⅰで取り上げた「ケア」「支援」「家族」「障害」など、社会福祉に関する多様なテーマについての理解を基に、自分自身の関心テーマを探究する。文献検索等の技術も習得し、必要な情報を得るための方法も学んでいく。テーマに関連した学外活動も取り入れながら、自分の関心テーマと社会を関連付けて理解し、考える力を身につけていくことを目指す。</p> <p>(28 廣田 修平) スポーツ運動学の基礎理論を応用し、自らが主体となり実際の運動指導場面での実践指導を行う。自ら立案し、実践した指導方法について、その成果と課題について振り返り学習を行い、運動学習者に生じた現象を運動学的な視点で考える。振り返り学習をもとに新たな道標を構成するという、実際の指導現場での指導プロセスを繰り返すことを行い、運動指導者としての専門性を高める。</p> <p>(16 森 靖明) 専門演習Ⅰに引き続き、学校現場において起こりうるさまざまな事象に対し、教員としてどう考え、行動するかについて考える演習を継続する。そして、他大学の保健体育科教育を専門とするゼミと連携して、他大学の学生とともに現職教員の指導を受けながら体育の授業の単元指導計画及び指導案の作成を行い、模擬授業を実施する。その上で、その授業について大学教員、教育委員会指導主事、及び現職教員とともに検討する演習を実施する。</p> <p>(29 八巻 貴穂) 専門演習Ⅰで得た学生それぞれの興味について、より学びを深めることができるような授業を展開する。関連分野の文献講義や発表、意見交換や介護現場等での実践を通して、各自の研究テーマを明確にできることを目指す。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	専門演習Ⅱ	○	<p>(17 山本 敬三) 基礎(専門演習Ⅰ)で学んだ計測技術を応用し、さらに高度なデータ解析方法を習得する。取得したデータをもとに、多角的な視点から動作やパフォーマンスを評価し、統計的手法を用いて、パフォーマンスの改善点を具体的に特定する技術を学ぶ。また、データ解析の結果を効果的にまとめ、学術的な報告書として提出できるスキルやプレゼンテーション能力を養う。これにより、研究結果を他者に正確に伝え、科学的な議論を行う基盤を作ることができる。最終的には、バイオメカニクスの応用によるスポーツパフォーマンスの向上を目指し、実践的な知識と技術を習得することを目指す。</p> <p>(30 横山 茜理) 専門演習Ⅰで学んだことを実際に指導現場で実践する。運動指導の実践現場に立つことで、年齢や対象者ごとの課題解決に向けた目標の立案方法を実践的に学習する。また、ゲームパフォーマンス分析を活用し、個人やチームの戦術についても学びを深めることを目指す。</p> <p>(31 吉田 修大) 専門演習Ⅰでの学びを基盤に、個々の学生が社会福祉や生活に関連する課題について整理したうえで議論する。また、諸課題の解決のために必要となる基本的な知識・技術を習得し、自ら学習および研究できる基盤となる知識や技術を修得する。</p> <p>(18 吉田 真) アスレティックトレーナーとしての専門知識をさらに深化させ、臨床現場での実践力を高めることを目指す。具体的には、専門演習Ⅰでの学びを発展させるべく最新のスポーツ医・科学の知見に基づき、データ収集となるコンディション評価、ならびに介入であるプログラムの立案と指導実践に取り組む。また、得られた知見を他者に効果的に伝えるためのプレゼンテーション技術も学習する。これにより、単なる知識の受け手から、実際の臨床やスポーツ現場に活用できる新しい知見を創造する力を養い、根拠に基づく実践者としてのアスレティックトレーナーを目指す。</p> <p>(19 吉田 昌弘) 専門演習Ⅰで収集した学術的知見を基に、実際の研究方法を検討し、デザインする。実験を演習形式で行い、アスレティックトレーニング分野の臨床的問題の解決方法を検討する。</p> <p>(38 吉田 竜平) 専門演習Ⅰで取り上げた、家族、ジェンダー、教育、人間関係、経済・仕事、政治・社会運動などに関する学びを継続し、4年次に個々の研究するテーマを絞り込むことを目指す。具体的には、それぞれの問題意識を踏まえた研究テーマを設定し、先行研究レビューを通じて、研究テーマに関する論点整理を行う。それを基に、プレゼンテーション資料を作成、発表し、その内容について討議を行う。</p> <p>(39 渡部 峻) 専門演習Ⅰで学習したデータ計測技術をさらに発展させる。個人のデータ分析にとどまらず、複数の被験者のデータを取得し、統計手法を用いて有意差の有無などを明らかにしていく。また、ハイパフォーマンス選手の特徴や障害リスクの高い動作などの発見まで実施する。</p> <p>(40 渡邊 千佳) 専門演習Ⅰで学んだ知識をさらに発展させ、科学的根拠に基づいたサポートを提供できる実践的能力を養う。収集した知見に基づき、調査および分析方法を検討する。実際に実験を行い、そのデータを活用して学会抄録やプレゼンテーションを作成し、論理的思考力やプレゼンテーション能力を身につける。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅰ	○	<p>本授業では、スポーツ、健康づくり、福祉に関する学問分野の専門性を高めることを目的とする。具体的には、研究活動に取り組み、同時に、テーマの設定、そのテーマに関する先行資料の調査、課題の洗い出し、そしてそれらの解決策の探求を通じて、実践的な課題解決能力を養う。</p> <p>(3 井出 幸二郎) これまでの卒業研究や各々の興味から課題を設定する。その課題に関連する論文を精読し、仮説を導く。仮説の検証のためのプロトコルを作成し、研究計画を立てる。予備実験を行い、データ取得の精度を高める。本実験や測定を行いデータを取得する。</p> <p>(4 上田 知行) 専門演習Ⅰ及びⅡで深めた内容から、地域における健康づくりのための運動を普及し定着化させるには、どのような方策が必要か、課題を設定し探究を深める。そのために地域住民やそれを支える専門職との交流を積極的に行う。</p> <p>(20 畷中 智志) 体育・スポーツに関わる心理的な課題について、学生一人一人が卒業論文の研究課題を設定することを目標とする。専門演習で学んだことを活かし、自身の研究課題についての知識もさらに深く学んでいき、卒業論文への取り組みを開始する。</p> <p>(21 大崎 哲也) 専門演習Ⅰで学んだ知識や理解、専門演習Ⅱで実践した力を活かし、スポーツジャーナリズム・スポーツマネジメント分野における様々な諸問題を解決すべく方策をテーマとして、研究デザイン、目的、方法について計画を立て、卒業論文の作成を目指す。</p> <p>(22 大宮 真一) 陸上競技コーチングまたは子どもの発育発達の分野において、専門演習Ⅱまでに積み上げた研究課題を実験を通してデータ分析を行うことを目指す。</p> <p>(5 沖田 孝一) 研究活動に取り組み、テーマの設定、そのテーマに関する先行資料の調査、課題の洗い出しそしてそれらの解決策の探求を通じて、実践的な課題解決能力を養う。</p> <p>(6 小田 史郎) 専門演習Ⅰ、Ⅱで得た知見をもとに、研究テーマを決定し、具体的な研究計画を立てる。予備実験や予備調査を行い、計画を適宜修正する。これをもとにデータ収集を行う。</p> <p>(23 尾山 清龍) 専門演習Ⅰ・Ⅱを基盤に、社会教育や地域の生涯学習活動等についての地域の課題や個人の課題意識から研究テーマを模索し、先行研究等を参考にテーマ及び研究計画を決定する。</p> <p>(24 川森 功偉) 専門演習Ⅰ・Ⅱの学習を基盤に、個々の学生が社会教育、健康づくりの領域における課題の中から研究テーマの決定し、先行研究や論文を検討し、研究のアウトラインを決定する。</p> <p>(8 黒澤 直子) 専門演習Ⅰ・Ⅱでの学びに基づいて、明確になった問題意識と照らし合わせ各自の研究テーマを設定する。テーマに基づいて先行研究を検索、研究の方法を考える、研究計画を立案する、データを収集、分析、解釈するといったプロセスについて、ゼミ形式で発表、相互に検討を行いながら進める。</p> <p>(25 黒田 裕太) 基礎栄養学およびスポーツ栄養学の授業で学んだ内容を深化させる。最新の知見を整理する上で、国内外の学術論文を精査し新たな知見を取得する。その上で、新規的および独創的な研究を実施し、検討することを目的とする。</p> <p>(9 小坂井 留美) 「専門演習Ⅱ」までの学習を基盤に、生涯スポーツ学、老年学、健康科学領域における個々の学生の興味関心から研究テーマの決定し、その解明に向けて必要な調査・測定を計画し、データ収集および分析を進める。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅰ	○	<p>(26 小峯 秋二) 競技スポーツのコーチングやチームマネジメントの課題に着目し、解決方法について考察しこれからの指導者のあり方に対する意識を高めるとともに卒業研究のテーマの選定と研究の概要について構想し、研究活動に取り組む。</p> <p>(32 今 竜一) 専門演習Ⅰ・Ⅱで学習した保健体育科教育学や小・中学校への対外的な活動を基に、現代の教育課題の掌握をはじめ、学年・学級経営、不登校・いじめ問題、保護者・地域との連携など、具体的な研究テーマを探求し、研究計画を作成する。</p> <p>(33 坂谷 充) 研究の要件や条件、研究の種類、論文構成や分析方法、文献検索方法などの一般事項について学ぶ。基礎研究や応用研究、調査研究や実験研究、量的研究や質的研究など、4年次での卒業研究に向けて研究に関する基本的理解を目指す。合わせて野外教育、野外スポーツ関連の研究動向を概観する。また自分の興味関心のある先行研究をレビューし、その内容をまとめて発表することを通して、研究を読む能力、プレゼン能力を養う。</p> <p>(34 白川 敦) 卒業研究に向けて、体育科教育学や発育発達学などの専門的知見を基盤とし、学校現場や保健体育科教員として必要な資質・能力の向上を目的としたテーマを設定し、研究計画を立てる。「できること」「やりたいこと」「やらねばならぬこと」の3つを意識して、実践的な研究計画を作成する。</p> <p>(10 杉岡 品子) 専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱで学んだことを基礎として、“心”と“身体”について自らの興味・関心のあるテーマを設定する。そして、先行研究や文献を検討し、課題を明らかにし、研究目的を設定する。そして、目的に沿った卒論のデザインとアウトラインを決定し、研究計画を立案し、実施する。</p> <p>(11 高田 真吾) 専門演習ⅠおよびⅡで学んだ運動トレーニングに関する基礎知識・技術をもとに、計測装置の操作方法や原理を正確に理解する。スポーツ・健康業界で直面する社会的課題を設定し、被験者に対してより効率的な新規運動トレーニングの介入を行なう。また、文献研究を通じて、既存の研究の理論や解析方法を深く理解し、事前実験を行うことで、効率的な新規運動トレーニングの開発に向けた仮説を構築することを目指す。</p> <p>(12 瀧澤 聡) 専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱで学んだ知見をもとに、卒業研究に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、研究動機の明確化、研究テーマの選定、先行研究の探し方と読み方、研究方法の選定、データの整理および結果の提示方法、考察の構成、文献の書き方など、卒業論文の作成に必要な基礎的スキルを身につける。これらは、研究論文作成のためのテキストを活用しながら体系的に学習する。</p> <p>(35 竹内 雅明) 各スポーツ種目で実施されているパフォーマンスアップのためのフィジカルトレーニング・スキルトレーニング・コンディショニング・指導法の先行研究を調査する。課題を明確にし研究テーマを設定する。実験・測定方法や分析方法について計画を立て卒業論文の作成を目指す。</p> <p>(1 竹田 唯史) 学生が各自実施している冬季スポーツ種目を取り上げ、体力、技術、指導方法について、学生自身により研究テーマを設定する。先行研究や文献を検討し、先行研究の課題を明確にし、研究目的を設定する。研究目的を達成するための、計画を立案し、実験や調査などを実施する。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅰ	○	<p>(36 竹田 千春) 専門演習Ⅰ・Ⅱで明らかになった自らの関心事をもとに研究テーマを設定する。先行研究や文献収集のまとめ方、論文構成等の基礎について学習をしながら、研究計画書を作成し自らの研究に取り組める基盤づくりを行う。研究計画内容や進捗状況を定期的に発表する機会を設け、ディスカッションを通して幅広い視野で物事を捉えることができる能力を身につける。卒業研究発表に向けた、資料作成やプレゼンテーション技術を発表の場を通して身につけることを目指す。</p> <p>(13 立田 祐子) 専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱで学習した事柄を、卒業研究に向けて取り組む。卒業論文を作成するにあたり、研究の目的、方法について計画を立てるとともに、先行研究の検討、場合により調査を実施し、調査結果の検討を開始する。</p> <p>(2 永谷 稔) 専門演習Ⅰ学んだ知識や理解、専門演習Ⅱで実践した力を活かし、スポーツマネジメント分野における様々な諸問題を解決すべく方策をテーマとして、研究デザイン、目的、方法について計画を立て、卒業論文の作成を目指す。</p> <p>(14 野戸谷 睦) 各障害に付いての理解を図り、実際の特別支援教育のあり方について特別支援学校の見学の中で体験する。そして、特別支援学校教員としての学校教育における各種課題に対する意識を高める。また、卒業研究のテーマの制定と研究の概要について検討する。</p> <p>(15 花井 篤子) 専門演習Ⅰと専門演習Ⅱで学んだアクアフィットネスの理論と実践を踏まえ卒業研究のテーマを考え、研究計画の立案と卒業論文の作成の準備を進める。</p> <p>(37 久野 真知子) 専門演習Ⅰ・Ⅱの学びを通して明らかになった自らの関心を基に、研究テーマを設定する。先行研究や文献検討を通して研究目的を明確にし、その目的を達成するための研究方法や構成等について研究計画を作成する。研究計画はゼミ内で発表し、様々なテーマを共有することで、それぞれの視野を広げる。</p> <p>(28 廣田 修平) 専門演習を通して経験した実際の指導実践・運動学習の中から運動学的視点に基づく学問的な問いを探求する。運動学習者に生じる学習面のつまずきや切実な課題を運動学的視点から捉え、現象の解明と解決方法について探るとともに、卒業研究のテーマを設定し、研究計画を立案する。</p> <p>(16 森 靖明) 学校現場において起こりうる事象や、保健体育科の模擬授業や教育実習での経験、また、学校現場に向いて授業見学や現職教員との交流を行うことを通して、学校教育における解決すべき各種課題に対する意識を高め、卒業研究のテーマの選定と研究の概要について構想する。</p> <p>(29 八巻 貴穂) 専門演習Ⅰ・Ⅱで明確になったそれぞれのテーマについて、研究計画書を作成する。定期的にゼミ内での発表、意見交換を行い、自身の研究テーマについて深く考察できる、主体的に取り組むことができることを目指す。</p> <p>(17 山本 敬三) バイオメカニクスの基礎知識を学び、スポーツ動作の科学的分析に基づく社会的課題を探ることを目指す。光学式3次元動作分析装置、床反力計、筋電図などの計測装置を用いてデータを収集し、その操作方法や原理を理解するだけでなく、これらのデータをもとにスポーツ界で直面する技術的問題やパフォーマンス改善の必要性を検討する。また、文献調査を通じて、既存の研究や理論を深く理解し、スポーツ動作の最適化に向けた基礎的な仮説を構築する。これにより、研究者としてのスキルを習得し、科学的なアプローチの基盤を形成することを目指す。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅰ	○	<p>(30 横山 茜理) コーチングの基礎を学び、ゲーム分析の基礎知識を身につける。また、実際に試合や練習の映像からゲーム分析のデータを抽出し、ゲームパフォーマンス分析を実践する。個人やチームの戦術についても学びを深めることを目指す。</p> <p>(31 吉田 修大) 専門演習Ⅰ・Ⅱでの学びを基盤に、個々の学生が社会福祉や生活に関連する卒業研究テーマを決定する。また、研究テーマに関連する文献購読および先行研究レビューを行いつつ、研究の目的や方法についても学習し、研究に取り組み基礎を涵養する。</p> <p>(18 吉田 真) アスレティックトレーナーがスポーツ現場で得た経験的知識を形式知として可視化し、さらにそれを実践知に転化するための論文執筆およびプレゼンテーション技術を学ぶ。これにより、学生は自身の経験や知識を体系化し、他者と効果的に共有する能力を向上させる。また、実践的な課題や問題に対して論理的に考察し、解決策を見出す力を養うことも重要な目標である。さらに、学生はアスレティックトレーニングの専門分野における具体的な課題や研究テーマを自ら設定し、そのテーマを深く掘り下げるプロセスを通じて、研究力や分析能力を高める。これにより、学生はアスレティックトレーナーとしての専門知識を深化させ、実践力を高めることを目指す。</p> <p>(19 吉田 昌弘) 専門演習Ⅰ・Ⅱで習得した知識を元に、アスレティックトレーニング分野 に関する研究計画を立案する。研究デザイン、測定方法、分析方法について計画を立て、卒業論文の作成を目指す。</p> <p>(38 吉田 竜平) 各自の関心テーマに沿って問題意識をさらに深め、卒業研究の完成に向けて取り組む。このため、自分の興味・関心をできるだけ早く整理してテーマを導き出すことを目指す。それぞれが多様なテーマに基づいてまとめたレジュメに基づき、自由に議論して意見を交換することで、思考の幅や視野を広げる。そして、発想力と現実を的確に捉える視点、書く力、他者に伝える力、問題を把握する力など、社会で求められる基本的な能力を育むことを目指す。</p> <p>(39 渡部 峻) 専門演習Ⅰ・Ⅱで得た知見をもとに、自身の継続してきたスポーツ種目・動作から先行研究Ⅰの調査や予備実験を通じて、研究テーマを選考する。研究テーマ決定後は、具体的な研究計画を立てる。実施していく中で、計画を適宜修正し、研究に必要なデータ計測を実施する。</p> <p>(40 渡邊 千佳) 専門演習Ⅰ・Ⅱで習得した知識を基に、アスレティックトレーニング分野に関する研究計画を立案する。研究テーマに応じて、先行研究を調査し、適切な研究デザイン、測定方法、分析手法を検討・計画し、卒業論文の作成に向けた基礎力を養う。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅱ	○	<p>卒業研究Ⅰで取り組んだ課題を基に、各自で取り組んだ内容を論文形式またはそれと同レベルの形にまとめる。研究結果を発表する。</p> <p>(3 井出 幸二郎) 卒業研究Ⅰで得られたデータを処理・解析し、そのデータが何を語っているかを読み取る能力を培う。データを解釈し、文書やプレゼンテーションを通して、第三者へ伝えられる能力を養う。</p> <p>(4 上田 知行) 地域における健康づくりのための運動を普及し定着化させるには、どのような方策が必要か、専門演習Ⅰの内容を深め、指導プログラムや支援方法を中心に検討を進める。そのために地域住民やそれを支える専門職との交流を積極的に行う。卒業研究Ⅰで設定し取得したデータを分析する。結果の考察などを論議しながら卒業論文を執筆、完成することを目指す。また、発表において質疑応答などを踏まえながら大学4年間の学びの集大成となるように取り組む。</p> <p>(20 敵中 智志) 卒業論文で取り組む研究課題について、実験や調査を行いデータを取得していく。取得したデータの分析、結果の考察などを論議しながら卒業論文を執筆、完成することを目指す。また、発表において質疑応答などを踏まえながら大学4年間の学びの集大成となるように取り組む。</p> <p>(21 大崎 哲也) 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰを通じて設定した研究テーマについて、より深く追究するとともに、最終的な結論を卒業論文としてまとめる。また、よりわかりやすく、伝わる内容のプレゼンテーションを学び、社会で実践できる方法を修得し、卒業論文発表へつなげる。</p> <p>(22 大宮 真一) 陸上競技コーチングまたは子どもの発育発達分野において、専門演習Ⅱまでに積み上げた研究課題を実験を通してデータ分析後、考察し、卒業論文を執筆し、卒業研究発表会にてプレゼンテーション・質疑応答を行うことにより、客観的な応答力を高めることを目指す。</p> <p>(5 沖田 孝一) 卒業研究Ⅱのゴールは、卒業研究Ⅰの過程で行なった調査研究データを論文としてまとめ、提出することである。このため、適切なデータ処理の能力、わかりやすい文章表現、参考文献の検索および引用方法を修得し、指定の書式に応じた論文の構成方法を学び実行する。</p> <p>(6 小田 史郎) 収集したデータを分析し、先行研究をふまえて考察を行う。さらにこれらを論文や発表原稿としてまとめ、報告会で実践する。</p> <p>(23 尾山 清龍) 卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づいて、必要なデータを収集・分析することを通して、調査の方法や分析手法を学ぶとともに論理的な研究発表となるよう情報の整理を行う。結果を論文や発表資料としてまとめる。</p> <p>(24 川森 功偉) 卒業研究Ⅰで決定した研究計画に基づいて、文献、アンケート、インタビュー調査等により、データを収集、分析を行う。結果を論文形式でまとめ研究発表を行うためのスライド・動画作成を行う。</p> <p>(8 黒澤 直子) 卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、研究目的に沿って効果的に研究を進める方法を学ぶ。調査の実施、結果の分析を進め、論文としてまとめる。研究発表に向けて資料作成を行い、他者に伝えるためのプレゼンテーションについて実践的に学ぶ機会とする。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅱ	○	<p>(25 黒田 裕太) 基礎栄養学およびスポーツ栄養学の授業で学んだ内容を深化させるものである。最新の知見を整理する上で、国内外の学術論文を精査し新たな知見を取得する。その上で、新規的および独創的な研究を実施し、検討することを目指す。</p> <p>(9 小坂井 留美) 研究テーマに即して実施した調査・測定の結果を考察し、論文を作成する。成果発表会に向けた資料作成、発表実演を通じ基礎的な学術コミュニケーション力をつける。</p> <p>(26 小峯 秋二) 専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ・卒業研究Ⅰを通じて設定した各々の研究テーマから研究デザインについて検討し、各々が設定した課題に対してアンケート調査やインタビュー調査等を用いてデータを収集し、その結果を分析・考察して論文形式でまとめる。</p> <p>(32 今 竜一) 卒業研究Ⅰで設定した研究テーマとその研究計画を遂行する中で、学校現場に資する考察を深めながら、論文執筆やプレゼンテーション資料を作成する。また、研究成果は年度末に外部団体の研究会において発表する。</p> <p>(33 坂谷 充) 社会で必要とされる課題設定能力および課題解決能力を養う。具体的には専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱでの体験を通して得た疑問などについて、各自で卒業研究のテーマを設定する。そして卒業研究Ⅰで学んだ知識を用いてテーマに関連したデータを収集し、収集したデータを客観的、論理的・多角的に分析・考察し、結論を出す。得られた結果を、論文としてまとめ、発表会でプレゼンすることを通して、人に伝える能力の獲得を目指す。</p> <p>(34 白川 敦) 学校教育、もしくは保健体育科教育や教師教育をテーマとして、研究内容や研究方法について検討し、質問紙調査やインタビュー、実験授業などを実践してデータを収集し、その結果を分析・考察して論文形式でまとめる。また、その内容を他ゼミ、他大学との交流発表会及び研究会でオーラルまたはポスター発表する。</p> <p>(10 杉岡 品子) 卒業研究Ⅰで決定した研究計画に基づいて、文献、アンケート、インタビュー調査等により、データを収集し分析を行う。分析結果を考察し、卒業論文としてまとめる。そして、研究発表のためのスライド・動画作成を行う。</p> <p>(11 高田 真吾) 卒業研究Ⅰで得た事前実験および実際の社会的課題に対する仮説をもとに、トレーニング介入を行なう。特に、筋力増加、筋肥大、スポーツパフォーマンスの向上といった重要な問題を解決するための方法論を探究する。得られた実験データを解析し、統計的手法を駆使して、老若男女問わず筋力、筋量の増加・改善に資する具体的な解決策を見出す。また、得られた結果と文献調査により理論的背景を再構築し、実験結果を客観的に評価し、新たな課題解決に向けた提案を行う。最終的には、卒業研究で得られた知見を活かし、研究成果を外部へ発表（学術会議、論文化）することを目指す。</p> <p>(12 瀧澤 聡) 卒業研究Ⅰで設定した研究テーマに基づき、先行研究の整理・分析を行いながら、実際の研究活動を実施し、卒業論文を執筆する。最終的に論文として成果をまとめ、発表資料（スライド等）を作成したうえで、卒業研究発表会において口頭発表を行う。発表を通じて、研究成果をわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力の向上も図る。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅱ	○	<p>(35 竹内 雅明) 専門演習Ⅰ・Ⅱでの学びを通じて卒業研究Ⅰで設定した研究テーマについて探求する。考察を通して研究テーマの限界や新たな課題を明確にし、卒業論文としてまとめる。また、スライドや動画を作成し、発表会で効果的なプレゼンテーションを行う。</p> <p>(1 竹田 唯史) 卒業研究Ⅰで実施した実験、調査の結果を分析する。結果の因果関係を明らかにし、考察を深め、論文としてまとめる。研究発表を行うためのスライド作成、動画作成を行い、自身の研究成果を振り返り、大学生活の学びの集大成とする。</p> <p>(36 竹田 千春) 卒業研究Ⅰで立案した研究計画書に基づいて自らの研究に取り組む。卒業研究発表会に向けた論文・資料作成を通して、他者へ伝えるプレゼンテーション技術の獲得を目指す。自身の研究進捗状況を定期的に発表し、ゼミ内のメンバーと共有することで他者と連携しながら物事に取り組む社会的スキルを身につける。そして、専門演習Ⅰ・Ⅱ・卒業研究Ⅰからのつながりだけでなく、4年間の学びの集大成として卒業研究発表会に向けて取り組む。</p> <p>(13 立田 祐子) 卒業研究Ⅰで学んだことを具体的にまとめ論文を完成させる。その際にグループで研究について討論する場面を設定し質問力を磨く。卒業論文をパワーポイントにまとめ、発表力の向上を図る。</p> <p>(2 永谷 稔) 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰを通じて設定した研究テーマについて、より深く追究するとともに、最終的な結論を卒業論文としてまとめる。また、よりわかりやすく、伝わる内容のプレゼンテーションを学び、社会で実践できる方法を修得し、卒業論文発表へつなげる。</p> <p>(14 野戸谷 睦) 障害、特別支援教育、障がい者スポーツ等をテーマとして、研究内容や研究方法について検討し、調査やインタビューを行い、データを収集し、その結果を分析、評価、考察を行い、論文形式でまとめる。</p> <p>(15 花井 篤子) 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰを踏まえて、研究課題を設定し、卒業論文を作成する。実験や調査を行いデータを取得し、取得データの分析、結果、考察などを論議しながら卒業論文を完成させることを目標とする。また、スライド作成およびプレゼンテーションによる研究成果発表を行うことで、大学4年間の学びを可視化する。</p> <p>(37 久野 真知子) 卒業研究Ⅰで作成した各自の研究計画に沿って研究に取り組む。研究目的、研究方法、結果、考察を論文としてまとめ、自らの関心、問いにアプローチするための方法を習得していく。また、自身の研究成果を発表することを通して、プレゼンテーションの技術を習得することも目指す。</p> <p>(28 廣田 修平) 卒業研究Ⅰで立案した研究計画に基づき、実際の運動学習・指導場面で生じる現象の解明と解決方法について検討・考察する。研究を進める中で得られた知見を質的研究手法から論文としてまとめ、最終的に発表会で口頭発表を行う。</p> <p>(16 森 靖明) 学校教育、もしくは保健体育科教育や教師教育をテーマとして、研究内容や研究方法について検討し、質問紙調査やインタビュー、実験授業などを実践してデータを収集し、その結果を分析・考察して論文形式でまとめる。また、その内容を研究会でポスター発表する。</p> <p>(29 八巻 貴穂) 研究計画書に基づいて研究を行う。研究の進捗状況について定期的な発表、意見交換を行うことを通してプレゼンテーションの方法を理解する。研究の成果物をまとめるとともに、卒業研究発表会に向け資料の作成を行う。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部 基盤 科目	卒業研究Ⅱ	○	<p>(17 山本 敬三) 基礎(卒業研究Ⅰ)で得た知識をもとに、実際の社会的課題に取り組む。特に、スポーツ界におけるパフォーマンスの向上や怪我の予防といった重要な問題を解決するための方法論を探究する。実験データを解析し、統計的手法を駆使して、スポーツ選手のパフォーマンス改善に資する具体的な解決策を見出す。また、文献調査による理論的背景をもとに、実験結果を客観的に評価し、課題解決に向けた新たな提案を行う。最終的には、バイオメカニクスの知見を活かし、スポーツ界での現実的な問題解決に寄与する研究成果をまとめることを目指す。</p> <p>(30 横山 茜理) コーチングの基礎を学び、ゲーム分析の基礎知識を身につける。また、実際に試合や練習の映像からゲーム分析のデータを抽出し、ゲームパフォーマンス分析を実践する。ゲーム分析のデータを読み取り、現場で活用できるように実践に繋げることを目指す。</p> <p>(31 吉田 修大) 卒業研究のテーマに即して実施した先行研究レビューを実施したうえでテーマに即した研究手法を用い、その結果を考察し論文を作成する。卒業研究発表王会に向けた資料作成および発表方法についても学び、プレゼンテーションの基礎力を身につける。</p> <p>(18 吉田 真) 学生が設定した研究テーマをもとに、論文執筆を最終的な到達目標とする。アスレティックトレーニング分野における専門的な研究課題を深く掘り下げることで、研究力と分析能力をさらに向上させる。具体的には、先行研究のレビューや実験・調査を通じて得られたデータを論理的に整理し、独自の見解を論文としてまとめる技術を習得する。また、論文の構成や記述法、科学的根拠に基づいた考察の方法を学び、成果をプレゼンテーションで発表する能力も養成する。これにより、学生は自身の研究を体系的にまとめ、専門家としての知識と技能を発展させるとともに、学問的な貢献を果たす準備を整える。最終的には、実践的な研究成果を論文として完成させ、アスレティックトレーナーとしての高度な専門性を証明することを目指す。</p> <p>(19 吉田 昌弘) 収集したデータを分析し、得られた知見を論理的に考察するプロセスを学ぶ。論文執筆方法、研究プレゼンテーションを演習形式で学び、学術的知見のアウトプット方法を習得する。</p> <p>(38 吉田 竜平) 卒業研究Ⅰの積み上げとしての位置付けとなる。各自のテーマに基づく研究の進捗状況について、資料を用いて報告し、最終的に卒業研究を完成させることを目指す。状況に応じて個別指導を実施する。各自が様々なテーマに基づいて報告し、議論をしながら意見交換をすることで、思考の幅、発想力、現実を的確に捉える視点、書く力、伝える力、問題を把握する力など、社会で求められる基本的な能力を育むことを目指す。</p> <p>(39 渡部 峻) 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰで学習したデータ計測技術をさらに発展させる。個人のデータ分析にとどまらず、複数の被験者のデータを取得し、統計手法を用いて有意差の有無などを明らかにしていく。また、ハイパフォーマンス選手の特徴や障害リスクの高い動作などの発見まで実施し、卒業論文の完成を目指す。</p> <p>(40 渡邊 千佳) 卒業研究Ⅰで作成した計画に基づきデータを収集・分析し、新たな知見を得る。得られた結果を解釈し、論理的に考察するプロセスを学ぶとともに、先行研究を参照しながら論文の構成や執筆方法を身につける。最終的には、卒業論文としてまとめ、口頭発表を通じて成果を発信する力を養う。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目 スポーツと健康の実践に関する科目群	トレーニング演習		<p>本授業では、筋力トレーニングの動作技術の習得、トレーニング機器を安全な利用、トレーニングプログラムの作成、トレーニング指導ができるようになることを目的とする。具体的には、トレーニング論の基礎知識を活用して、①トレーニングマシンを利用したトレーニング、②フリーウェイトを利用したトレーニング、③自重負荷を利用したトレーニング、④器具を用いたトレーニング、⑤介護予防トレーニングなどの演習を行い、指導技術の向上をはかる。</p> <p>(共同/全15回) (3 井出 幸二郎・4 上田 知行・147 松田 光史・137 藤原 信介/15回) 自重負荷トレーニングを担当する。正確な動作とその指導技術を身につける。 (3 井出 幸二郎/15回) 器具を用いたトレーニングを担当する。トレーニングの主目的を明確としたトレーニングにより、あらゆる器具を使いこなす技術を身につける。 (138 藤原 信介/15回) フリーウェイトを担当する。正確なトレーニング動作と補助技術を身につける。 (147 松田 光史/15回) マシントレーニングを担当する。安全に効果的なトレーニング機器の利用方法を身につける。 (4 上田 知行/15回) 介護予防トレーニングを担当する。介護予防のための運動種目について、自立機能低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する方法を身につける。</p>	共同
	ジュニアスポーツ指導演習	○	<p>本授業では、基礎理論を基に安全で有効な運動・スポーツが実施できるジュニアスポーツ指導を目指し、指導者の視点で子どもと運動・スポーツについて理解を深め、子どもの運動遊び、スポーツの指導方法を学習・創造することを目的とする。具体的には、子どもを取り巻く問題やその背景、子どもの発育発達について学ぶ。そして、ジュニアスポーツ指導上の留意事項、ジュニア期の競技スポーツについて理解する。さらに子どもの運動遊び、スポーツ指導が適切にできることを目指す。</p>	主要授業科目
	ジュニアスポーツ指導実習		<p>本授業では、ジュニアスポーツ指導員における専門科目の現場実習として、ジュニアスポーツ指導演習での学びを基に、安全管理、スポーツ外傷・障害を発生させず、子どもたちが楽しく運動できる環境で実践的な経験を積むことを目的とする。具体的には、スポーツクラブでのメイン指導者の指導補助、子どもへの直接的な関わり方の実践を行う。これにより、ジュニアスポーツ指導員として必要な知識と技術を総合的に習得し、現場での即戦力としての能力を高めることを目指す。</p>	
	体力測定評価演習		<p>本授業では、体力測定を安全管理に留意して実施し、正しく評価できる基本的な技術を身につけることを目的とする。運動指導を実施する際に、個々の体力の状況を的確に評価することは非常に重要な意義を持っている。具体的には、①スポーツ選手の競技成績に関わる専門的体力、幅広い年齢層に対するフィールドテストによる一般の体力の把握、「文部科学省新体力テスト」や形態測定の測定とその評価、②高齢者に対する介護予防を目的とした体力測定とその評価について、演習を通して実践的に学ぶ。</p> <p>(共同/全15回) (119 瀧澤 一騎/15回) 形態計測・新体力テスト・運動適正テストⅡについて担当する (79 上野 智也/15回) フィールドテストの意義と実践について担当する (11 高田 真吾/15回) 筋機能・呼吸循環機能・神経および関節機能に関する測定方法および評価について担当する (4 上田 知行/15回) 介護予防に関連する体力測定法とその評価について担当する (3 井出 幸二郎/15回) 虚弱高齢者向けの介護予防に関する体力測定や留意事項について担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 実 践 に 関 す る 科 目 群	運動処方演習	○ 本授業では、それぞれの集団および個人に適した健康づくりのための運動プログラムを処方する能力を身につけることを目的とする。具体的には、①安全で効果的な運動処方作成のために必要な運動負荷試験の実際や、②生活習慣病の予防や改善に関わる集団と個別に対応する運動処方作成の方法、③介護予防に関わる集団と個別に対応するための運動処方の方法を実践形式で学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (4 上田 知行/6回) 生活習慣病に対する個別の運動療法、行動変容を意図したプログラムに関する内容を担当する。 (5 沖田 孝一/5回) 健康診断項目、心電図の読み方、運動負荷試験に関する内容を担当する。 (9 小坂井 留美/4回) 生活習慣病に対する集団に向けた運動療法、虚弱高齢者に向けたプログラムに関する内容を担当する。	主要授業科目 オムニバス方式
		健康産業施設実習	本授業では、健康づくりのための運動や身体活動の増強を提供・支援する現場でのさまざまなケース(性、年齢、身体状況、嗜好など)に対応できる実践応力を身につけることを目的とする。具体的には、スポルや学外の健康産業施設で実習を7日間実施し、運動プログラムの提供や体力測定、生活指導、運動などの記録・情報の保管などを体験的に学ぶ。健康産業に携わる専門職の役割について実践を通して理解し、さまざまなケースを体験するなかで、前向きに対応する力、応用する力、考える力を養う。 (共同/全15回) (4 上田 知行/15回) (11 高田 真吾/15回)	共同
		健康トレーニング実践演習	本授業では、健康づくりを目的としたトレーニング方法を習得することを目的とする。具体的には、体力レベルが低い人でも実践可能なマシントレーニングや自重負荷のトレーニング方法を実践的に学ぶ。これらの筋力トレーニングは、福祉の現場において特に需要が高まってきている。併せてジョギングやウォーキングなどの有酸素運動、ストレッチなどの柔軟運動について学び、健康づくりのトレーニングを総合的に実践・指導できる能力を身につける。	
		介護予防実践演習	本授業では、「介護予防論」で学んだ基礎知識をふまえ、より実践的な活動を通じて介護予防事業を企画・運営する能力を身につけることを目的とする。具体的には、見学等の実習を通じて地域が抱える課題を理解する。さらに市町村で実施されている介護予防事業や地域団体等で実践している取り組みに実際に参加することで、企画内容やスタッフの動き、留意点などを実践的に理解する。これらの事業参加で得た知見をふまえ、抽出された課題を解決するための具体的な介護予防計画を立案し、まとめる。 (共同/全15回) (6 小田 史郎/15回) 見学、事業参加の実習、介護予防計画を担当する。 (9 小坂井 留美/1回) 介護予防計画を担当する。 (10 杉岡 品子/1回) 介護予防計画を担当する。	共同
		救急処置演習	本授業では、スポーツ活動現場における救急対応の重要性と特性を理解し、一次救命処置から医療資格者への引き継ぎまでの現場での救急対応に必要な知識や技術を習得することを目的とする。具体的には、JSP0-ATとして救急対応の体制構築に果たす役割や、緊急時対応計画の立案方法、緊急性を的確に判断するための手法を学ぶ。また、スポーツ時に発生しやすい外傷や内科的疾患についても理解を深めるとともに、競技や種目ごとの特性に応じた緊急対応計画の立案と救急対応の実践に取り組む。	
		コンディショニング演習	本授業では、「コンディショニング理論」で学んだ理論的背景を基に、対象者の競技特性や体力・運動能力の特徴を踏まえたコンディショニングを計画するプロセスについて演習形式で学習する。各種体力・運動能力向上のために必要なプログラムを安全で効果的に実践し、JSP0-ATとしてコンディショニング指導ができる技術の習得を目的とする。具体的には、トレーニングの負荷の測定および分析結果をベースとしたコンディショニングのプログラムを立案や、最適なパフォーマンス発揮に必要なウォーミングアップやリカバリーの実践について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目 スポーツと健康の実践に関する科目群	リコンディショニング演習		<p>本授業では、「リコンディショニング理論」で学んだ理論的背景を基に、対象者の状態や競技・種目の特性に応じて安全で効果的なリコンディショニングを計画するプロセスについて演習形式で学習する。部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状に応じて、安全で効果的なプログラムを実践し、JSPO-ATとしてリコンディショニング指導ができる技術の習得を目的とする。具体的には、動作における問題に応じたリコンディショニングプログラムの立案・指導や、リコンディショニングに必要な補装具および各種物理的刺激および徒手的アプローチの実践について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (40 渡邊 千佳/1回)</p> <p>リコンディショニングの理論背景を振り返るとともに、種目特性および安全管理の要点を踏まえたプログラム立案の要点を解説する。</p> <p>(74 池田 祐真/6回)</p> <p>下肢および体幹(腰部)におけるリコンディショニングのプログラム作成および指導実践を担当する。</p> <p>(125 戸田 創/8回)</p> <p>上肢および体幹(頭頸部・胸部)におけるリコンディショニングのプログラム作成および指導実践を担当する。</p>	オムニバス方式
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ		<p>本授業では、アスレティックトレーナー専門科目の一環として行われる現場実習であり、スポーツ現場での実践を通じてアスレティックトレーナーの役割と能力について理解を深めることを目的とする。具体的には、アスレティックトレーナーが行う活動を直接体験し、プレーヤーの年齢や特性に応じたアプローチ法を学ぶ。また、スポーツ医・科学スタッフやアントラージュとの連携の重要性についても理解を深め、実習現場におけるリスク管理と整備、さらにはアスレティックトレーナー自身のリスクマネジメントについても学ぶ機会を得る。さらに、プレーヤーのコンディション評価やデータの活用、緊急時対応計画の策定と実践、救急対応の経験を通じて、アシスタントとしての役割を担う。これにより、アスレティックトレーナーに必要なスキルや知識を効果的に修得することを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (18 吉田 真/15回) (19 吉田 昌弘/15回) (40 渡邊 千佳/15回)</p>	共同
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ		<p>本授業では、アスレティックトレーナー専門科目の現場実習として、アスレティックトレーニング現場実習Ⅰでの学びを基に、安全・健康管理、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニングおよびリコンディショニング、さらには救急対応における実践的な経験を積むことを目的とする。具体的には、プレーヤーのコンディション評価を行い、再発予防を目的とした動作解析を通じて、競技やプレーヤーの特性に応じた外傷・障害予防策を実施する。また、テーピングやリカバリー方法を実践的に学び、救急時の対応計画を策定し、緊急時の状況把握や救急対応に関する実践を行う。これにより、アスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を総合的に習得し、現場での即戦力としての能力を高めることを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (18 吉田 真/15回) (19 吉田 昌弘/15回) (40 渡邊 千佳/15回)</p>	共同
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ		<p>本授業では、アスレティックトレーナー専門科目の現場実習として、アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を基に、安全・健康管理、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニングおよびリコンディショニング、救急対応について自ら指導する実践的な経験を積むことを目的とする。具体的には、プレーヤーのコンディション評価を行い、再発予防のための動作解析を用いて、競技やプレーヤーの特性に応じた外傷・障害予防策を実施する。また、テーピングやリカバリー方法の実践、さらに救急時の対応計画の策定とその実行、緊急時の状況把握や救急対応の実践を通して、現場での指導力を養う。これにより、アスレティックトレーナーとしての専門的知識と技能を強化し、指導者としての能力を向上させることを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (18 吉田 真/15回) (19 吉田 昌弘/15回) (40 渡邊 千佳/15回)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポ ー ツ と 健 康 の 実 践 に 関 す る 科 目 群	体づくり運動		<p>本授業では、体づくり運動において、心と体を一体として捉えることを重視し、生徒が体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるようにするとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、学校の教育活動全体や実生活で活かすことができるように指導する能力を身につけることを目的とする。具体的には、①体づくり運動が導入された背景とねらい及び内容について理解する。②実際の運動を通し自分や相手の体や心の状態に気づき、仲間と協力して体を動かす効果を理解する。③生涯スポーツの観点から教材研究や運動プログラムの作成を行い、指導者としての資質を高めることを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (144 増山 尚美/15回) 「体ほぐしの運動」の内容及び実践、指導方法について担当する。</p> <p>(105 作田 文子/15回) 「体の動きを高める運動」と「実生活に生かす運動の計画」の内容及び実践、指導方法について担当する。</p>	共同
	器械運動		<p>本授業では、器械運動の指導法を学習することによって、学校体育やスポーツクラブでの器械運動の指導力を養うことを目的とする。具体的には、単純なマニュアルとしての指導法を学ぶだけではなく、技が“できるようになる”ことと“できるようにさせる”ことの違いを理解し、学習者を“できるようにさせる”ためにはどのような観点から技を指導していくべきであるのか、という問題に対して実技を通して演習を進める。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識する。</p>	
	陸上競技		<p>本授業では、陸上競技における走競技種目、跳躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得することにより、各種目の技術向上をはかることを目的とする。具体的には、①走競技種目では、短距離走・中長距離走・ハードル競争についての概要とルール、技術向上に必要な身体的要素と練習方法を学ぶ。②跳躍競技種目では、走り幅跳び・走り高跳び・三段跳びについての概要とルール、技術向上に必要な身体的要素と練習方法を学ぶ。③投てき競技種目では、砲丸投げ・円盤投げ・やり投げについての概要とルール、技術向上に必要な身体的要素と練習方法を学ぶ。</p> <p>(共同/全15回) (22 大宮 真一/15回) 短距離走、跳躍、投擲の実技指導を担当する。 (92 北風 沙織/15回) 短距離走の実技指導を担当する。 (129 仁井 有介/15回) 跳躍、投擲の実技指導を担当する。</p>	共同
	水泳・水中運動		<p>本授業では、基本泳法のスキルを身につけること、また指導者育成という観点から水泳及び水中運動の指導力を身につけることを目的とする。具体的には、水泳は技能の獲得が必要なことから、スキルを高めるための指導プログラムを学ぶ。さらに水泳及び水中運動を安全かつ効果的に行うための水の特性や運動時の身体の影響等についても学ぶ。</p> <p>(共同/全15回) (15 花井 篤子/15回) (78 稲山 敬太/15回) (118 高屋敷 亨子/15回) (127 中村 恵/15回)</p>	共同
	水泳・水中運動指導演習		<p>本授業では、幅広く親しまれ、年齢を問わず誰もが参加できる水泳・水中運動を安全で効果的に指導するための能力を身につけることを目的とする。具体的には、①模範となるための技術を磨き、自らが指導教材となる方法を習得する。②水の物理的性質、身体環境としての水の特性や水中環境での生理応答、水中運動の効果をわかりやすく伝える事ができる指導力を学習する。③実際の水泳・水中運動指導を通して、補助の方法や入退水を含めた初心者指導法、指導プログラムの立案、個人の特性にあった技術向上のための指導法を学ぶ。④水難事故を防ぐための水中安全管理法を学ぶ。</p> <p>(共同/全8回) (15 花井 篤子/8回) (118 高屋敷 亨子/8回)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポ ー ツ と 健 康 の 実 践 に 関 す る 科 目 群	バスケットボール		本授業では、バスケットボールの基礎技術の習得ならびに試合を楽しむための戦術を身につけることを目的とする。具体的には①パス・ドリブル・シュートなどバスケットボールの基礎技術を修得すること、②バスケットボールのルールや審判法について理解を深めること、③試合を楽しみ、生涯スポーツにつなげる。	
	サッカー		本授業では、サッカーの基礎技術ならびに指導する上で重要な「分析・テクニック・戦術・プランニング・コーチング」について体得することを目的とする。具体的には、ドリブルやキック、トラップ、ボール奪取などの個人技術を楽しみながら習得する方法を学び、チームとしての戦略および戦術の工夫についてグループワークを用いながら考察していく。さらには指導法や安全管理、基本的な審判法や競技ルールについても学び、指導者としての能力も養う。	
	バレーボール		本授業では、バレーボールの基礎技術の習得ならびに指導者としてのスキルを身につけることを目的とする。具体的には、基礎練習からゲームに至る実技の中でさまざまな技術や方法を実践し、最低限のプレー技術を習得するとともに、自らの技術向上をめざす。さらにバレーボールを指導する方法についても実践を通して身につけていく。併せてバレーボールのルールや歴史の変遷、審判法についても学習し、技術と教養を総合的に深めることを目指す。	
	バドミントン		本授業では、生涯にわたり老若男女が親しむことができるバドミントンの基本技術を習得し、指導者として能力を身につけることを目的とする。具体的には、種目特有の楽しさや競技場の設置方法、用具の名称と特徴、ルールや歴史の変遷の基礎知識を理解するとともに、サービス、サイドハンド・オーバーヘッド・アンダーハンドの各種ストロークを体系的に習得し、打ち分けられる基本技術を身につける。また、指導法や安全管理、基本的な審判法や競技規則、授業の展開方法、大会の企画・運営方法についても学び、指導者としての能力も養う。	
	テニス		本授業では、テニスの基本技術・ゲームの進め方、審判法を習得し、テニスを楽しむことを通じて生涯スポーツへの理解を深めることを目的とする。具体的には、①技術の上達をねらいとする練習(ストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ)、②ゲーム(ダブルスの進め方：公式ルールおよび審判法、③指導法の実習等で進める。 (25 黒田 裕太/15回) 硬式テニスの技術、ルール、審判法、指導方法について担当する。 (26 小峯 秋二/15回) ソフトテニスは、技術、ルール、審判法指導方法の実習、クラブマネジメントについて担当する。	
	野球・ソフトボール		本授業では、ベースボール型球技の特性を理解し、共通の技術である送球、捕球、打撃の理論と技術を習得する。また、ソフトボールの投球術(ウィンドミル投法)やキャッチボールができ、基本的なルールが理解できることを目的とする。具体的には、送球の基礎理論と実践、捕球の基礎理論と実践、ウィンドミル投法の理論と実践、打撃の基礎理論と実践、守備(投手・捕手)の基礎理論と実践、守備(内野手)の基礎理論と実践、守備(外野手)の基礎理論と実践などを行う。	
	ダンス		本授業では、多様な舞踊文化の一端に触れ、仲間のアイディアや表現を認め合い、踊る楽しさを体験するとともに基本的なリズムや動きを身につけることを目的とする。具体的には、ダンスの特性や歴史、作品を創作する方法、表現や交流の仕方を理解する。また、保健体育の教材として創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの指導法を学ぶ。 (共同/全15回) (144 増山 尚美/15回) 学習指導要領の内容、ダンスの歴史、即興表現、創作ダンスとフォークダンスの指導法について担当する。 (134 長谷川 由樹/15回) 現代的なリズムのダンスについて、リズムに乗る、変化のさせ方、HipHopの歴史など基本的な知識と技能の習得及び指導法を担当する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
スポーツと健康の実践に関する科目群	武道		本授業では、我が国固有の文化である武道の中から柔道を取り上げて学習することを目的とする。具体的には、柔道の基本的な礼法や態度、知識、技術(受身、体さばき、くずしなどの基本技術から、膝車、対落とし、送り足払いなどの投げ技やけさ固め、横四方、上四方などの固め技)、審判法、試合運営等について理解を深めるとともに、体育教員を目指す学習者に対し、学校体育において柔道を指導する際の指導方法や留意事項を修得する。これらを学ぶ過程を通して、他者を思いやる心や感謝する気持ちなどを身につけ、指導者に相応しい人格形成を図る。	
	冬季スポーツ	○	本授業では、北海道の特色である冬季スポーツについて学び、その理解を深めることを目的とする。具体的には、一般グレンデスキーである「スキー」(担当:竹田)、そして本学で考案した新スポーツであり、パークゴルフを雪上で行う「ゴルフッカ(=ゴルフでボッカボカ)」(担当:小田)の中から一種目を選択し、習得する。それぞれの基本的な技術や指導法を身につけ、生涯スポーツとしての冬季スポーツの実践者を目指す。 (1 竹田 唯史/15回) 「スキー」を担当する。理論(技術論、歴史、指導方法)・実技(テイネハイランドスキー場での2日間)を担当する。全日本スキー連盟公認のスキー技能検定の取得を目標とし、技術や指導方法を身につける。 (6 小田 史郎/15回) 「ゴルフッカ」を担当する。本学で考案されたパークゴルフを雪上で実施できるように改良した新スポーツのゴルフッカの基本的なルールや技術を身につける。さらに地域で行われる初心者対象の講習会やイベントに運営スタッフとして参加し、運営・指導方法を実践的に学ぶ。	主要授業科目
	エアロビック		本授業では、生涯スポーツとして幅広く親しまれているエアロビックの基礎理論を学び、エアロビックの基本技術を身につけることを目的とする。具体的には、軽快な音楽のビートに合わせて、多様な動きを楽しみながら対象者に合った有効な運動量を確保することができるという特色をもつエアロビックは、のプログラムを実施する際の安全で効果的な運動方法を習得し、エアロビックに対する理解を深める。	
	エアロビック指導演習		本授業では、エアロビック指導者として必要な基本動作の技術を高め、エアロビックの特性を十分に考慮し、対象者や目的に応じたプログラムを作成するための知識を深めることを目的とする。具体的には、エアロビックの指導の柱である、運動のプログラムを作成すること、自ら見本となる動きを見せること、動きを的確に伝えることについて、視覚的指導、言語的指導などの指導法を的確に使った指導を行うことができることを目指す。	
	アダプテッドスポーツ実技		本授業では、実際に行われているさまざまな障がい者スポーツを実技体験することを通して、障がいのある人の生活の充実のためにスポーツが果たす役割や競技における配慮事項について考究することを目的とする。具体的には、障がいのある人に対する必要な支援の方策や課題について学ぶ。そして、障がい者スポーツの実技経験を通して、種目やルールについて理解する。さらに、障がい者スポーツ団体のボランティアなどを通して、理解と啓発を行うとともに、障がいのある人がスポーツを楽しむための条件整備は社会的な課題であることの理解を深める。 (共同/全15回) (14 野戸谷 睦/15回) (102 齊藤 雄太/15回)	共同
	レクリエーション実技		本授業では、レクリエーションについての意義及び活動の実際を理解し、計画・実践力の習得のための理論と方法を体験的に学習することを目的とする。具体的には、「人間が人間らしく生きるため」の生活支援として、衣・食・住のみならず「楽しく、生きがいの感じられる」生活支援に欠くことのできないものとして、レクリエーション支援を位置づけ、実技授業を通してレクリエーションの楽しさを知る。レクリエーションの体験を通してレクリエーション活動の基礎的技術を習得するとともに、仲間との協力や指導法を相互に学習しながら理解を深め、器具・用具の取り扱いについても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポ ー ツ と 健 康 の 実 践 に 関 す る 科 目 群	ニュースポーツ		本授業では、生涯スポーツのひとつとして、ニュースポーツの多様性を理解し、実施方法を学ぶとともに、ニュースポーツを通して他者と関することで、社会性を養うことを目的とする。具体的には、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動であるニュースポーツのフライングディスク、ポッチャ、パドルテニスなどの基本ルールを理解し、実際にプレイすることでその魅力を体験する機会を提供する。あわせて、チームワークやコミュニケーションの重要性を学ぶ。	
	野外教育実習	○	本授業では、野外教育(組織キャンプ)に関する基礎的な理論や安全について学ぶことを目的とする。近年、都市化や機械化が進む中で人々の自然回帰の欲求は増大し、アウトドア・ブームの隆盛が著しい。また生きる力を育む教育として学校教育や社会教育において、野外教育の重要性が再認識されている。そこで実習前講義では、具体的には、野外教育および組織キャンプに関する基礎的な理論や安全について学び、実習では3泊4日間の組織キャンプ体験を通して、指導者としての基礎を学び、体験を通じた理解を深める。実習後は体験のふりかえりを通して、人と自然、自分と仲間、自分自身について考える。 (共同/全30回) (33 坂谷 充/実習前講義15回・実習15回) (32 今 竜一/15回) (96 小泉 真希/15回)	共同 主要授業科目 講義30時間 実習30時間
	野外教育指導演習		本授業では、野外教育の指導者養成科目として、組織キャンプの企画・運営・指導・評価の体験を通じ、野外教育ならび組織キャンプの指導者としての知識と技術を深めることを目的とする。具体的には、実習前講義では履修条件に挙げた諸科目を通して学んだ基礎的な理論や技術をもとに実習の一部を企画・準備する。実習中は2年次対象の開講科目である「野外教育実習」のスタッフとして、指導者の役割について体験を通して学びを深める。また実習後は、実習の評価会運営や報告書作成を通して評価法を学ぶ。 (共同/全15回) (33 坂谷 充/演習15回) (158 安原 政志/演習15回) (154 本村 明夏/演習15回)	共同
	雪上活動実習		本授業では、冬の北海道における気候や雪という特性をいかして、冬季に行われる自然体験活動について学び、その理解を深めることを目的とする。具体的には、講義では雪上活動の理論や気象特性、安全管理やリスクマネジメント等について学習する。2泊3日の実習ではスノーシューやネイチャースキーを用いた自然観察や冬季レクリエーションゲーム、イグルーづくりなど、冬季に行われる代表的な自然体験活動を通して、そのスキルを身につける。本授業は野外教育の指導者養成に対応する科目である。 (共同/全15回) (33 坂谷 充/実習前講義8回・実習7回) (96 小泉 真希/実習7回) (158 安原 政志/実習7回)	共同 講義16時間 実習14時間

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目 スポーツと健康の 実践に関する科目群	競技スポーツコーチング 演習Ⅰ		本授業では、競技種目(野球・陸上競技・エアロビック・バドミントン・バレーボール・ソフトテニス・体操競技・バスケットボール)の発展過程、競技特性を理解し、競技力向上のために必要な専門的な知識、技術、技能を身につける。また、指導を行うための基礎理論、コーチングに必要な指導方法を理解し、実技能力だけでなく、伝える力、指導する力を養成するために必要な指導方法の基礎を習得することを目的とする。具体的には、競技スポーツのコーチングにおける、個々の能力を伸ばし最大限のパフォーマンスを発揮させることを目指す。	
	競技スポーツコーチング 演習Ⅱ		本授業では、競技スポーツのコーチングにおける個々の能力を伸ばし最大限のパフォーマンスを発揮させること目標にむけて、実践的な学びを通して理解を深めることを目的とする。具体的には、競技種目(野球・陸上競技・エアロビック・バドミントン・バレーボール・ソフトテニス・体操競技・バスケットボール)の正しい理論や専門的な知識、技術、技能の理解を深めた上で、コーチングに必要な観察力や伝達力、個人・団体競技の特性やコーチング対象の年齢、競技レベルに合わせた段階的な指導方法を身につける。	
	競技スポーツコーチング 演習Ⅲ		本授業では、競技スポーツのコーチングにおける個々の能力を伸ばし最大限のパフォーマンスを発揮させる目標に向けて、より高度な実践力を身につけることを目的とする。具体的には、競技種目(野球・陸上競技・エアロビック・バドミントン・バレーボール・ソフトテニス・体操競技・バスケットボール)の質の高い指導者になるため、習得した理論や知識、指導方法を実践するとともに、状況に応じて理論や知識を応用し、変化に応じて指導ができる対応力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要					
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	機能解剖学	○	本授業では、解剖学における人体の基本的構造に関する知識を基盤とし、筋骨格系を中心に人体の運動発現の仕組みについて理解を深めることを目的とする。具体的には、筋骨格を構成する骨、関節、筋の基本的な構造と、これらがどのように連携して運動を生み出すかについて学ぶ。また、四肢や体幹の各関節における運動のメカニズムを詳細に理解し、人体の動作における機能的な役割を探索することで、より深い理解を得る。これにより、運動やリハビリテーションの現場で必要とされる解剖学的知識を身につけ、実践に活用できる能力を養うことを目指す。	主要授業科目 メディア
		運動生理学	○	本授業では、身体運動時(活動時)における、生体の変化とその法則性を理解することを目的とする。具体的には、ヒトが運動するとき、身体にどのような変化が起きているか、ということの研究分析していく。そして、運動などの外的刺激により、筋肉の構造や機能をみずから作り変えることができること、また、筋肉だけでなく、内臓、神経などあらゆる器官において「適応現象」がみられることを理解する。さらに、これらを統合するために、「調節機構」としての脳の関与を理解する。	主要授業科目
		生活習慣病概論	○	本授業では、一般的な疾患から身を守るための基礎知識として病気の原因、症候・症状、診断、治療・予防の基本について学び、特に現代病である生活習慣病や運動器疾患について、深く理解することを目的とする。具体的には、身近な疾患についての一般的な知識(家庭医学的)について学ぶ。そして、予防可能な疾患である生活習慣病、介護に関連した疾患の認知症、運動疾患について深い見識を身につける。さらに、教員、運動指導者、介護福祉従事者として必要な医学の基礎知識を身につけることを目指す。	主要授業科目
		衛生学及び公衆衛生学		本授業では、医療・保健・福祉の連携の重要性が増す中、特に教育の現場において必要な環境衛生・公衆衛生学の意義と基本的知識について学ぶとともに、集団と個人の健康に関する事項について認識を深める。また、これらを通じて、生涯を通じた健康づくりについて考察することを目的としている。具体的には、健康に関する現代的課題について学ぶ。そして、課題解決に向けた方策について理解し、生涯を通じた健康づくりについて考察する。	
		スポーツ医学基礎	○	本授業では、現代社会において質の高い健康・スポーツ指導者として必要不可欠なスポーツ医学の基礎的な知識を学び、さらに講義を通して自らの健康やスポーツ活動について考える機会を持ち、今後のスポーツ活動を継続していく上で役立つものとなることを目的とする。具体的には、スポーツ医学の基礎的な知識を学ぶ。そして自らの健康やスポーツ活動について考える。 (オムニバス方式/全15回) (10 杉岡 品子/11回) アスリートの内科的障害と対策、アスリートの外傷・障害と対策、救急処置の基本的知識、特殊環境下での対応について担当する。 (2 永谷 稔/1回) アンチドーピングについて担当する。 (19 吉田 昌弘/3回) アスレティックリハビリテーション、トレーニング計画、コンディショニングの手法について担当する。	主要授業科目 オムニバス方式 メディア

授 業 科 目 の 概 要					
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	スポーツ整形外科学	<p>本授業では、スポーツ活動現場で発生頻度の高いスポーツ外傷・障害について、その病態や発生機転、診断方法、さらに画像診断に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には、アスレティックトレーナーが現場でスポーツ外傷・障害の発生状況を迅速に把握し、適切な対応や報告を行えるよう、徒手の検査や評価技術の実技も交えながら解説する。なお、スポーツ現場ではアスレティックトレーナーがひとりで活動する場合も多いため、医師による正式な診断に至るまでの初期対応力を養成することが重要である。加えて、各スポーツ外傷・障害に応じた最適な検査手法や、スポーツドクターをはじめとした他の専門職に報告・相談するスキルについても学習し、フィールドでの的確なサポートを実現するための能力向上を図ることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (164 渡邊 耕太/4回)</p> <p>下肢におけるスポーツ外傷・障害の病態や発生機序について担当する。 (136 廣瀬 聰明/4回)</p> <p>上肢におけるスポーツ外傷・障害の病態や発生機序について担当する。 (98 小林 拓馬/4回)</p> <p>体幹におけるスポーツ外傷・障害の病態や発生機序について担当する。 (19 吉田 昌弘/3回)</p> <p>スポーツ外傷・障害の総論およびケースカンファレンスについて担当する。</p>	オムニバス方式	
		スポーツ内科学	<p>本授業では、健康・スポーツ指導者、競技者に必要なスポーツ内科学の基本と最新の知見を学ぶことを目的とする。具体的には、内科的スポーツ障害の予防・改善など運動スポーツ指導者に必須の知識、知識を活かしたコンディショニング方法の基本を学ぶ。また、錯綜する膨大な情報から確かな知見を見極める基礎知識を身につける。そして、運動スポーツ活動や指導を生涯続けて行く上で、自分の得意競技、方向性に合ったテーマを持ち、探求する姿勢を身につける。</p>		
		救急処置	<p>本授業では、一次救命処置の意義を理解し、医療資格者に引き継ぐまでの現場で行う救急対応の知識と実践を習得することを目的とする。具体的には、救急疾病や外傷に対する応急手当ての重要性を学び、救急蘇生法を実践的に習得する。また、救命の連鎖や心肺蘇生法、応急手当の必要性を理解し、それらを現場で実践できる力を養う。さらに、外科的処置の基本概念や運動中の外科的損傷の病態を理解し、応急処置を実践できるようにすること、スポーツ活動時に見られる内科的疾患の特徴を理解することも目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 沖田 孝一/11回)</p> <p>救急処置の基本的知識、スポーツ現場における救急処置、外傷時の救急処置について担当する。 (132 羽賀 将衛/4回)</p> <p>緊急時の救命処置、内科的疾患の救急処置、現場における救急体制について担当する。</p>	オムニバス方式	
		トレーニング論	<p>本授業では、主に体力やスポーツパフォーマンスを効果的に向上させるためのトレーニングについて学び、自らがトレーニングを行い、実施者への指導のために必要な基礎知識と応用力を身につけることを目的とする。トレーニングは、目的に応じた身体運動を適切かつ継続的に実施することによって、身体の構造や機能を変化させようとすることであり、その理解を深める。</p>		
		体力測定評価	<p>本授業では、体育・スポーツ指導者に要求される体力の評価について、その理論を学んだうえで、評価するために関係する測定項目の方法の習得することを目的とする。具体的には各測定の方法や意義、そして評価までの一連の流れを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (119 瀧澤 一騎/12回)</p> <p>体力の定義・体力測定の歴史・文部科学省の新体力テスト・体力構成要素に関する測定と評価・形態(含む身体組成)の測定と評価・小学生・青少年・成人の体力測定法と評価を担当する。 (4 上田 知行/3回)</p> <p>高齢者に関する体力測定と評価を担当する。</p>	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
スポーツと健康の理論に関する科目群 学科専門科目	運動処方	○	本授業では、健康維持・増進のための運動指導を専門的に行うことを考えている学生が、運動処方の基礎理論を身につけることを目的とする。具体的には、安全管理が必要な健康づくりのための安全かつ効果的な運動プログラムを作成、実践するための基礎理論を学ぶ。その上で、有疾患患者の運動処方を立案できることを目指す。	主要授業科目
	健康運動専門職演習Ⅰ		本授業は、自己の進路を見据えて、志望する職業と関連する免許・資格について学び、当該分野で働くことを実現するための基礎知識を確実にすることを目的とする。具体的には、体系的に開講される本学キャリア教育の中で、健康運動に従事する専門職の実践教育に位置し、基礎力を向上させることを目指す。	
	健康運動専門職演習Ⅱ		本授業は、将来の進路決定のために自らが志望した分野について、より一層の理解を深め、実践的応用力を身につけることを目的とする。具体的には、本学のキャリア教育の中で、健康運動に従事する専門職の実践的総括科目にあたり、その知識を深めるとともに実践力を向上させることを目指す。	
	体育原理		本講義では、「体育」とは何か、その目的、内容、方法及び「体育」を実践する上で必要な原理等について理解することを目的とする。具体的には、人はなぜスポーツを創造し、実践し、観るのか、そしてなぜ教えるのかの原理的認識を深めるとともに、体育やスポーツ文化を廻る諸問題(勝利至上主義、体罰、商業主義、ドーピング、スポーツと性、スポーツメディア等々)を題材として、人類が生み出したスポーツ文化の本来の意味や価値についての考察を深め、学校や社会における体育・スポーツ教育、指導上の諸問題の解明と解決の課題についての認識を深める。また、体育やスポーツに関連する哲学的な思想を理解し、「体育」を実践する上で必要となる判断力や思考力を高める。	
	学校保健	○	本授業では、学校保健の二大領域である「保健管理」と「保健教育」、それらに包含される「健康管理・環境管理」「保健学習・保健指導」の具体的内容、児童・生徒の心身の発達や心身の問題、救急処置の基礎を学習する。そして、理解した内容をもとに、保健学習、保健指導の実践力につなげることを目的とする。具体的には、保健管理、保健教育について学ぶ。そして、小児保健・精神保健、救急処置に関する理解を深める。その上で、保健学習、保健指導の実践力につなげる。	主要授業科目
	保健体育科内容構成論	○	本授業では、保健体育科内容構成論について理解を深め、認識過程の基本構造を理解し、教授学における授業構成論を理解することを目的とする。具体的には、体育科教育における内容構成論を踏まえた上で、受講生の専門とするスポーツ文化の内容構成論を考察できることを目指す。	主要授業科目
	保健体育専門職演習		本授業は、学校で保健体育科教員として勤務する際に必要な資質・能力を身に付けるとともに、学校教育に関する各種課題についての理解を深め、その課題解決の方策等について検討し、現場で実践していくことができる力を身につけることを目的とする。具体的には、学習者同士で検討することを通して、保健体育科教員として必要な資質・能力を身に付けさせるとともに、自らの考えを他者に論理的に説明することができる力を養成する。	
	スポーツマネジメント	○	本授業では、スポーツ集団や組織をコントロールする手段としての、基本的なマネジメント理論と実践方法を学び、スポーツにおける経営、会計、経済、法律、倫理、行政・政策などから、スポーツマネジメントにおける将来的な展望を考察することを目的とする。具体的には、学校や地域のスポーツクラブ、公共や民間のスポーツクラブ、ホテルやリゾートのスポーツ施設、さらにはプロスポーツなど、さまざまなスポーツ組織において不可欠となる、参加者や活動者が十分な満足や成果を得るために意欲的な行動に必要な環境や条件をコントロールする知識と能力を身につける。	主要授業科目
スポーツマーケティング	○	本授業では、マーケティングの基礎を学び、スポーツにおけるマーケティングの基礎的な考え方と重要性を考察することを目的とする。具体的には、無形の商品であるスポーツマーケットの実態や戦略方法を学び、現代社会におけるスポーツの役割や位置づけを考える。オリンピックやJリーグなどにおけるスポンサーシップや放送権の話題を通して、スポーツマーケティングについて考える。	主要授業科目	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
スポーツと健康の理論に関する科目群	スポーツ社会学		本授業では、社会学の基礎理念と理論を適用し、スポーツの持つ多様で複合的な側面の分析スキルを習得し、その社会現象や社会的背景の理解を深めることを目的とする。具体的には、現代社会におけるスポーツの系譜を社会学の視点から理論的かつ実践的に学ぶ。	
	スポーツ運動学	○	本授業では、スポーツにおける運動学習の基礎理論としての学習位相、運動質、運動構造、運動技術、運動観察の概念を、人間学的・現象学的立場から概説し、運動方法論について認識を深めることを目的とする。具体的には、学習位相、運動質、運動構造、運動技術、運動観察の概念を学び、実際の運動学習の事例に結びつけて問題点を抽出する。また、運動学習で生じる様々な問題を解決するための視点について理解を深める。	主要授業科目
	スポーツ史		本授業では、オリンピックを軸にスポーツが社会においてどのような位置づけにあり、またなぜそうなってきたのかについて考えることを目的とする。具体的に、スポーツの成り立ちや変遷に関する基礎的な知識を学ぶ。また、スポーツを文化・社会科学的見地から考察できることを目指す。	
	スポーツ・バイオメカニクス	○	本授業では、スポーツや運動における人間の動作を力学的観点から分析し、動作を数値化する手法を学ぶことを目的とする。具体的には、バイオメカニクス研究で使用される光学式3次元動作分析装置、床反力計、筋電図などの計測装置の原理や測定手法を習得し、スポーツ動作を科学的に評価する技術を身に付ける。また、歩行、跳躍、水泳、投擲、蹴りなど、代表的な運動の計測から得られる生体データの意味や、そのデータの解釈方法を学ぶ。これにより、計測結果に基づいた動作改善やパフォーマンス向上に役立つスキルを養い、スポーツの科学的分析に必要な知識と技術を身に付けることを目指す。	主要授業科目
	スポーツ・バイオメカニクス演習		本授業では、スポーツおよび身体動作を客観的に分析する手法の一つである3次元動作分析法を学ぶことを目的とする。具体的には、3次元動作分析装置で計測されたモーションデータを使用し、身体運動を数値データに変換して分析する方法を習得する。演習形式を採用し、PCを活用して動作分析の基礎を学ぶことで、数値データの扱い方やデータの視覚化手法について理解を深める。また、動作をバイオメカニクスの視点から分析し、その結果を分かりやすくプレゼンテーションする技術も習得する。さらに、グループワークを通じて協力しながら分析を行い、プレゼンテーション資料を作成する経験を積むことで、コミュニケーション力や協働力を高めることを目指す。	
	スポーツ栄養学	○	本授業では、アスリートが良好なコンディションを維持し、競技パフォーマンスを最大限に発揮するために必要な栄養サポートを学ぶことを目的とする。具体的には、身体活動の増加に伴う生化学的・生理学的応答に基づき、エネルギー代謝や主要栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）、微量栄養素（ビタミン、ミネラル）について詳しく学ぶ。また、脱水症状とパフォーマンスとの関係や適切な水分補給方法、栄養評価や指導の実践的な方法も取り扱い、アスリートに対する栄養指導能力を養成することを旨とする。	主要授業科目
	スポーツ栄養学演習		本授業では、アスリートが最適な競技パフォーマンスを発揮するために必要な栄養サポートと食事管理を学ぶことを目的とする。具体的には、座学で、栄養素の役割や摂取タイミング、期分けによる食事内容の工夫を理解し、身体活動に伴う栄養学的な課題に対応するための知識を深める。さらに、調理実習を通じて、栄養バランスの取れた食事の作り方、食材の組み合わせ、衛生管理、食中毒の予防について実践的に学ぶ。理論と実技を組み合わせることで、スポーツ栄養学の実践的な理解を深め、アスリートの競技力向上やサポートに必要なスキルを養成することを旨とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	スポーツ心理学	○ 本授業では、自分自身のスポーツをしている時の心の動きに関する基礎知識を学び、スポーツ活動や運動パフォーマンスを促進するために必要な心理的スキルを学習する。また、スポーツ場面特有の心理的現象やその対処法についての認識を深めることを目的とする。具体的には、スポーツ活動や運動のパフォーマンスにおけるメンタルマネジメントの重要性を学ぶ。そして、心理的スキルとその方法について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (162 吉田 聡美/10回) メンタルトレーニングを中心に授業を展開し、心理的スキル獲得に向けての概要について担当する。 (20 畝中 智志/5回) 運動学習や熟達化、動機づけ、脳の働きについて授業を展開し、各理論を自身の生活に活かす思考の獲得について担当する。	主要授業科目 オムニバス方式
		スポーツ心理学演習	本授業では、スポーツ心理学における実験およびメンタルトレーニングの演習を行う。運動学習や認知に関わる各理論の実証実験やメンタルトレーニングにおける心理的スキルの習得を目的とする。具体的には、実験および演習を通して、人間の運動や認知活動がどのように行われているのか実証的に学びとともに、競技場におけるパフォーマンス発揮に向けた取り組みを実践する。	
		アダプテッドスポーツ論	本授業では、ICFによる障がいの概念を理解し、実際に行われている様々なパラスポーツの取り組みを理解することを目的とする。具体的には、障がいのある人の生活の充実のためにスポーツが果たす役割や配慮事項について理解し、さらにスポーツの取り組みは、我々の豊かな生活に密接な関連があることについて理解することを旨とする。	
		レジャー・レクリエーション論	○ 本授業では、労働と対比する遊びの領域で展開され、豊かでゆとりのある暮らしを支える重要な要素であるレジャー・レクリエーションについて理解し、レクリエーションの企画・展開方法についても学ぶことを目的とする。具体的には、現代社会におけるレジャー・レクリエーションの目的・意義について学ぶ。そして、レクリエーションの企画や運営、安全管理などについて理解を深める。	主要授業科目
		スポーツ解剖学	本授業では、機能解剖学で学んだ知識を基盤に、スポーツパフォーマンスにおける代表的な動作について、運動学的側面から専門用語を用いて説明できることを目的とする。具体的には、ランニング、ジャンプ・着地、スローイング、キック動作等を題材として取り上げ、それぞれのパフォーマンスを運動学的側面から専門用語を用いて説明できることを目標とする。さらに授業の後半では、アスレティックトレーナーによる検査・測定と評価の一部であるスポーツ動作の観察と分析に必要な知識に基づく観察能力と分析能力を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (40 渡邊 千佳/7回) 機能解剖学を基礎に、上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋腱の構造について取り上げ、動作の観察と分析能力を高めるため、グループワークでプレゼンテーションに関する内容を担当する。 (104 榊 善成/8回) ランニングやジャンプ、スローイング、キックなどのスポーツ動作のバイオメカニクス、観察方法、動作に影響を与える機能的・体力的要因に関する内容を担当する。	オムニバス方式
		アスレティックトレーナー概論	○ 本授業では、JSP0-ATの役割や業務、専門性を理解し、業務を遂行するために必要な多様な素養の位置づけを学ぶ。また、持続的な学習と関係職種との連携を推進するための知識と態度を習得することを目的とする。具体的には、JSP0-ATや国内外の関連資格の役割や制度、法律的観点からの倫理と責任を説明できる力を養う。さらに、自身の健康管理の重要性やその予防・対処法、関連資格を持つスポーツ医・科学チームの特徴を理解し、連携体制を構築する方法を学ぶ。	主要授業科目
		スポーツ外傷障害予防 I	本授業では、JSP0-ATの役割としての安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の重要性を理解するとともに、科学的根拠に基づいた予防策を組織的に計画・実践するための知識や技能を習得することを目的とする。具体的には、安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防の意義、JSP0-ATとしての役割、予防の概念や発生要因について学ぶ。また、予防計画の立案、安全・健康管理に関連する評価方法や情報の活用、さらに外傷や障害に影響を与える要因についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	スポーツ外傷障害予防Ⅱ		本授業では、JSP0-ATの役割における安全・健康管理やスポーツ外傷・障害の予防を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践するための知識や技能を習得することを目指す。具体的には、スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因を理解し、予防策の計画を立てる方法、安全・健康管理や外傷・障害予防に関する評価を行い、その結果に基づいて効果的な予防対応を組織的に計画・実践する能力を養う。また、これらの予防に影響を与える要因についても学ぶ。	
	スポーツ外傷障害の評価		本授業では、JSP0-ATに必要とされる検査・測定・評価の目的と意義を学び、必要に応じた評価手法を選定する能力を身につける。そして具体的な評価プロセスの理解のもと、検査・測定を正しく実践できる能力を習得することを目的とする。具体的には、評価の目的と意義を学ぶ。そして、形態、関節稼働性、筋力、持久力、敏捷性の評価について、理解する。また、一般的な体力測定、心理的アセスメントについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (104 榎 善成/8回) 評価の目的と意義、形態の評価、関節可動性の評価、筋力の評価について担当する。 (147 松田 光史/7回) 持久力の評価、敏捷性の評価、一般的な体力測定、心理的アセスメントについて担当する。	オムニバス方式
	コンディショニング理論	○	本授業では、アスリートやチームが最高のパフォーマンスを発揮するために必要なコンディショニングの理論と実践方法を学ぶことを目的とする。具体的には、アスリートの目指す理想的なコンディションと現状とのギャップを分析し、その差を最小化するための手法を検討する。コンディショニング調整においては、コンディショニングに影響を及ぼす内的要因(身体的・精神的な状態)および外的要因(環境、トレーニング条件など)を多角的に把握し、適切な改善策を策定する力が求められるため、これらの理論を学ぶとともに、具体的な実践手法の理解を深める。また、アスリート個々の状況に応じた柔軟な対応法や、最新の科学的知見に基づくコンディショニング計画の立案と実施についても取り組む。これにより、学生は実践的なコンディショニング技術と応用力を身につけ、競技パフォーマンス向上を支える専門的な知識と技能を高めることを目指す。	主要授業科目
	リコンディショニング理論	○	本授業では、何らかの要因により低下した身体機能や体力、運動能力、体調を適切な状態に回復させるためのリコンディショニングについて学ぶことを目的とする。具体的には、リコンディショニングの基礎となる理論や手法を理解し、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー(JSP0-AT)の役割におけるリコンディショニングの重要性とその位置づけを確認する。リコンディショニングのプロセスでは、個々のアスリートの症状や状態に応じたプログラムの立案、筋力や柔軟性、持久力の回復を目指したトレーニング方法の選定、心理的支援など、幅広い知識とスキルが求められる。さらに、実践の場で効果的にリコンディショニングを行うための評価方法や進捗の管理手法についても学び、アスリートが安全に競技復帰できるよう支援するための能力を育成することを目指す。	主要授業科目
アスレティック トレーニング専門職演習Ⅰ			本授業では、アスレティックトレーニングの専門職としての資質向上を図り、安全かつ効果的な業務遂行のために必要な生涯教育の意義とその取り組み方法を学ぶことを目的とする。具体的には、専門職としての自己管理や自己啓発の重要性を理解し、職務における知識と技能を向上させ続ける姿勢を養う。また、現場において直面する様々な課題に対応するための柔軟性や問題解決力を身につけ、業務の改善に積極的に取り組む態度を培う。さらに、チーム内での協調性や他職種との連携の必要性を理解し、コミュニケーション能力を向上させることで、現場での就業力を高める。こうした実践的な能力を修得することで、学生は社会において専門家としての責任を自覚し、持続的に自己成長できるアスレティックトレーナーを目指す。 (共同/全15回) (40 渡邊 千佳/15回) (75 石川 凌/15回)	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群		<p>本授業は、アスレティックトレーニングの専門職として必要な資格取得に向けて、専門的な知識と実践力を強化することを目的とする。具体的には、資格取得に向けた学習計画の立案から、試験範囲に含まれる分野の詳細な理解、問題解決力を養う演習を中心に行う。解剖学や運動生理学、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング、救急対応に関する知識を体系的に整理し、試験形式に沿った模擬問題を用いて実践力を高める。また、最新のスポーツ医学や倫理的問題にも対応できる判断力を養成する。さらに、試験合格に必要な要点を明確にし、自主学習を効率化する方法や自己管理能力の向上にも重点を置く。これにより、学生は資格試験合格に向けて十分な準備を整え、アスレティックトレーニングの専門職としての専門的な知識とスキルを確実に身につけることを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (19 吉田 昌弘/15回) (75 石川 凌/15回)</p>	共同
		○	<p>本授業では、自らの能力を最大限に引き出すための可能性に挑む競技スポーツそのものの意義、役割を学ぶとともに、競技者としてあるいは指導者として必要な知識を身に付けることを目的とする。具体的には、競技スポーツの概念を理解するとともに、現代社会における競技スポーツの位置づけ、役割について学ぶ。そして、アスリートに関する素養を身につける。さらに、競技スポーツのコーチングに関する素養を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 大宮 真一/3回) 競技スポーツの概念、競技スポーツでの疾走能力、競技スポーツの今後の課題とまとめについて担当する。 (7 菊地 はるひ/2回) スポーツとモラル、競技スポーツのコーチングについて担当する。 (26 小峯 秋二/2回) 競技スポーツを取り巻く環境、アスリートのキャリア形成について担当する。 (35 竹内 雅明/2回) 競技スポーツにおける心理的スキル、競技スポーツの価値について担当する。 (1 竹田 唯史/2回) アスリートの心理的・認知的能力、冬季の競技スポーツについて担当する。 (28 廣田 修平/2回) 生涯スポーツとしての競技スポーツ、競技力向上のためのトレーニング計画について担当する。 (30 横山 茜理/2回) アスリートに求められるもの、競技スポーツにおける戦術・戦略について担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
		○	<p>本授業では、スポーツの専門化が進み、非常に高度化した現在の競技スポーツに挑むアスリートの本質について理解を深め、自らの可能性をより高いレベルで追求していくための知識を深めることを目的とする。具体的には、アスリートとしてのあるべき姿を捉え、質の高い競技生活を送るための知識、理解を深める。そして、現在行っている競技スポーツの現場において自らの競技力向上のための方策を追求するための知識、理解を深める。さらにアスリートの現状と課題を把握し、自己の成長に活用することで将来へ向けてのビジョンを明確にする。</p>	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	コーチング論	○	<p>本授業では、グッドコーチに求められる資質能力を習得するために、「人間力」と称する「思考・判断(スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学等)」と、「態度・行動(対自分力、対他者力)」を理解し、より良い指導方法の基礎を学習する。優れたコーチの資質、役割、技術指導方法、指導計画、評価方法、さらには、競技に応じた指導計画の方法とICT機器の活用について学ぶことを目的とする。具体的には、体育・スポーツでのコーチング基礎理論を学ぶ。そして、トレーニング計画、その過程およびコーチング方法を理解する。さらに、各競技の特性を考えたコーチングについて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 大宮 真一/8回) コーチの資質・役割、コーチング倫理、個人競技のコーチング、トレーニング計画立案について担当する。 (35 竹内 雅明/7回) コーチングによるスキル学習過程、チームマネジメント、個人/集団競技のコーチング・トレーニング計画立案について担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	ゲーム分析	○	<p>本授業では、各競技スポーツにおける競技パフォーマンスの分析方法について理解し、分析されたデータの選手へのフィードバックやコーチングに活かすこと、学校現場での活用、将来のアナリスト育成のための基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、各スポーツ種目のデータ分析方法について理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 大宮 真一/3回) 陸上競技の試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (26 小峯 秋二/2回) ソフトテニスの試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (35 竹内 雅明/2回) バドミントンの試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (1 竹田 唯史/2回) スキーマの試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (2 永谷 稔/2回) バレーボールの試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (30 横山 茜理/2回) バスケットボールの試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。 (39 渡部 峻/2回) 野球の試合、トレーニングでのパフォーマンス分析を担当する。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
	アスリートコーチング 基礎演習 I			<p>本授業では、各競技種目(陸上競技・バドミントン・スキー・ソフトテニス・体操競技・バスケットボール)において、自らの専門競技外の種目を選択し、そのスキル習得、戦術方法、トレーニング方法、指導方法を演習を通して基礎を学び、自らの専門競技に活用することを目的とする。具体的には、各スポーツ種目のコーチングにおける指導方法を理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 大宮 真一/3回) 陸上競技のコーチング方法について担当する。 (26 小峯 秋二/3回) ソフトテニスのコーチング方法について担当する。 (35 竹内 雅明/3回) バドミントンのコーチング方法について担当する。 (1 竹田 唯史/2回) スキーマのコーチング方法について担当する。 (28 廣田 修平/2回) 器械体操のコーチング方法について担当する。 (30 横山 茜理/2回) バスケットボールのコーチング方法について担当する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目 スポーツと健康の理論に関する科目群	アスリートコーチング基礎演習Ⅱ		<p>本授業では、各競技種目(陸上競技・バドミントン・スキー・ソフトテニス・体操競技・バスケットボール)において、自らの専門競技外の種目を選択し、そのスキル習得、戦術方法、トレーニング方法、指導方法を演習を通してアスリートコーチング基礎演習Ⅰで選択できなかった種目から基礎を学び、自らの専門競技に活用することを目的とする。具体的には、各スポーツ種目のコーチングにおける指導方法を理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 大宮 真一/3回) 陸上競技のコーチング方法について担当する。 (26 小峯 秋二/3回) ソフトテニスのコーチング方法について担当する。 (35 竹内 雅明/3回) バドミントンのコーチング方法について担当する。 (1 竹田 唯史/2回) スキーのコーチング方法について担当する。 (28 廣田 修平/2回) 器械体操のコーチング方法について担当する。 (30 横山 茜理/2回) バスケットボールのコーチング方法について担当する。</p>	オムニバス方式
	スポーツジャーナリズム論		<p>本授業では、これまで新聞、TVやラジオ、インターネット等で報じられてきたスポーツ分野での報道記事の内容分析を中心に、そこでのメディアの社会的インパクトについて検証し、ジャーナリズムのあり方を学ぶことを目的とする。具体的なスポーツ報道については、オリンピックやワールドカップのような世界的なイベントから体罰やハラスメントなど、好意的なものともそうではないものを取り上げテーマとして設定し、実際に記事にまとめ発表する。</p>	
	スポーツビジネス論		<p>本授業では、プロスポーツ、スポーツ産業界、スポーツイベント等での分野でのスポーツマネジメントの見地から、そこでの経済的市場の現況調査やビジネスモデルを学習することを目的とする。具体的には、各ビジネス分野で活躍されている先導者からも意見を聞きながら、単にビジネスとして成立させるだけでなく、いちスポーツ集団や組織として維持発展出来るよう、また、これまでボランティアで行われてきた慣習が改善できるような知識とスキルを習得することを目指す。</p>	
	地域スポーツ政策論		<p>本授業では、生涯スポーツ、地域スポーツクラブ、スポーツイベントなどについて、国及び地方公共団体レベルの政策的見地からその現状評価をし、そこでの課題について考究することを目的とする。具体的には、現在過渡期を迎えている学校運動部活動について、クラブ、指導者、学校、地元自治体、あるいは地元企業との連携等について政策評価を行い、持続可能な地域スポーツ政策について現場の意見や実情を踏まえながら、より実践的な政策について考えを深めていく。</p>	
	スポーツクラブマネジメント論	○		<p>本授業では、地域スポーツクラブの組織運営の人的資源、物的資源、財源的資源のマネジメントについて原理原則を学ぶことを目的とする。具体的には、さまざまな組織論をベースとしたマネジメントをスポーツクラブに援用していくことについて知識を深める。そして、地域スポーツクラブが学校や行政とどのように連携すべきか、その現状や実態について理解し、さまざまな課題についてどのような解決策が必要であるか考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 永谷 稔/7回) 運動部活動の地域移行に向けての地域スポーツクラブの運営に関するマネジメント能力について教授する。 (21 大崎 哲也/8回) 地域スポーツクラブのプログラム運営や公共性についてクラブの経営的かつビジネスモデルについて教授する</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	チームマネジメント論	○ 本授業では、競技力の向上を目的としたチームマネジメントにおける、哲学、目的、目標設定、情報収集、分析方法等の基礎知識について学習することを目的とする。具体的には、リーダーの機能と役割、特性やアスリートのパフォーマンスマネジメントに必要な要素について考究する。 (オムニバス方式/全15回) (26 小峯 秋二/7回) チームマネジメントにおける哲学、目的、目標設定、情報収集、分析方法の基礎知識について担当する。 (30 横山 茜理/8回) リーダーの機能と役割、特性やアスリートのパフォーマンスマネジメントの基礎知識について担当する。	主要授業科目 オムニバス方式
		スポーツDX論	本授業では、スポーツ分野におけるDX(Digital Transformation)最先端で高度なIT技術を使った各種測定方法、ICT教材の作成方法、e-Sportなど幅広い内容について、現状と課題について学習することを目的とする。具体的には、テレビ技術の発展、衛星放送や動画配信における高度化と大衆化、選手のパフォーマンス改善やビジネスチャンスの拡大、可視化による客観視と学習効果向上など、スポーツ分野における価値やプロセスを高める取り組みについて学び、実際にICTの簡単なコンテンツ開発を実施する。	
		ジェンダースポーツ論	本授業では、スポーツにおける男女平等や女性アスリートをめぐるジェンダー(社会的・文化的側面)とセクシャリティー(生理学的・解剖学的側面)について、スポーツと多様性について学ぶことを目的とする。具体的には、オリンピックにおける女性の位置づけや、日本や諸外国における女性スポーツの普及・振興、さまざまな諸問題を取り上げ、スポーツにおける性別二元制などの固定的な価値観から、性差なきスポーツ界の実現、今後の多様性と可能性について考究する。	
		スポーツマネジメント演習	本授業では、国内外でのスポーツクラブ、スポーツ産業界、イベント業界等での、指導及びマネジメント実習を実施することを目的とする。具体的には、民間のフィットネスクラブから地域のスポーツクラブ、さまざまなスポーツ産業としてメーカーや施設、情報やサービス、そしてプロスポーツチームによるイベントや公共スポーツイベントなどの現場に赴き、関係者からの指導や実際に実習を行うなど体験だけでなく、実践力を身に付けることを目指す。 (共同/15回) (2 永谷 稔/15回) (21 大崎 哲也/15回) (26 小峯 秋二/15回) (30 横山 茜理/15回) (71 五十嵐 美生/15回)	共同
		生活の中の介護福祉	本授業では、少子高齢社会といわれる現代における介護を必要とする人の増加を背景に「介護」に関連する様々な課題が問われていることを踏まえ、「介護」とは何かを考えていく。そして、高齢者福祉、障がい者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には、介護・介護福祉の基本的な知識を学ぶ。そして、介護を取り巻く状況について、社会情勢と関連づけて考える。さらに、介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援の重要性について理解を深める。	
		認知症ケア	○ 本授業では、認知症の方やその家族を支える法制度や施策、認知症の方を取り巻く状況を整理し、認知症の方が「その人らしく」生きることができるケアの考え方を理解することを目的とする。具体的には、認知症の方に適切な支援を提供するためのアセスメントの視点や認知症の特性に応じた支援方法を事例や視覚教材を通して具体的に検討するとともに、認知症の方の家族に対する支援の方法や、地域社会とのつながりの必要性と地域における支援体制の在り方について学ぶ。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	介護の基本Ⅰ	<p>本授業では、介護及び介護福祉にかかわる基本的な考え方等について学ぶことを目的とする。具体的には、介護職に求められる専門性や職業倫理、多職種との連携について学び、介護における安全確保、介護職の安全等について理解を深める。そして、利用者の理解として老化に伴う心身の変化や疾病について、介護に関するところのしくみやからだのしくみについての基本的な理解やその必要性について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (36 竹田 千春/4回) 多様なサービスの理解、介護職の仕事内容や働く現場の理解について担当する。 (142 本間 美幸/5回) 老化に伴うところとからだの変化と日常、介護の基本的な考え方について担当する (67 浅野 美奈子/2回) 医療との連携とリハビリテーションについて担当する。 (121 田中 美雪/2回) 介護職の職業倫理、介護職の安全について担当する。 (133 橋本 抄苗/2回) 介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて担当する。</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
		介護の基本Ⅱ	<p>本授業では、介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支援する専門職として、介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及び倫理を理解することを目的とする。具体的には、高齢者や身体に障がいのある方とのコミュニケーションについて理解し、一人ひとりに適したコミュニケーションをとるための行動例を理解する。また、介護保険制度や障害福祉制度の基本的な理解と各専門職の役割・責務について、その概要を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (29 八巻 貴穂/4回) 介護保険制度、障害福祉制度およびその他制度について担当する。 (117 高橋 銀司/11回) 人権と尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションについて担当する。</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
		生活支援技術	<p>本授業では、介護を必要とする方(要介護者)の尊厳を保持し、その人らしい自立した生活を支えるための介護技術や知識を学び、介護技術の原理・原則およびその根拠となる知識の修得する。そして、介護職員初任者研修関連科目の学びを統合して、総合的な実践力を身につけることを目的とする。具体的には、家事援助の機能と基本原則、基本的な介護技術を学ぶ。そして、要介護者個々の状況と意向を踏まえた介護技術について学ぶ。また、生活場面における環境整備について要介護者の尊厳と自立の視点で考えることができることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)(一部共同) (36 竹田 千春/15回) 生活と家事、快適な居住環境整備と介護、移動・移乗・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護について担当する。 (142 本間 美幸/オムニバス方式4回・共同/4回) 介護過程の基礎的理解について、総合生活支援技術演習を担当する。 (66 相沢 和臣/14回) 整容・入浴・清潔保持・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護について担当する。 (70 五十嵐 修平/オムニバス8回・共同/4回) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護、死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護について、総合生活支援技術演習、振り返り、就業への備えと研修修了後における継続的な研修について担当する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部) 講義45時間 演習45時間

授 業 科 目 の 概 要					
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	介護を必要とする人の理解	<p>本授業では、介護職に求められる要介護者の心身の状況について学習し必要となる知識を習得することを目的とする。具体的には、要介護高齢者の理解を深めるため加齢・老化に伴う変化や疾病について、生理的側面から学ぶ、また、認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を学ぶ。さらに、障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考えについて理解し、介護における基本的な考え方について理解する。介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (27 竹内 美幸/8回) 障害の理解、介護に関するところのしくみの基礎的理解、介護に関するからだのしくみの基礎的理解について担当する。 (110 白川 由美/3回) 認知症を取り巻く状況、認知症に伴うところからの変化と日常生活、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理について担当する。 (112 瀬藤 真理子/4回) 高齢者と健康、家族への支援について担当する。</p>	オムニバス方式	
		行政職専門演習Ⅰ	<p>本授業では、地方自治体の職員として勤務する際に必要な資質・能力を身に付けるとともに、地方自治に関する関係法令や各種課題についての理解を深め、現場で実践していくことができる力を身に付けることを目的とする。具体的には、今後ますます多様化・複雑化していく地方自治体の職員の業務を遂行していくために必要な社会情勢や文化、歴史などの基本的な知識のほか、日本国憲法をはじめ、地方自治に関する法令、地方自治体の条例などの必要な法令への理解を深める学習を行う。</p>		
		行政職専門演習Ⅱ	<p>本授業では、地方自治体の職員として勤務する際に必要な資質・能力を身に付けるとともに、地方自治に関する関係法令や各種課題についての理解を深め、現場で実践していくことができる力を身に付けることを目的とする。具体的には、地方自治体の人口動態や財政状況を学ぶとともに、各自自治体の災害対策や少子高齢化対策、安心安全なまちづくり等の現代的課題を取り上げ、具体的な解決策の検討及び議論を行うことにより、地方自治体職員としての実践力を養う。</p> <p>(共同/全15回) (24 川森 功偉/15回) 公務員の使命、職種と職務内容、公務員採用試験について担当する。 (23 尾山 清龍/15回) 文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈について担当する。</p>	共同	
		福祉基礎	○	<p>本授業では、福祉の支援対象となる方とその方が置かれている環境について理解することを目的とする。具体的には、福祉はすべての人を支援対象としているが、人の出生（乳児）から高齢者まで年代別に、それぞれが抱えている生活実態の現状と課題について学習する。また、障がいのある方とその家族の生活課題についても学習する。これらの学習内容を踏まえ、「人の暮らしと生活」から福祉に関する理解を深めつつ、福祉の支援対象となる人について学習する。</p> <p>(共同/全15回) (31 吉田 修大/15回) 15回すべての講義を担当する。 (8 黒澤 直子/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (37 久野 真知子/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (38 吉田 竜平/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。 (36 竹田 千春/1回) 講義内で実施するグループワークなどの運営補助を担当する。</p>	主要授業科目 共同
		医学概論		<p>本授業では、現代医学の進歩を踏まえて、健康と長寿をキーワードとし、介護や福祉に従事するために必要な身体の構造と機能、しくみを習得する。そして、認知機能や身体機能の障害、それによる正常生活能力の減損を、人間の成長・発達と日常生活との関係を踏まえて理解することを目的とする。具体的には、ライフステージにおける心身の変化と健康課題について学ぶ。そして、人の心と身体のしくみ、健康・疾病の捉え方を理解する。さらに疾病・障害の成り立ち及び回復過程の理解のもとに、福祉・介護の支援を必要とする疾患に関する理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 ス ポー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	心理学概論		本授業では、人間の心のはたらきについての科学的・客観的な理解を得るために、心理学の基礎的な理論や知見を学ぶことを目的とする。具体的には、人間の「見る」「考える」「学ぶ」「覚える」といった基礎的な過程についての知見を解説を行う。また、「欲する」「感じる」といった心理的活動の背景にある生理的・身体的な基盤について解説する。それらを基に、心の個人差や、健康や病理についても考える。個人の自己理解や他者理解を深め、実生活や実践の場にも活用できる知恵へとつながることを目指す。	
	福祉ボランティア実践	○	本授業では、近年、高齢化や災害など、社会全体でボランティアへの関心が高まっており、生活課題を支援する福祉のボランティアについて実践できる基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とする。具体的には、「ボランティア」のあり方について理解を深めるとともに、ボランティアをする人とボランティアを必要としている人についても学ぶ。また、学んだことを生かして、実際にボランティアに参加し講義で学んだ知識を実践する。理論上のだけの理解にとどまらず、実践を通じてボランティアへの理解を深める。	主要授業科目 講義22時間 実習8時間
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	○	本授業では、社会福祉士(ソーシャルワーカー)に求められる相談援助に係る専門的な知識および技術について学ぶことを目的とする。具体的には、演習を通じて自己の理解とともに他者の理解、社会福祉専門職に必要な基本的なコミュニケーション技術および面接技術について実践的に習得する。また、社会福祉専門職に求められる専門的な相談援助技術について理論的に理解しながら、意図的に専門的な知識や技術を用いて実践することができるようになることを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	○	本授業では、ソーシャルワークの過程や展開方法、実践の基盤となるソーシャルワークの概念や知識、技術や理念とのかかわりを理解することを目的とする。具体的には、実際の援助場面を想定しながら、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。また、社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。	主要授業科目
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		本授業では、「その場所」で暮らす全ての人々の尊厳が護られる地域、広くは社会を創造するためにソーシャルワークとソーシャルワーク専門職である、ソーシャルワーカーの果たすべき役割について学ぶことを目的とする。具体的には、ソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士の法的な位置付け、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの基礎となる考え方、そして、ソーシャルワークの誕生から今日に至るまでの歴史的な形成過程について学ぶ。	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		本授業では、ソーシャルワーク専門職の概念、専門職倫理を理解し、社会福祉士及び関連領域の役割について学ぶことを目的とする。具体的には、福祉行政並びに民間の福祉専門職への学び、諸外国の動向も踏まえ、ソーシャルワーク実践についての幅広く理解することを目指す。更に、ソーシャルワーク実践が対象とする範囲を体系的に学習し、その関連も含めて支援の実践について理解する為、事例を用いながら総合的かつ包括的なソーシャルワークについて学びを深める。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	○	本授業では、ソーシャルワークの過程とそれに関わる知識と技術について理解することを目的とする。具体的には、ソーシャルワークにおける援助関係のあり方や面接技術の知識等の理解を通して、人間関係形成のための基礎的なコミュニケーションや対人援助の技法を学ぶ。そして、①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法、②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための知識と技術、③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解することを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		本授業では、ケース(ケア)マネジメント及びグループを活用したソーシャルワークの方法について学ぶことを目的とする。具体的には、ケース(ケア)マネジメントでは、目的及び構成要素とそのプロセス、そして進めていく上で必要とされるコーディネーションや社会資源の活用と開発について理解する。グループを活用した支援では、目的とそのプロセス及びグループダイナミクスを活用した支援の方法について理解し、ソーシャルワークの基本となるスキルを身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 スポー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		本授業では、主にソーシャルワーク実践理論（実践モデル、アプローチ）の基礎について学ぶことを目的とする。具体的には、ソーシャルワーカーとして、対象や状況をどのように理解し、何に焦点をあて、どのように介入していくのかの根拠を与えてくれる非常に重要な科目である。この科目の学習を通して、専門職としての幅の広い実践ができるための多くの視点を身につけることをねらいとする。人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解を深める。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		本授業では、ソーシャルワークの過程とそれにかかる実践的な援助技術の知識・技術についての理解を深めることを目的とする。具体的には、虐待や社会的排除・権利擁護などの具体的な事例を通して、事例分析・事例研究の意義や方法について理解する。また、ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンやコンサルテーションの意義と目的、方法と留意点について学ぶ。さらに、ソーシャルワークの過程における個人情報の保護と留意点について理解を深める。	
	社会保障論Ⅰ		本授業では、社会保障の理念や経済的な機能について解説するとともに、社会保障を構成する諸制度（公的年金、医療保険、介護保険、労災保険、雇用保険、生活保護など）の仕組みについて学び、これにより各制度により保障される生活の水準を理解することを目的とする。具体的には、社会保障の財政事情を解説して、その規模と課題を理解することも合わせて目指す。講義形式で展開し、現代社会とのつながりを理解するため適宜、新聞や専門誌の記事およびVTRを紹介する。	
	社会保障論Ⅱ		本授業では、社会保障の歴史的な展開について理解を深め、社会保障制度を構成する各仕組(社会保険制度)等について学ぶことを目的とする。具体的には、単に日本の社会保障の歴史にとどまらず、ヨーロッパおよびアメリカにおける歴史的展開過程にも言及し、社会保障の特質を解説するとともに、各国の差異とその背景についても理解を深めることを目指す。講義形式で展開し、現代社会とのつながりを理解するため適宜、新聞や専門誌の記事およびVTRを紹介する。	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		本授業では、地域福祉の基本的な考え方や現代社会における多様化・複雑化した地域生活課題の状況、それに対応する包括的な支援体制の実現に向けた仕組みづくりについて理解することを目的とする。具体的には、サービス、IT、金融などの第三次産業に従事する人々の比率が高まるにつれて、8050問題、ダブルケア、ヤングケアラーなどの工業社会では見られなかった複雑で多様化した新しい社会的リスクが出現しているを踏まえて解説を行う。これらの地域生活課題に対応することが可能となるよう、わが国では「地域共生社会」の実現と「地域包括ケアシステム」の構築が進められていることを理解を深める。	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		本授業では、地域福祉と包括的支援体制Ⅰと連動し、地域福祉の主体や対象、地域福祉に関わる組織や団体及び専門職の役割や実際について学習することを目的とする。具体的には、地域福祉におけるネットワークづくりや組織化の意義や方法、地域福祉の基盤づくりなどの地域福祉の推進における具体的な方法について学んでいく。これらの学びを通じて、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念、地域福祉の推進のための福祉行政の実施体制とその役割、地域福祉計画をはじめとする福祉計画の意義や目的及びその展開について理解する。	
	児童・家庭福祉		本授業では、児童福祉における歴史的経緯と現在の理念、施策について学び、子どもをめぐる課題について理解することを目的とする。具体的には、子どもが権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭とそれを取り巻く社会環境についての理解、少子化の問題への取組み、子育てを支援する仕組み、働き方等の社会のシステムと今後の方向性について学ぶ。子どもの健全育成をテーマに、家庭の支援も含めて子どもが育つ環境等も対象とするものになってきていることを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ス ポ ー ツ と 健 康 の 理 論 に 関 す る 科 目 群	高齢者福祉	本授業では、高齢者の生活実態とその諸課題、介護保険制度などの高齢者福祉施策について学ぶことを目的とする。具体的には、高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者と家族等とこれを取り巻く社会環境について理解する。また、高齢者福祉の歴史、高齢者観の変遷、高齢者福祉制度の発展過程について理解する。さらに、高齢者および家族等への支援に必要な法制度や支援の仕組みについて理解する。これらの授業目的に沿って、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士として高齢者およびその家族への適切な支援のあり方を理解する。	
		障害者福祉	本授業では、障がいのある人の権利を基礎に、障がい者（児）支援の基本的理念を理解することを目的とする。具体的には、障がい者の支援はライフステージ全域にわたり、その領域も福祉、保健医療、労働、教育等多岐にわたっていることを踏まえ、障がい者（児）の生活実態や生活ニーズの把握、障がい者福祉の発展過程および障がい者に関わる法や施策の概要を理解する。また、障がい者（児）の生活を支える障害者総合支援法における障害福祉サービスについて学ぶ。	
		公的扶助論	本授業では、ワーキングプア、ホームレス、孤立死等の事象を踏まえて生活保護制度を中心に、公的扶助制度がそうした社会問題にどのような役割をはたしているかを理解することを目的とする。具体的には、公的扶助の歴史、仕組み、実態体制等について学ぶとともに、これからの貧困問題についても考える。生活保護制度は日本国憲法第25条に基づくものであり、最後のセーフティネットとして位置付けられるが、長引く不況の中で貧困格差が大きくなり、様々な社会問題が浮上してきていることを理解する。	
		社会福祉調査の基礎	本授業では、社会福祉に関連付けながら社会調査の意義、目的、方法の概要を学ぶことを目的とする。具体的には、質的・量的社会調査の手順や分析方法等の講義、実り多く恣意的でない調査結果を得るための調査方法、また、調査対象者への配慮に欠ける調査の問題点を例示しながら、社会調査に求められる倫理についても学びを深める。社会調査における調査者の恣意的な解釈を排除するためには、調査・分析の手続きの可視化が求められることを理解する。	
		医療福祉論	本授業では、保健医療分野におけるソーシャルワークについて、その理念、価値、視点を学ぶことを目的とする。具体的には、保健医療の歴史的背景や制度・政策動向、社会環境の変化を理解することを通して、疾病や障害を負うことによって生じる生活の諸問題について学び、この分野を入口とした他福祉分野との関連についても理解を深める。また、ソーシャルワークの過程で必要となる医療保険制度や保健医療サービス、さらに実践現場における専門職の役割と実際、他職種協働についての理解を深める。	
		権利擁護と成年後見制度	本授業では、今日の契約社会において、自ら契約することが難しい人々や誰かの助けがあれば日常生活を営むことができる人々の「権利を護る」ことについて学ぶことを目的とする。具体的には、権利を護るにはどのような制度があり、その制度を利用するためにはどのような方法があるのか等について学ぶを深める。社会福祉基礎構造改革以降、福祉サービス利用者は「利用契約制度」が中心となり、ソーシャルワークにおいても、利用者の「権利をいかに護るか」、「自己決定をどのように尊重するか」は重要な課題であることを理解する。	
		司法福祉論	本授業では、罪を犯した人たちが一定の刑事司法手続きを経て社会に戻ってきた際の社会的受け入れが問題となっていることを踏まえ、問題にアプローチするための就労、住居、人とのつながり支援の必要性、司法と福祉の連携の重要性について理解することを目的とする。具体的には、少年犯罪や刑事司法の法的な手続き、処遇、活動する組織、団体及び専門職について理解だけでなく、福祉的支援の必要性と相談援助活動、関係機関や専門職との連携など支援の実際について学びを深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目 スポーツと健康の理論に関する科目群	社会学と社会システム		本授業では、現代生活の特性、生活の多様性、人と社会の関係、社会問題とその背景について理解することを目的とする。具体的には、受講者が社会的な生活やその中で生じる諸問題の仕組みを理解し、得た知識を実生活で応用する方法を学ぶ。人々は常に自身の内や外の社会とともにある社会的な存在である。つまり誕生前から死後も、個人として、また集団、地域社会、国、世界の一員として、常に他者に影響を与え、与えられる存在である。社会学は、その仕組みや影響を独自の視点、言葉、考え方を使って説明・解明することを目的とすることを理解する。	
	福祉サービスの組織と経営		本授業では、福祉サービスに関わる供給主体について学ぶことを目的とする。具体的には、適切かつ効果的な福祉サービスを提供するための理論や福祉サービス管理に必要な経営と運営管理について学ぶ。社会福祉基礎構造改革以降、福祉サービスの供給主体は多角化が進行しており、準市場においてサービスを調達することになったことを理解する。さらに、社会福祉法によりわが国の福祉は、「地域福祉」が中心となり、地域生活支援が福祉の主要なテーマとなった。その結果、福祉の動向を踏まえたような供給主体が競合した中で、安定した質の高いサービスをどのように提供していくか、ということが供給主体にとって重要になったことについての理解を深める。	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ		本授業では、社会福祉に関する原理的な事柄や問いについて理解することを目的とする。具体的には、社会福祉の歴史、思想・哲学・理論、社会問題と社会構造、社会政策の基本的な視点について学ぶ。社会福祉は政策と実践から構成されるという説明があるが、その前提には、社会福祉が社会的な現実として存在しているという認識がある。では、現実に存在する社会現象としての社会福祉の存在理由・存在基盤とは何か。また、社会福祉はなぜ存在しているのか。という問いをセットで捉え、社会福祉を成り立たせているもの（社会福祉の原理）とその理論体系の根本となる理論（社会福祉原論）について学びを深める。	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		本授業では、現代社会の特質と福祉政策の動向を結びつけながら理解し、現状に関する批判的視点を育てることを目的とする。具体的には、福祉政策の理念、構成要素、歴史に関する基本的な内容と、国際比較も含めた今日的な課題や動向について取り扱う。21世紀の世界は、すべての人々が社会的に包摂され、多様性が尊重され、人間の尊厳が護られた環境で生きていくことができる状態を目指している。よって、社会福祉は時代の流れに敏感であるとともに、ナショナルなレベルにとどまらず、グローバルな視野をもつ必要があることについて学びを深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	社 会 福 祉 士 に 関 す る 科 目 群	ソーシャルワーク演習Ⅲ	本授業では、具体的な事例をもとにして支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援およびマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。様々な事例に応じたニーズを把握し、ソーシャルワーカーとしての対応や援助を理解し、社会資源やネットワークの活用の仕方を修得することを目的とする。具体的には、ソーシャルワークの対象が多岐にわたるとともにその内容も様々であることを理解し、ソーシャルワーカーとしての援助も個々のケースに即して柔軟に対応するとともに様々な専門職と連携し、総合的かつ包括的に展開することが求められることを学ぶ。	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	本授業では、ソーシャルワーク実習で得た個別的体験を一般化し、実践的な知識と技術の定着を図ることを目的とする。具体的には、面接技術や利用者理解の内容について匿名化された具体例を用いて事例研究や事例検討を行い、その意義や方法を具体的に理解するとともに、自己決定やエンパワメントに基づくソーシャルワーク実践について考え、専門職としての価値観や倫理観を養成する。実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。演習形式で展開し、グループワークを通してソーシャルワークについての理解を深める。	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	本授業では、地域を基盤としたソーシャルワーク実践のために必要な価値、知識、技術を実践的に理解することを目的とする。具体的には、地域特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等について、事例やグループワークを通して学び、コミュニティワークの技法を身につけていく。また授業後半は、ソーシャルワーク実習Ⅱの実習経験を取り上げ、その背景にある理論を確認し理解を深める。コミュニティワークの技法がどのように使われていたのか、地域を基盤としたソーシャルワークについて、実習経験に基づいた理論を身につける。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本授業では、ソーシャルワーク実習の事前準備を目的とする。具体的には、社会福祉士になるために必要な実習及び指導、社会福祉士倫理綱領や個人情報保護に関する知識など、実習生として身につけるべき内容について扱う。また、社会福祉現場で活躍するソーシャルワーカーによる講義を受け、実際に展開されているソーシャルワーク実践について学ぶ。さらに、ソーシャルワーク実習終了までのプロセスや実習生の権利と義務、職場、ソーシャルワーカー、利用者への理解を深め、実習イメージを具体化する。 (共同/全15回) (38 吉田 竜平/15回) (37 久野 真知子/15回) (8 黒澤 直子/15回)	共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	本授業では、前期はソーシャルワーク実習Ⅰの目的を理解し、必要な知識と技術を備えてソーシャルワーク実習Ⅰに効果的に取り組むことができるよう準備することを目的とする。具体的には、事前実習の実施、実習計画書の作成、実習前評価に取り組み、ソーシャルワーク実習Ⅰへの準備を整えていく。後期は実習報告書の執筆と、実習報告会でのプレゼンテーションを最終目的とする。具体的には、実習中は経験に留まっていたことを、実習計画の成果や事例研究の発表などを通して理論化、言語化できることを目指す。また、実習体験を学生間で共有することにより、個々の実習成果を自覚的に把握することもねらいとする。通年による指導を演習形式で展開する。 (共同/全30回) (8 黒澤 直子/30回) (37 久野 真知子/30回) (38 吉田 竜平/30回)	共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	本授業では、事前指導・事後指導を通して、支援を必要とする人やその地域の状況、その生活上の課題について理解し、施設・機関等が地域社会の中で果たす役割、総合的かつ包括的な支援における多職種・他機関、地域住民等との連携の在り方及びその具体的内容を実践的に理解することを目的とする。具体的には、ソーシャルワーク実習Ⅱへの目的意識を明確化させるとともに、実習計画書作成や事前学習等を含めた実習への準備を進め、実習後は振り返りを行う。 (共同/全15回) (8 黒澤 直子/15回) (37 久野 真知子/15回) (38 吉田 竜平/15回)	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
社会福祉士に関する科目群	ソーシャルワーク実習Ⅰ		本実習では、実習先における180時間以上のソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに関わる知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得することを目的とする。具体的には、事例研究等に取り組み、社会福祉士として求められる資質、技能、価値(倫理)について理解を深め、自己の課題を把握する能力を習得する。また、関連分野の専門職との連携の取り方とその内容について実践的に学ぶ。実習指導者によるスーパービジョン、指導教員による帰校日指導、実習先での訪問指導を行い、設定した実習課題が達成されるよう指導する。	共同
	ソーシャルワーク実習Ⅱ		本実習では、支援を必要とする人やその地域の状況、その生活上の課題について理解し、施設・機関等が地域社会の中で果たす役割、総合的かつ包括的な支援における多職種・他機関、地域住民との連携の在り方及びその具体的内容を実践的に学ぶことを目的とする。さらに、地域を基盤としたソーシャルワークに関する知識・技術・倫理等についての理解を深める。具体的には、実習先における60時間以上のソーシャルワーク実習を通して、設定した実習課題が達成されるよう巡回指導等により指導を行う。	共同
	社会福祉専門職演習Ⅰ	○	本授業では、社会福祉士を目指す自己の進路を見据えて、資格取得に必要な知識の修得、社会福祉士国家試験の概要理解、自らの学習方法やこれまでの実績を振り返り、今後の受験勉強の基盤を作り始める、さらに、次年度の社会福祉専門職演習Ⅱ～Ⅴへの連動させることを目的とする。具体的には、受験科目全19科目のワークノート学習に取り組み、学習方法や学習習慣を身につけていく。また、実際に社会で働く社会福祉士の話しを直接聞くことによりモデル形成を図る。更に、受験勉強レベルの授業や模擬試験も体験する。	主要授業科目
	社会福祉専門職演習Ⅱ	○	本授業では、社会福祉士国家資格取得のために必要な知識を修得し、国家試験合格に向けた学習スキルや学習習慣を身につけることを目的とする。具体的には、社会福祉専門職演習Ⅲと連動させて展開し、受験科目全19科目について、過去3年分の問題を活用しながら、①自分で解く、②解説、グループワーク、調べ学習等を通して問題の内容を理解する、③復習する、という学びの循環を作っていく。全科目において、この循環を経験することで、学習スキルと学習習慣を身につけ、知識の定着を目指していく。学習成果を確認するための模擬試験も実施する。	主要授業科目
	社会福祉専門職演習Ⅲ	○	本授業では、社会福祉士国家資格取得のために必要な知識を修得し、国家試験合格に向けた学習スキルや学習習慣を身につけることを目的とする。具体的には、社会福祉専門職演習Ⅱと連動させて展開し、受験科目全19科目について、過去3年分の問題を活用しながら、①自分で解く、②解説、グループワーク、調べ学習等を通して問題の内容を理解する、③復習する、という学びの循環を作っていく。全科目において、この循環を経験することで、学習スキルと学習習慣を身につけ、知識の定着を目指していく。学習成果を確認するための模擬試験も実施する。	主要授業科目
	社会福祉専門職演習Ⅳ	○	本授業では、社会福祉専門職演習ⅡⅢの学びを土台とし、社会福祉士国家試験合格をより確実なものとしていくための知識の確立や受験技術を習得することを目的とする。具体的には、社会福祉専門職演習Ⅴと連動させて展開し、受験科目全19科目について、模擬問題集や予想問題集等を活用しながら知識の幅を広げていく。①予習する、②問題を解き、解説やグループワークを通して理解度を確認する、③復習する、という学びの循環を確立し、苦手科目や頻出問題に焦点を当てて重点的に取り組む。また、直近の社会福祉士国家試験合格者による講話を聴き、学習方法や技術を学ぶ機会とする。	主要授業科目
	社会福祉専門職演習Ⅴ	○	本授業では、社会福祉専門職演習ⅡⅢの学びを土台とし、社会福祉士国家試験合格をより確実なものとしていくための知識の確立や受験技術を習得することを目的とする。具体的には、社会福祉専門職演習Ⅳと連動させて展開し、受験科目全19科目について、模擬問題集や予想問題集等を活用しながら知識の幅を広げていく。①予習する、②問題を解き、解説やグループワークを通して理解度を確認する、③復習する、という学びの循環を確立し、苦手科目や頻出問題に焦点を当てて重点的に取り組む。学習の到達度合いを確認するための模擬試験も実施する。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別支援教育に関する科目群 学科専門科目	特別支援教育専門職演習		本授業は、学校体育における諸問題や指導方法についての認識を深め、学校教育現場において、児童・生徒に健康やスポーツに関する基礎的な知識や技術を習得させ、「生きる力」を育成することのできる保健体育教員のための能力と資質を習得することを目的とする。具体的には、現在の学校教育や体育現場における諸問題について、10名程度のグループで集団討議を行い、その認識を深める。また、実際に教師となった場合の諸問題に対しどのように対処し、行動するかをロールプレイによって検討する。	
	特別支援教育総論	○	本授業では、特別支援教育の理念や歴史、障害のある幼児児童生徒に関わる教育の思想、特別支援教育に関する制度と教育課程、各障害における教育内容や諸課題について学び特別支援教育についての正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、特殊教育から特別支援教育へと制度が大きく転換した流れとその基本的な考え方を始め、障害のある児童生徒のこれまでの教育の歴史や思想について学ぶ。また、「障害」の捉え方の変化と諸制度の現状、障害種に対応した指導や支援の実際と諸課題を整理しながら、特別支援教育における基礎的・基本的な知識の習得を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (13 立田 祐子/3回) 特別支援教育の制度及び知的障害教育、保護者対応の基本について担当する。 (12 瀧澤 聡/4回) 特別支援教育の歴史と理念、特別支援学級、通級指導教室で学ぶ児童・生徒の諸課題について担当する。 (14 野戸谷 陸/2回) 肢体不自由・病弱の児童・生徒の心理、実態に応じた補助具、ICTの活用を行う上での留意点、入院期間の短期化、入退院の繰り返しなど、学習の空白への対応など諸課題について担当する。 (54 石塚 誠之/2回) 自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害のある児童生徒に対してのICTの活用方法や指導・支援の基本について担当する。 (43 小原 直哉/2回) 全盲、弱視に対する点字や白杖の指導の在り方、視覚障害教育についての基礎的・基本的な知識について担当する。 (44 上林 宏文/1回) インクルーシブ教育の理念やその現実による共生社会の形成の意義について担当する。 (107 佐藤 至英/1回) 聴覚障害教育の実際と諸課題について担当する。	主要授業科目 オムニバス方式
	知的障害者の心理・生理・病理		本授業では、知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知特性の把握、家庭や医療機関との連携の重要性について正しい知識を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (54 石塚 誠之/7回) 幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知特性の把握について担当する。 (107 佐藤 至英/8回) 知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴ならびにそれらの相互作用について担当する。	オムニバス方式
	肢体不自由者の心理・生理・病理		本授業では、肢体不自由の起因疾患（脳原性疾患、脊髄性疾患、末梢神経疾患）となる病理面の理解と心理的及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解することを目的とする。具体的には幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することについて学び、家庭や医療機関との連携についても理解することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (14 野戸谷 陸/9回) 観察検査を通しての実態把握、家庭や医療機関との連携について担当する。 (140 古俣 春香/3回) 起因疾患と反射と反応について担当する。 (150 皆川 悦子/3回) 運動の発達段階について担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別支援教育に関する科目群 学科専門科目	病弱者の心理・生理・病理		本授業では、循環器疾患、腎臓系疾患、神経系疾患、悪性新生物、心身症など病弱教育（身体虚弱を含む）の対象となる各疾患に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解することを目的とする。具体的には、幼児、児童又は、生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校観、関係機関との連携について理解することを目指す。	
	知的障害教育Ⅰ		本授業では、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（知的障害）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解することを目的とする。具体的には、特別支援学校（知的障害）の教育において教育課程が有する意義を学び児童・生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いについて正しい知識を身につける。	
	知的障害教育Ⅱ		本授業では、知的障害のある児童・生徒の障害の状態や特性および心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることを目的とする。具体的には知的障害の状態や特性および心身の発達段階に応じた自立活動及び自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成し、授業改善の視点を身につける。	
	肢体不自由教育Ⅰ		本授業では肢体不自由特別支援学校の教育において特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として編成される教育課程が有する意義を理解することを目的とする。具体的には、生きる力としての知・徳・体に加え、幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに肢体不自由特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの方を理解することを目指す。	
	肢体不自由教育Ⅱ		本授業では、日本の肢体不自由教育の歴史と肢体不自由のある児童生徒に対する教育の基本的な考え方を理解するを目的とする。具体的には、特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントについて、学校の実践例を通して理解を深める。さらに、肢体不自由教育における各教科等と自立活動の指導について、実践事例を通して、指導内容・方法の理解を深める。加えて、児童生徒の健康維持・向上に必要な摂食指導や医療的ケアについて学校の実践例を通して理解することを目指す。	
	病弱教育		本授業では、病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義や現時的課題を考えるとともに、病弱・身体虚弱児の教育的ニーズや学びの場、教育課程の特徴を理解することを目的とする。具体的には、病弱教育の対象である主な疾患の特徴を知り、病類に応じた指導や配慮事項、自立活動の指導との関連について理解し実際の事例等に基づいて病気療養児の心理や支援の方法や家庭や医療機関との連携について学び、病弱教育における専門性を考えることを目指す。	
	視覚・聴覚障害者の心理・生理・病理		本授業の目的は、視機能の低下の要因及び聴覚障害の起因となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の視知覚や触知覚及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や保健、医療、福祉及び労働機関との連携について学ぶことである。具体的には、視機能の低下の要因となる心理面及び生理面の特徴、それらの相互作用について学ぶ。また、聴覚障害の起因となる聴覚器官の病理面と心理面の特徴、それらの相互作用について学ぶ。そして、観察や検査を通して、一人一人の視知覚、触知覚、認知の特性を把握することや聞こえの状態と言語面、心理面の特性と発達を把握することの理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (107 佐藤 至英/4回) 聴覚障害に関する内容を担当する (43 小原 直哉/4回) 視覚障害に関する内容を担当する	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別支援教育に関する科目群 学科専門科目	視覚・聴覚障害者の教育課程及び指導法		<p>本授業の目的は、特別支援学校（視覚障害・聴覚障害）の教育において教育課程が有する意義を理解し、幼児、児童又は生徒の視覚障害・聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等ならびに特別支援学校（視覚障害・聴覚障害）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。さらに、視覚障害・聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場を想定した授業設計の方法を獲得することである。具体的には、視覚障害・聴覚障害の状態や特性、心身の発達の段階や学習の深度を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、必要な授業時数の編成について学ぶ。自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取り扱いを理解し、教科と自立活動の目標設定の手続きの違いを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (43 小原 直哉/4回) 視覚障害に関する内容を担当する。 (107 佐藤 至英/4回) 聴覚障害に関する内容を担当する。</p>	オムニバス方式
	重複障害者の心理・生理・病理		<p>本授業では、重複障害児の心理・生理・病理に関して、肢体不自由な知的障害を併せ有する重度・重複障害児を中心に、その原因や特性、基本的な対応などについて理解を深めることが目的とする。具体的には、特別支援学校における教育実践の動画や画像などを多く取り入れて紹介するとともに、具体的な事例を通して学ぶ。それにより、特別支援学校で求められる障害の重度・重複化、多様化に伴い、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導及び支援につなげる。</p>	
	重複障害者の教育課程及び指導法		<p>本授業では、視覚障害を伴う重複障害児を対象の中心として、教育課程と指導法について理解を深めることが目的とする。具体的には、特別支援学校における教育実践の動画や画像などを多く取り入れて、教育現場の情報を紹介する。それにより、特別支援学校で求められる障害の重度・重複化、多様化に伴い、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導及び支援につなげる。</p>	
	発達障害者等の心理・生理・病理		<p>本授業の目的は、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)などの発達障害のある幼児、児童又は生徒の認知機能や心理特性、生理、病理についての理解を深め、発達障害の心理学的な特徴や特性をアセスメントする主な方法について理解する。そして、家庭、医療、行政機関等との連携の重要性と意義を理解することを目的とする。具体的には、授業ごとに、発達障害のある幼児、児童又は生徒の心理特性などの情報に関する動画や画像などを多く取り入れながら、発達障害児者の障害特性とニーズ、実態把握の方法について学ぶ。また、家庭や医療、福祉、労働機関との連携の重要性について理解する。</p>	
	発達障害者等の教育課程及び指導法		<p>本授業の目的は、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)の認知機能や心理特性に応じた教育課程の編成や指導方法、個別の指導計画立案について学ぶことである。具体的には、特別支援学校学習指導要領の指導領域の一つである「自立活動」を通して、発達障害のある幼児、児童又は生徒の認知機能や心理特性の諸課題についてアセスメントを通して明確にし、効果的な指導内容および指導法の実際について理解を深める。また、動画や画像などを多く取り入れながら、発達障害のある幼児、児童又は生徒の心理特性などの情報に関する理解を深める。</p>	
	特別支援教育実習事前指導		<p>本授業では、特別支援学校の教育実習にあたっての心構えや学校の組織、通常の学校と異なる留意事項等についての理解することを目的とする。具体的にはそれぞれが実習を行う学校種別に分かれて学習指導案について再度学習するとともに、実際に学習指導案を作成する。そしてその指導案に基づき模擬授業を行う。模擬授業後の反省会において授業評価を行い、実際の実習に活かすことを目指す。</p> <p>(共同/全15回) (14 野戸谷 睦/15回) (12 瀧澤 聡/15回) (13 立田 祐子/15回)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	特別支援教育実習事後指導		本授業では、特別支援学校における教育実習を終えて、それぞれが自身の教育実習を振り返り、経験したことを基に交流を行い、自身の体験を意味あるものとして捉えたいと、実習報告会を開催し、教職に対する意欲を喚起することを目的とする。具体的には、教師としての資質向上に向けて、教育実習の自己評価をすることともに、より意欲的に取り組む態度を身につけることを目指す。 (共同/全8回) (14 野戸谷 睦/8回) (12 瀧澤 聡/8回) (13 立田 祐子/8回)	共同
	特別支援教育実習		本授業では、特別支援学校において、学校経営の方法、学校評価の方法、保護者との連携、児童生との安全、地域における特別支援教育センター的機能の実際を理解することを目的とする。具体的には各教科、道徳、特別活動、自立活動、同号的な学習の時間の観察を行い、その後学習指導案を作成し、実際の授業を行う。また、学級経営の基礎や生徒指導についても理解を深めことを目指す。	共同
外国人留学生科目	日本語		本授業では、外国人留学生が本学でのコミュニケーション・学習・発表がスムーズに行えるように、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四つの技能の向上を目指す。そして、日本の文化、事情、風習、マナーなどを理解し、日本での留学生生活がより有意義なものとなることを目的とする。具体的には、小説を読むことを通して日本語の発音や読み方を確認する。そして、語彙と文法事項、漢字などの学びに加えて、日本の事情や文化等を扱ったニュースに触れ、日本の演劇鑑賞などを教材として学ぶ。	
	現代日本の文化		本授業では、留学生の出身国(地域)における自国の文化認識を確認し、それらと比較しながら、日本文化や地域文化(北海道)の内容について理解を深めることを目的とする。具体的には、出身国(地域)の文化認識の確認することから始め、日本の伝統文化である「食文化」「文化遺産」「スポーツ」「芸術」「マンガ・アニメ」「生活習慣」等を学ぶ。また、「博物館体験授業」を通して、北海道の地域文化を理解する。	

学校法人北翔大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北翔大学				北翔大学				
生涯スポーツ学部				生涯スポーツ学部				
スポーツ教育学科	180	10	740	スポーツ教育学科	0	10	20	令和8年4月学生募集停止 令和10年4月編入学生募集停止
健康福祉学科	40	5	170	健康福祉学科	0	5	10	令和8年4月学生募集停止 令和10年4月編入学生募集停止
<u>計</u>	<u>440</u>	<u>35</u>	<u>1,830</u>	<u>計</u>	<u>220</u>	<u>15</u>	<u>910</u>	学部の学科の設置(届出)
教育文化学部				教育文化学部				
教育学科	120	10	500	教育学科	120	10	500	
芸術学科	50	5	210	芸術学科	50	5	210	
心理カウンセリング学科	50	5	210	心理カウンセリング学科	50	5	210	
<u>計</u>	<u>440</u>	<u>35</u>	<u>1,830</u>	<u>計</u>	<u>440</u>	<u>50</u>	<u>1,860</u>	※完成時編入学定員35人、収容定員1,830人
北翔大学大学院				北翔大学大学院				
臨床心理学研究科				臨床心理学研究科				
臨床心理学専攻(M)	4	—	8	臨床心理学専攻(M)	4	—	8	
生涯学習学研究科				生涯学習学研究科				
生涯学習学専攻(M)	6	—	12	生涯学習学専攻(M)	6	—	12	
生涯スポーツ学研究科				生涯スポーツ学研究科				
生涯スポーツ学専攻(M)	6	—	12	生涯スポーツ学専攻(M)	6	—	12	
生涯スポーツ学専攻(3年制D)	3	—	9	生涯スポーツ学専攻(3年制D)	3	—	9	
<u>計</u>	<u>19</u>	<u>—</u>	<u>41</u>	<u>計</u>	<u>19</u>	<u>—</u>	<u>41</u>	
北翔大学短期大学部				北翔大学短期大学部				
こども学科	110	—	220	こども学科	110	—	220	
<u>計</u>	<u>110</u>	<u>—</u>	<u>220</u>	<u>計</u>	<u>110</u>	<u>—</u>	<u>220</u>	